

頼、缺、乏、若、し、は、乞、食、の、恐、怖、を、思、ひ、て、こ、れ、を、な、さ、ん、こ、と、を、誠、む、る、も、の、な、り、
吾、人、は、有、ら、ぬ、階、級、の、男、女、が、自、ら、助、け、己、の、方、に、依、頼、し、自、己、の、貯、蓄、に、よ、り、
て、支、持、せ、ら、る、に、至、ら、ん、こ、と、を、希、望、し、て、已、ま、さ、る、な、り、囊、中、の、一、錢、は、慇、懃、な、
る、朋、友、に、優、れ、も、の、諺、は、真、な、れ、ば、な、り、一、錢、の、貯、蓄、は、世、に、處、す、る、第、一、歩、な、り、
貯、蓄、の、事、實、は、克、己、と、遠、慮、と、謹、慎、と、智、識、と、を、表、示、す、る、も、の、な、り、未、來、の、幸、福、
の、萌、芽、た、る、べ、く、獨、立、の、原、始、た、る、べ、し、

コ、レ、は、常、に、人、々、が、貯、蓄、す、べ、き、物、を、有、せ、り、と、語、る、の、已、に、人、を、侮、辱、し、た、
る、節、の、な、る、こ、と、を、明、言、し、貯、蓄、銀、行、の、空、計、を、嘲、笑、し、居、た、り、さ、れ、ど、貯、蓄、銀、行、
は、最、下、層、の、階、級、に、使、用、せ、ら、れ、た、る、よ、り、す、れ、ば、彼、は、他、の、見、解、に、於、て、誤、れ、る、
が、如、く、又、此、見、解、に、於、て、も、誤、り、た、る、も、の、な、る、を、見、る、べ、し、若、し、そ、れ、貯、金、す、る、
に、最、も、便、利、な、る、貯、蓄、銀、行、な、か、り、せ、ば、思、ふ、に、無、數、の、人、々、は、一、錢、づ、つ、貯、蓄、す、
る、こ、と、を、ば、思、ひ、も、寄、ら、ざ、り、し、な、る、べ、し、臺、所、に、於、け、る、小、貯、蓄、は、餘、ゆ、に、手、近、
な、る、も、の、な、り、積、ん、で、或、る、額、に、達、せ、さ、る、以、前、早、く、も、已、に、消、失、せ、ん、さ、れ、ど、一、
シ、ル、リ、ン、グ、の、小、額、も、貯、蓄、せ、ら、れ、得、べ、き、場、所、の、備、へ、ら、る、人、々、は、急、ぎ、て

貯蓄銀行
の起原

此場所を使用するに至るなり。

最初の貯蓄銀行は十八世紀の終り、ミッドルセックスのトットンハム寺
領なるツリウエイクフィールド嬢によりて始められたり。當時彼女の
目的は、主として貧民子弟の節儉を奨励せんとするに在りき。實驗は頗る成
功を得たり。而して一千七百九十九年にはウエンドンのジョセフ・スミス僧
は、夏期の間、其寺領住民より少額の金錢を受取り、謹慎と遠慮との奨励とし
て、これに其三分の一を加へ、クリスマスに之を返す計畫を始めたり。續いて
ウエイクフィールド嬢は、スミス氏の例に倣ひ、一千八百四年、慈善銀行の計
畫を擴張し、これに成人労働者下女等をも加へたり。一千八百八年之に類似
したる組織は、パース市の貴夫人等によりて設けらる。同時にホイットブレ
ン下氏は、労働社會の使用に便する銀行を、國家的組織に形成せんことを議會
に提出したり。されど其提出に對しては何事も起らざりき。

其後、スウェーデンの貧乏寺領、フランスの「僧」ヘンリッ、ダンカン
氏、此問題を手にするに至りて、貯蓄銀行組織は、公然開設せらるるに至りた

フランス
のダン
カン

り其寺領の住民は、多くは貧民にして、平均賃金は毎週四圓以上に上ることなかりき。同地方は製造者もなく、又人口を支持する何等の手段もなく、唯僅に土地の耕作によりて得らるゝものあるのみに過ぎざりしも、其土地の所有者は、多くは其地の住民にあらざりき。されど此地に貯蓄銀行を創設するが如きは、極めて不相應なるが如き感ありき。蓋し此地の貧民は僅少なる生活費を得るに全力を盡くし、其子を教育するの手段を備へ、蘇國スコットランドの農夫は、其收入如何許り小なりとも、子弟を學校に送らんがために多少の貯蓄を敢てしたり。寺領の友情會に少許の餘金を支拂はざるべからざりしを以てなり。されど精神的訓育に對する助力として、僧正は實驗を試みんことを決心したり。

多數の勞働者は、僧侶の深遠なる議論も了解すること能はざりしが、少數の敏捷なるものは、一家の幸福并に勞働者が自己日々の愉快と自尊とに關する、實地的忠告の一部を賞翫し得たり。ダンカン博士は、如何なる貧乏の家庭にても、不必要なる消費のために、顧みらるゝことなき収入の斷片あるこ

とを知れり。博士は先づ或る勤儉なる小舎の住人等が、牝牛、豚若しくは庭園の一端を利用する方法によりて、牛乳、バター、醃豕肉、及び庭園の産物等を其報酬として得るを見たり。又他の村人等が之に似たる方法に依りて、夏期の貯蓄を準備し、能く小資本によりて相應の利益を得るを見たり。

貯蓄銀行
の設立

是に於て、最初の自助組織たる、ルースウルの寺領貯蓄銀行は設立せられたり。後四年にして、此貯蓄銀行の資金は、一萬圓に達したるを見ても、僧正の計畫の不正ならざりしを知るに足らん。貧乏村民にして、毎週四圓の所得中より、婦人勞働者、下僕等は、猶これより以下の收入中より、各貯蓄して斯の如き資金を得るに至れりとせば、毎週十五圓乃至十七圓の所得を得る職工、技術家、坑夫、鐵工等の、何をか成し得ざる理あらんや。

ダンカン博士の聞きたる先例は、英蘇の多數の都市及び地方に於て模倣せられ、而して自助の主義は採用せられたり。斯くて建設せられたる貯蓄銀行は、布施を以て成れる組織にあらず、亦仁慈恩恵に依頼せるものにもあらず、其成功は、全く投資者の力に在るものなりき。彼等は、貧民救助法の施物に

依頼せず、自己の勤儉の産物を用ふることを注意周到にして、以て自己の資力に依頼し、生活の爲めに遠慮と経済とを實行し、自尊と自立との念を養ひ、老年に於ける愉快と支持とのために豫め準備すべきことを、労働社會に奨勵したるなり。

その目的にて貯蓄銀行の設立は、遂に國家問題として承認せらるゝに至り、一千八百十七年、一法令は議會を通過し、其數を増加し、其必要擴張せられ、爾來其効功と安全とを増加するの目的を以て、種々の方法は採用せられ、然れども、但此等の組織は、偉大なる善事を成就したるに拘はらず、高級の賃金を受くる労働者等が之を利用するの度は頗る低くして、年々労働者の所得として算せらるゝ四千萬中の極少部分のみ、僅に貯蓄銀行に送られ、少くも其二十倍は、年々麥酒店及び旅館に於て浪費せらるゝなり。

貯蓄者の階級

貯蓄銀行に金錢を積む職工男女は、高級の賃金を受くるものに、あらずして、寧ろ比較的中級の収入を得る所の者なり。マンチェスター及びサルラスタッド貯蓄銀行に於ける最多數なる貯蓄者は、家庭に於ける婢僕にして、之に

次ぐものは、書記、番頭、運搬夫、坑夫等なり。力役者、技術者、職役等は、貯蓄の僅に三分の一のみを、そは一般に製造地方に於て同一状態なり。後數年、ダンデーに於ける多數の婦人貯蓄者中、僅に其一人は、工女にして、其他は多く下婢なりしを發見せられたり。

更に注目し、價する一事實あり、即ち賃金最高なる地方に於ては、其最低なる地方に於けるが如き貯蓄の習慣流行せざることなり。郵便貯金制度の實施以前に於ては、英國中殆ど最低賃金なるウイルツ及びドルセットの住民は、英國中最高賃金なるランカシャー及びヨークシャーに於けるよりも、多額の賃金を貯蓄したり。試みにヨークシャーを取りて、之を製造地方と農業地方とに分ち見るに、ヨークの西ライディングの製造住民は、人口平均一人について、二十五シリングを貯蓄銀行に預け入るれども、東ライディングなる農業住民は、其三倍の額を貯蓄せり。

兵卒は、最下級の労働者よりも、猶非常に低き給料を受くるものなり、而も毎週三四シリングを受くる労働者よりも、多額の金錢を貯蓄銀行に送

れり。抑兵士一般はに無遠慮なる階級なりとし、放恣無思慮なりとして嫌惡せらるゝことあるものなれども、軍隊貯蓄銀行の報告は、此譏諷を拒否し、而して英國兵士は吾人が常に以て勇敢なりとなすが如く、謹嚴にして節儉に、能く訓練せられたるものなることを證明せり。蓋し多くの人は、兵士の從順にして嚴肅に、且つ正直ならざるべからざることを忘れたるなり。彼若し亂醉者ならば處罰せられ、不正直ならば聯隊以外に放逐せらるゝなり。

訓練の魔術は不可思議なるものなり。訓練は訓育、練習、教育を意味するものにして、各人民の第一の訓練は軍隊に在り。軍隊は實に國民最初の教育なり。從順即ち權力に服従する本務は、大仕掛に教へられ、一人の頭腦の下に、結合的動作は教へらる。此等の兵士——常に砲烟彈雨を冒し、身を森立せる銃槍の間に露はし、或は鐵壁に攀ち登らんが爲めに用意せる兵士は、是れ皆嘗て裁縫師、靴工、職工、坑夫、農夫等の人々なり。其口は開き、肩は垂れ、足は亂れて歩むに調をなさず、腕は垂れて恰も鐘の如くなりしも、今や其歩調は、確實にして勇ましく、姿勢整ひ、儀容正しく、軍樂の響につれて歩を移せば、歩むにつ

れて大地は爲めに震ふ。斯の如きものは實に訓練の不可思議なる力なり。

國民開明に赴くに從ひ、訓育法漸く進み、訓練は此に勉勵となり、征服と破壊とは退きて生産となり、種々の形となりて顯はるゝなり。實にや、勉勵は如何ばかり敵の武器を分捕り、熟練を收得し、勞働を成就したるよ、有らゆる實業は技術家の熟練によりて成さるゝなり。試みにヨークシア、竝にランカシアに到れ、熟練なる勞働者等の軍隊が業務に従事し、其訓育完全にして、成就せられたる産物の量の多きに由りて其結果の驚くべきを見ん。

凡そ個人として又社會の民としての成功は、全く其訓練と教養とに依れり。最も自己に依頼する人は、最も訓練の下に在り。訓練にして完全なれば、從つて其境遇も亦完全なり。人は其願望を訓練し、又之を支配せざるべからず。即ち命令に從はざるべからず。然らざれば情慾と衝動との奴隸なり。宗教家の生活は訓育と自制とに充ちたり。最も幸福なる家庭は訓練の最も完全にして、而もそが最も僅に感ぜらるゝ所なり。吾人は之に從ふこと、自然の法則に於けるが如く、而も之を感ぜざるなり。習慣の力は、只訓練の力に過ぎ

す。

我國にては今日敢て強制的徴兵の必要を云々するものなけれども一般の人民を強ひて軍隊の訓練を受けざるべからざるに至らしめば國家は更に強固となり人民は一層謹嚴となり而して勤儉は現時に於けるものよりも一層習慣的のものとなるに至らん。

軍隊貯蓄銀行

軍隊貯蓄銀行は一千八百十六年主計官フエアファウル氏によりて暗示せられ其後十年にして再び少佐オグランダー氏に依りて提出せられたりさて此提案は故ウエリントン侯の眼に觸れて否認せられたるが侯之に關して述べて曰く「陛下の普通の臣民の如く兵士が其金を貯蓄銀行に蓄ふるに於て予の知る所にては何物も之を拒むべきものあるなし若し故障あらばそは取り去らるべしされど予は方便の更に進められんことを疑ふものなり」と。

侯は兵士が金錢の貯蓄を容易にすべき提案は軍隊費用の節約に於て利用せられ得ることを思ひつけるもの、如く即ち曰く「兵士は需要よりも多

兵卒の貯蓄

額の支拂を受けつゝあるや果して然らばそは低減せられざるべからず然しそは現今兵役にあるものに對していふにあらず自今以後入隊せしめらるべきものについてなり」とされど何人も兵卒の支給を以て過度なりと明言し得るものなく従つて之を輕減するの提出は容れらるゝことなかりき。

軍隊に於ける貯蓄銀行の問題は暫時休止の姿なりしがサージェームスマツグンゴール及びピロード、ホーウィツクの助力によりて企畫は遂に承認せられ一千八百四十二年に至りて愈々設立せられたり結果は極めて満足にして能く英兵の特質を示すに足るものたりき數年前下院に送られたる各隊貯蓄の明細報告に據れば砲兵は二萬三千磅以上を貯蓄し各人平均の貯蓄は十六磅に達したり此等の貯蓄は日々一シルリング三ペンス(凡そ六拾五錢)の給料と麥酒代一ペニー合計毎週九シルリング六ペンスの支給中より爲されたるなり又上兵は多くは熟練なる職工階級より徵募せられたるものにして殆ど二千磅即ち各平均二十磅を貯蓄したり歩兵第二十六聯隊の兵士は一日一シルリングと麥酒代一ペニーの給料を受けしが四千磅

以上を貯蓄したり。第一大隊の二百五十人三分の一聯隊は、貯蓄額各八十七磅に達したり。

されど、これは兵卒の全力を擧げて貯蓄せしに非ず、兵卒等は其少額の所得より郵便局を通じて、非常なる金額をば、其故郷の貧賤なる家族に送附するの習慣あり。其一年間にアルダーショットより送られたる金高は、二萬二千磅に達し、平均各爲換の額は二十一シルリング、四ペンスなりき。若し毎週七シルリング、七ペンスを受くるものにして、斯の如く多量の貯蓄を爲し得るとせば、毎週二三磅の所得を有する熟練なる労働者が、何事をか爲し得ざるの理あらんや。

在外の兵士

戦時に際して外國に在る兵士は、謹慎にして思慮あることを自ら證明したり。クリミア戦争の間、陸海の兵士は、爲換にて家に送りしこと七萬一千磅に及び、要塞軍團は三萬五千磅を送りたり。一年前に爲換組織は、スクルーターに於て開始せられ、ナイチンゲール嬢は、兵士の爲めに貯金の世話をなしぬ。彼女は兵士等が自己の親愛する人のために、將た我が未來の幸福のため

に其快樂と放恣とを節することを最も喜べるを見たり。彼女は、毎週一回、午後をば、彼等のために貯金を受取り、之を英國に送るに費したり。かくて彼女は數千磅を本國に送り、倫敦に在る一友は、更に之を諸方——殊に其多くは愛蘭、蘇格蘭の邊陲の地——に送りぬ。而してそは種子の善良なる土地に蒔かれたるが如く、送られたるものは、悉く深く感謝の意を表したりき。

又印度より歸り來る聯隊にして、同時に貯蓄の若干を携へ歸らざるものなし。印度騒動の後、一千八百六十年に於て、二萬磅以上は送還せられたる廢兵と共に送られたり。之に加ふるに、八個聯隊は四萬四百九十九磅を送附し、其中八十四聯隊の分は、最高額にして九千七百十八磅に達せり。是等は皆豫備と遠慮とを示すものにして、人として又兵士として至高の名譽を示すものなり。

且つ兵士は貯蓄の總額を軍隊貯蓄銀行に——殊に普通の貯蓄銀行に接し得る場合には——送るものにあらず。吾人は倫敦に在る内國軍の多數が、聯隊銀行に託するよりも、他の貯蓄銀行に多く其貯金を送ることを耳にし

たり其何故なるかを問ふものあるや答へて曰く「予は貯金することを軍曹に知らるゝを欲せざるなり」と。蓋し兵士は其貯蓄することを同僚に知らるゝをも欲せざるなり。蓋し不勤儉なる兵士は、恰も不勤儉なる職工の如く、其自己の物を悉く費したる時には、勤儉なる同僚の蓄積中より借金の権利を主張すること甚だ珍らしからざればなり。

貯蓄銀行
預に於ける
入貯

同様なる疑惑の感は、普通貯蓄銀行に金銭を貯へんとする時にも大に労働者を妨ぐるものなり。彼等は其賃金を引下げらるゝあらんことを憂ふるの結果其貯蓄せる所を備主に知られんことを欲せざるなり。嘗てヨークシアなる一市に於ける労働者は、貯蓄銀行に其貯蓄を託せんとは決したれども、其頭取は我が主人なるが故に、其主人が不在なるや否を見るがために再三其戸口を覗ひたり而して數週間を経たる後、自ら主人の不在を確認して、漸く其貯蓄を預け入れたることありと云ふ。

ピルスト
ンに於ける
貯蓄

ピルストンに於ける坑夫等は、貯蓄銀行に預金する際、常に他人の名を假るの習慣ありきといふ。彼等は亦其理由なきに非ず。彼等の備主の中には、貯

蓄銀行に於ける職工等の預金に就いては、自己が此等の階級の最良なる保證人たることを忘れて、職工等が罷工の際其貯蓄金を生活維持に用ひ得んことを憂ひ、實際貯蓄銀行組織に反對したるものありたればなり。工場監督官ヘーカー氏曰く、「同盟罷工の甚だ愚なるものなることは、之が首領たる職工の富裕なるもの殆ど絶無なるによりて明かなり」と。

職工使用に關係を有せざりしピルストンの一官吏は、次の例を擧げて曰く「予は一職工に、貯蓄銀行に預金を始めんことを勧めたり。其所得は頗る大なりしかど、甚だ予が勧誘を喜ばずして、僅かの貯蓄をなしたり。されど、予は彼が取れる方法に満足して、大に彼を奨励したり。彼が貯蓄は次第に大となりぬ。而して五年後には、彼は蓄積したる資本を引出し、一小地面を購求し、之に家屋を建てたり。思ふに予が彼に諭す所なかりせば、彼は其全額を俱樂部若しくは職工組合にて浪費したるならん。彼が眼は今や開きたり。彼は吾人の如く事物を見又感ずることを得、而して彼が社會的地位は上りぬ。こは又更に大に他人を感化せしむるものあらん」と。

吾人の述べ來りたる所によりて、高級の賃金を受くる労働社會の貯蓄に關する能力は、最早明白にして疑ふの餘地なからん。彼等は或る種の目的に熱中するや、其所要の金錢を得ることに困難せず。ランカッシーアなる一都市は、其隣市に於て、ストライキの起れる折しも、同胞職工を助けんがために、三万磅を義捐したりき。如何なれば、平和の時代に於て、彼等は自己のために、自己永遠の快樂のために、豫め貯蓄せざるや。多數の職工は已に此目的を以て貯蓄す、而して彼等が爲す所のものは、何人も之を爲すことを得べし。吾人は無益なる浪費の誘惑少なき、農業地方に設立せられたる一大工場を知れり。此工場に於ける人々は、概ね經濟の習慣を有し、各二百磅を貯蓄したり。多數の工場職工は、其家族と共に、毎週五乃至十シリングを貯蓄することを得べく、之を積むこと數年にして、頗る巨額に達せしむることを得べし。數月前ダーウエンに於て、一職工あり、銀行より貯金を引出し、一列の長屋を購ひて之を所有せり。同所及び其近隣の都市に於ける他の數多の人々は、或は建築會社へ積立金をなし、或は銀行の貯金によりて、自ら小舎の建築に従

へり。

嘗て品善き服裝の一職工、ブラッドフォードなる貯蓄銀行に、預金をなしつゝありしに、其貯金は殆ど八十磅に達し居たり。さて其貯蓄者たるに至りし故を語れるを聞くに、彼は其始め飲酒家なりしが、偶々其妻の貯金通帳を發見し、其既に二十磅を貯蓄せるを見て、自ら謂うて曰く、「予が浪費を事とせる間に、斯の如き事の爲され得るとすれば、吾等二人にして貯蓄すれば、何事をか成し得ざるべき」と。斯くて飲酒を廢し、其階級中最も尊敬すべき人の一人とはなりぬ。彼曰く、「予は此恩を予の妻と貯蓄銀行とに蒙れり」と。

高級の賃金を受くる職工にして、充分なる貯蓄をなし得るに於ては、彼等は皆悠々其老後を送るを得べし。彼等は其老ゆるに従ひ、競争の野より退かざるべからず。彼等は少壯者に其位置を譲り、自ら下級労働者として投棄せらるゝに至るを免れず。六十歳を過ぎては、人の體力は最早望なきものなり。此時に際しては、其獨立を支持せんがために、貯蓄を有せざるべからず。此目的を以て、金錢を貯蓄し、之によりて全労働社會が同一の方向に於て、如何ば

かり成就し得るかを證明するの例は、決して稀有なるものに非ず。

一錢銀行の起る處、何處にても極貧の階級者之を利用したるより見れば、勤儉實行のために機會を備ふることの如何ばかり著しき事業なりしやを知らるに足らん。第一の一錢銀行は、三十年前貯蓄銀行に對する補助として、グリーンソックに起りぬ。設立者スコット氏の目的は、貧民をして五拾錢貯蓄銀行の最低額以下の貯蓄を、安全なる地位に置かしめんが爲めなりき。一年にして五千人の貯蓄者は、一萬五千八百圓を預け入れたり。尋いで尊敬すべき倫敦東端の一牧師、クエックト氏は、又一錢銀行を開きしが、其結果は甚だ著しく、一年にして其貯蓄は十四萬五千三百三十圓の多額に達したり。さて貯蓄者の數は二千人に限られしが、志望者の數非常の多きに達し、常に門前市をなし、多くは缺員を待ちて加入するが如き有様なりき。

クエックト氏曰く、「貯蓄者の中、或る者は其借家賃のために貯蓄し、或る者は衣服のために、將た其子弟教育のために貯へ、又種々の小目的のために蓄へたり。而して總べての支拂を予自ら爲したれば、予は其小貯蓄を引出す

原因は、皆病氣、悲哀等已むを得ざるものなることを聞くの機會を得たり。加之、是は大なる貯蓄銀行に對する養資者にして、其毎週の拂出額、普通の額に達すれば、再び貯蓄銀行に送らるゝなりき。かくて其始めは、毎週五錢の銅貨以上を貯蓄すること能はざりし多數の人々も、今は銀貨を預け入るゝことを得るに至れり」と。

此際に於けるが如く、寺領僧侶の道德的感化の巧に使用せられたることなし。かくてクエックト氏が説教に侍せしめんとしたる人々の多數は、教會出席の階級にはあざりき。されど、彼等をして節儉ならしめ、其物質的境遇を進歩せしめ、以て漸次社會的趣味を高尚ならしめ、其大多數が今まで知らざりし宗教的生活を心に覺知せしむることを得たりき。

チャールズ・ス・サイクス
之につぎて、ハッダースフィールド銀行會社の現金掛たるチャールズ・サイクス氏は、此運動に大なる影響を與へたり。氏は其組織せるものと、職工のそれとを結合せんことを主張したり。彼は、勞働者を其少壯の間に、經濟的習慣に訓練するは、多數の書籍を以て、其頭腦を充たすよりも、遙に實際的價値

あり又社會に對して更に重要なことを知り、労働者等の金銭濫用を至大なる實地的害悪の一として指摘したり、彼曰く「労働者の賃金高級なれば愈々彼等の家族は貧困する場合多し、是れ實に不満にして危険なる階級を成す所のものたり、斯の如き人々が純潔にして高尚なる智識に於て如何なる利益を得能ふべきや」と。

職工協會
の銀行

サイクス氏は各職工協會は初歩貯蓄銀行の一委員を指定し、毎週一回會員及び他の人々の貯蓄を取扱はんがために出席すべきことを暗示したり、彼曰く「若し各協會に於ける委員にして此法を採用し其卑賤なる境遇に同情し親切に暗示し誘導し否、彼等に教ふるに至高なる教訓を以てするのみならず、眞の經濟并に自ら依頼すべき習慣を作りて、以て彼等を意の如くすることを得ば、其結果は如何ばかり喜ばしきものならん。若し一度彼等の善良なる習慣を形成し、其是をして確實に自ら依頼する路を踏ましむることを得ば、青年等は必ず我が進歩しつゝある智識と徳操とに對して、自ら主として自己の社會的幸福を生成せざるべからざる實地的自信を以て成長す

るに至らん」と。

此稱讚すべき忠告は、徒に看過せられず、相尋ぎて此計畫は實行せられ、暫時にして初歩貯蓄銀行は、ヨークシアを通じて、重要な職工協會と結合して設立せられたり、ハッダースフィールド、ハリファックス、ブラッドフォード、リーズ、ヨーク等に設立せられたるものは、非常なる成功を得たり、ハリファックスに設立せられたる一錢銀行は、中央銀行と七個の支店とより成り、會員の數と其平均貯蓄額とは、年々増加したり、又十四個の一錢銀行は、ブラッドフォードに設立せられたり、かくて貯蓄者は小銀行に於て貯蓄の習慣を形成したる後、之を普通の貯蓄銀行に移し預けたり。

グラスゴー及び其近傍に三十六の一錢銀行は設立せられたり、委員等は、其報告に於て、此一錢銀行は浪費と不節制との習慣を形成し、勝ちなる不注意なる少額の消費を制せんがために設立せられたることを表はせり、而して彼等は貯蓄銀行の必要を擴むるの最良手段として、一錢銀行の保持を獎勵したり、田舎の一小都フアーンハムに設立せられたる一錢銀行は、數年に

して同地の貯蓄銀行に百五十の定期貯蓄者を供給したりとか。されど一錢銀行に貯蓄せられたる全額の三分二は、大抵其年内に引出さるゝこと事實なるが、それは一錢銀行は主として家賃、衣類、家具、藥代等の如き、或る特種の目的に使用せらるゝまで、安全貯蓄の場所として使用せらるゝに在るを以てなり。

貧民の弗

かくの如く、一錢銀行は、重もに貧民の弗箱なり。されば貯蓄の通常の大塊は三十錢以内にして、全體の平均額は五十錢を超過せざるものなり。而して貯蓄者は、労働者の極めて卑賤なるものより成り、殊に其中の最大多数は、生來未だ其所得の幾分を貯蓄することに全く慣れざる徒なり。是等の有益なる組織の擴張に盡力したるダービーの僧正クラーク氏の示す所に據れば、ダービー一錢銀行に預かりし全額の十分一は銅貨にて、殘餘の大部は、十五錢及び二十錢の貨幣なりと。

一錢銀行の貯蓄者

一錢銀行は、極めて小活計の階級にまで達するものにして、其貯蓄の可能力は、高級の賃金を受くる労働者に比して極めて小なり。彼等其金錢若し自

己の囊中に在りなば、大抵最寄の飲酒店に於て之を消費すべきや明かなり。されば、バトニーに一貯蓄銀行建設せられし其年末に貯金の總計せらるゝや、委員たりし一酒造家曰く、「正に是れ飲まれざりし麥酒の一百石なり」と。

ヨークシアなる或る一錢銀行には、一老人あり、寺領の施物を集めて、これに貯へ、遂に上衣一着を求むるまでに至れり。又八日持の掛時計、樂器等を購ふものあり、汽車旅行のために貯蓄するものあり。

されど、一錢銀行の主なる保護者は、兒童なり。こは、彼等の最も有望なる現象なり。蓋し人は、兒童の時代に於て爲らるゝものなればなり。ハッダーフィールドにては、數多の青年隊を成して、水車場より一錢銀行に行けり。而して競争と先例とは、最も彼等を奨励しつゝあり。彼等は種々の目的のために貯蓄するものにして、或は道具箱を、或は懐中時計を、或は文法若しくは辭書を、買はんがために貯金しつゝあるなり。

或る日の夕暮、一少年金十五圓を引出さんとて出て來れり。一錢銀行の規則として、十圓以上を引出さんとするには、一週前に通告せざるべからず。即

ち現金掛は其支拂を躊躇したり。少年曰く、「といふのは、お母さんが家賃を拂ふことが出来ぬからだ、それで私がそれを拂はうといふのだ」と。又一青年あり兵籍に入りたる兄弟を賠はんがために、金二百圓を引出したり。彼曰く「彼を賠はないと、お母さんが悲しんで仕方がない、私はこれを見て居られない」と。

此等の組織は種々の點に助力を與へ、青年をして借金を免れしむるのみならず、家庭の困難に際して、仁慈なる行爲を成さしむるものなり。されば各貧民學校が學生をして、其善良なる習慣に習はしめんがために、夫々聯絡せる一錢銀行を有せるの現象は、頗る賞讃に價するものなり。而して一年にして之に貯蓄せられたる總額の貧民學校組合に關係せる二萬五千六百三十七人の生徒を通じて、八萬八千八百圓に達したるの事實は、頗る著明なるものなり。貧民學校の貧生にして、猶且つ斯の如きことを成就し得るものとせば、高級の賃金を受けつゝある英國の職工等は、何事の成就せられざるものあるべきや。

勤儉の習慣養成

勤儉の習慣養成に關して、一錢銀行の主要なる現象は、少年少女が其両親によりて模倣せらるゝに至る事實なり。兒童は毎週一錢を支拂ひて通帳を持歸るなり。此通帳は、預け入れたる數錢が、夫々日附と共に、正當に記入せられ、年二分五厘の利子を生み、十圓以下ならば何時にても、十圓以上ならば一週前に通知して引出し得ることを記入せるものなり。

通帳は一個の小歴史なり。そは其兄弟姉妹のみならず、両親に對しても頗る興味あるものならずんばあらず。人々は此通帳を有するものを呼んで善い子といひ、又其行の善良なるを稱す。かくて其父にして若し暗愚なるにあらざれば、其子の尊敬すべき將た稱讃すべき行を爲し得るを見ては、自らも亦能く貯蓄すべき念慮を起すべし。即ち翌土曜日の夕暮、其子が三ペンスを貯蓄せんとして一錢銀行に行くや、父は自己の一シルリングをもこゝに送ることあるは珍らしからざるべし。かくてかりそめに始めたる習慣は、茲に其芽を生じ、漸々持續せられて、須臾にして一家の家庭的境遇に極めて有益なる感化は起り來るなり。注意深

母は其家庭の幸福に於ける新しき實行の結果を注目し、幼兒の生長して金錢を儲ぐることを得るに至るや、之を獎勵して其兄の先例に従はしめんとし、自ら其子を伴ひて一錢銀行に至り貯蓄することを習はしむるなり。蓋し婦人は斯かる事柄に關しては男子よりも一層の感化力を有するものにして、其感化の及ぶ所には有益なる結果の永く繼續するものなり。

或る日の夕、一人の筋骨逞しき職工、二人の小兒を伴ひ、一人を其腕に抱き、ハブラッドフォード貯蓄銀行に來れり。彼は其妻の習慣に倣ひて、十シリングと共に通帳を差出し、三人に均分して預かられんことを求めたり。やがて腕なる其子を抱き緊めて曰く、「可愛想に、此前來た後に母が亡くなつて、けれど自分が代りて全力を盡くさにやならぬ」と。かくて彼は其妻の始めたる善良なる訓育を繼續し、其貯蓄の額を見んがために、常に三兒を伴ひ來りたり。

英國の古諺に曰く「榮えんと欲するものは、先づ其妻に請はざるべからず」と。妻は實に其夫をして繁榮ならしむるに就いては、常に夫を助けざるべからず。

らず、然らざれば必要なる匹偶には非ざるなり。婦人は道德的空氣を形成するものにして、幼時吾人は此中に生長す。且つ婦人は吾人が人となりて經歷する生活と大に關係を有するものたり。男子が手綱を握るは事實なり、而して其何れに驅げるべきかを語るは一般に婦人なり。ルーソウの語に曰く、「男子は常に婦人の爲すまいのものたるべし」と。眞に近しと謂ふべし。

サイクス氏嘗て二等車中に於て盛裝せる一職工に會したり。此職工は、休日の間、其母に會せんが爲めに、シェフィールドよりグラスゴーに旅行するものなりき。サイクス氏曰く、「予は斯かる目的のために、一職工のかゝる長距離を旅行し得るを嘉みす」と。職工曰く、「然り、予は之を爲すことを得るてふことを喜んで語り得るものなり。」汝の従事せる工場の職工は、皆多く貯蓄するか。否、百人中二人以上に及ばず。他の人々の所得は、皆貯蓄銀行にあらずして、酒店にあり。」汝は何時より貯蓄し始めたるか。一小兒を指しつゝ答へて曰く、「予は彼の小兒位の折より始めたなり、予は始めて一錢銀行に預け入れしが、爾來予は貯蓄を繼續したるなり」と。

幼時に於ける實行と先例との影響此の如きを見て吾人は現時公立學校に於て教へらるゝ所の經濟に對して大に喜悅の意を表するものなり。サツセックス州 育院の僧正クララン氏は貧民の子女に教ふるに勤儉の課業を以てし又有らゆる小學校に於て貯蓄銀行と關聯したる一錢銀行を設立することを獎勵せり。彼は金錢の性質其價值其用法に關する教育と之を人に與へ消費し貯蓄する種々の職分に關する簡單なる訓育とは未來の國民に對して莫大なる感化を及ぼすものなることを説けり。

兒童に勤儉の習慣を教ふることは約八年間白耳義の國民小學校に於て採用せられたり。ゲントの學務委員會は貯蓄が労働者の道徳上並に物質上の幸福に及ぼす良好なる影響を承認し且つ經濟の精神をして彼等の習慣たらしむる最良の手筈は兒童を訓練して之を實行せしむるに在ることを信ぜり。

新しき事物を成人に教ふるは極めて難事たり不勤儉なる人々に教ふるに勤儉を以てするは殊に然りとす。彼等の生活方法は已に一定せり。浪費の

習慣は痼疾となり舊習となりて最早抜くべからざるものとなれり。男子に在りては飲酒婦人に在りては衣服是れなり。彼等は得る所のものを浪費し又明日を想はざるなり。時ありて不幸の境遇に陥るや彼等は食を乞ふを以て耻辱とせず。蓋し人間の品位に對する感情は未だ彼等の心中に發達せざればなり。

兒童は甚だ之と異なるものあり。彼等は未だ痼疾の習慣を有せずして多くは其教へらるゝが如く爲さんのみ。即ち恰も算術を教へられ得るが如く經濟の事をも教へらるゝことを得べし。兒童は折々數ペンスを有するものとあらん。即ち教師は之を導きて貯蓄せしむることを得ん。ゲントに於ては、有らゆる小學校は貯蓄銀行を紹介し兒童は其所有を貯蓄したり。蓋し勤儉の習慣は貧富の別なく共に有用なるものなり。經濟教育の結果は甚だ満足なるものなり。ゲント小學校に屬する兒童等は、一萬八千磅を貯蓄し三分の利子を以て之を國立貯蓄銀行に預け入れたる。此組織は次第に擴張して、和蘭佛蘭西伊太利に及びつゝあり。グラスゴ、リヴァプール、バーミンガ

ム、グレート・イルフォード及び倫敦孤兒院等は、皆學校銀行の模範たり。吾人は遠からず此法の國內を通じて有らゆる小學校に設けらるゝに至らんとを信ずるものなり。

貯蓄の便

以上述べたる所に據れば、經濟の實行は、多く少額の金錢を貯蓄するに便する設備に依ること明かなり。試みに備ふるに便利なる貯蓄銀行を以てせよ。貯蓄は漸次之に向つて流入せん。試みに軍隊貯蓄銀行を設立せよ。兵卒は其少額の給料より猶ほ貯蓄を努むるに至らん。試みに又一錢銀行を設立せよ。貯蓄者は直ちに群を成して之に集まらん。貧民學校の兒童と雖も、非常なる金額を之に預け入るゝことを得ればなり。吾人は已にセントの學童に於て其例を見たるが如く、學校銀行に於ても亦同様ならんのみ。

十五年以前に在りては、英國には人民の爲めに貯蓄銀行を備ふることを極めて不充分にして、當時全く貯蓄銀行なき大都市村落さへ數多かりき。ランカシャーは二百萬以上の人口を有するに拘はらず、貯蓄銀行を有すること僅に三十に過ぎず。ヨークシャーの東ライディングは僅に四個に止まり、英

合衆王國內貯蓄銀行一個をも有せざる州實に十五に及び、凡そ三千萬の人口を通じて、僅に約六百の貯蓄銀行あるのみなりき。且つ此銀行は毎週僅に二三時間開店せらるゝのみにして、中には一ケ月中僅に四時間開けるものもありき。されば貯蓄すべき金錢を有するものも、之を預け入るゝまで暫らく之を自己の囊中に置きて、絶えず之を消費せんとする誘惑に暴露せられざるを得ず。斯の如くなれば、自己の金錢を安全に保存せんとせば、即ち自ら貯蓄の習慣を養成せざるべからず、而して此習慣を訓練し、開始するは、實に貯蓄銀行の目的なりしなり。

ガズリー博士は、一千八百六十年に出版せる貧民學校に關する著書に述べて曰く、「吾國の製造并に手工に従事する人々の境遇は如何ぞや、彼等は無數の誘惑を以て、旅館と酒店とによりて圍繞せられたり、而して彼等の多數は殆ど貯蓄銀行の名さへも知らず。放恣は全市街を通じて其網を張りたり。我國多數の都市に於て、節飲は箭ほどの間にも倏ち五六の酒店の前を過ぎらざるべからず。此等の酒店は目前に在りて、土曜日曜の日中に開かれ、夜は

殊に燦然として、千客の萬來を待てり。即ち飲酒家は直ちに此に満足を見出すことを得べし。然るに經濟家は其貯蓄の爲めに一哩を走らざるべからず、而も銀行は僅に一週一二度づゝ其戸を開くあるのみ」と。

貯蓄銀行の擴張

國內を通じて、貯蓄銀行制度の一層擴張せられざるべからざることは、貧民社會の友人によりて屢々發表せられたり。一千八百七七年に於てホイットブレッッド氏先づ小貯蓄をして容易ならしめんが爲めに、倫敦に一局を設け、地方の貯蓄者は之を郵便にて送るを得しめん等の事に關し、一法案を議會に提出したりしが、不幸にして否決せられ、何の得る所なかりき。

サー、ローランド・ヒルの勞力は、郵便局の制度に大活動を起こさしめ、公共組織として、大に其要用を擴張し、爲換局(一千八百三十八年に設けられたり)が貯蓄并に送金のために應用せられ得ることを暗示したり。ハンコック教授は、一千八百五十二年、此問題に關して小冊子を發行したり。一千八百五十六年十一月知名の顧問、ジョン・ブラー氏は——其注意はフトニー一錢銀行の活動によりて、此問題に向けられたり——貯蓄銀行制度擴張の手段として、

爲換局

爲換局の使用を郵便局當局者に暗示したり。されど當時未だ賞讃を博するに至らず、且つ同一の暗示は、他の紳士ヒューム氏、マツコールクォーデル氏、ストロング大尉、レスミイ氏等によりても爲されたり。

然れども、ハッダースフィールドのサイクス氏が、此問題を取るに至りしまでは、未だ事實として顯はるゝに至らざりき。暗示は常に有用なるものなり。思慮を引起すものなり、而して其最も價值あるものは、決して失はるゝことなくして、遂には自ら事實となりて現はるゝものなり。多くの發明は、元來暗示の結果たり。即ち先づ之に對して、思慮を費さんとするもの、出で、數度の失敗を重ね、更に偉大なる智識と經驗と、決心とを以て、遂に成功を得るに至る。

郵便貯金銀行は、其成功をホイットブレッッド氏及び其他の無数の暗示に負へり。次には送金のために郵便支局を設立し、之によりて實行を期すべしとなしたるサー、ローランド・ヒルに、次には一千八百五十年來此問題を攻究して、屢々大藏大臣に申告したるサイクス氏に、最後には、郵便貯金銀行の利

益の莫大なるを見、一法案を提出し、一千八百六十一年議會を通過せしめたるグラッドストーン氏に負ふ所大なるものあり。

郵便局の爲換部は、已に國內を通じて、郵便貯金銀行を設立し得る組織の存在せることをサイクス氏によりて暗示せられたり。地方視察官が、一週間五個の爲換必要なりと見る所には、郵便支局は爲換局と爲さるべかりき。かくて國內を通じて、平均労働者の人家三哩以内に、一局宛設けられ、日々開局して、有らゆる預入者の金銭を預り、爲換によりて送られたるものに對しては、證書を交附したり。且つ金銭は引出さるゝまで此處に貯蓄せられ、適當なる證書によりて支拂はれたり。是に於て郵便局は實に金銭を轉送し、之を二十四時間以上、數週又數日の間保存する所の銀行たり。やがて更に多數の貯蓄者より多額の金銭を受くることを得しめ、之を保存する期間を増し、從つて普通の利子を附するに至りて、遂に國民貯蓄銀行となりぬ。

郵便貯金銀行條例の結果は、全く満足なるものなりき。爲換局は大に擴張せられ、今や其數凡そ四千に達し、其結果として貯金は實に倍加せられたり。

郵便貯金
銀行

倫敦地方に於ては、今や其數凡そ四百六十に達し、首府人口多き所にては、何れの方向よりも、數百歩中に一銀行は發見せらる。一千八百七十三年の終には、貯蓄者百五十萬人以上、貯蓄額二千一百萬磅以上、七十四年の終には、二千三百萬磅以上に達したり。而して初めの銀行に貯蓄したる金額は、大抵其儘に残り居たり。

郵便貯金銀行は、一般に知られざるべからざる種々の偉大なる利益を有せり。銀行は甚だ廣く擴布せられ、朝九時より夕六時まで、土曜日は午後九時まで開設せらる。何人も一ヶ年三十磅を超えざる限り一シルリング以上の貯金を爲すことを得べし。而して郵便局は郵便貯金に關する規則を記載したる帳簿を配與し、之に貯金高を登録し、其利子を年二分五厘の割合とす。

他の最も重要な點は、貯金の安全なることなり。即ち政府は貯金に對して責任を有するを以て、郵便貯金に預け入れられたる金額は、英國々立銀行に預け入れたるものと同様、全く安全なるものなり。貯金は又手数料なくして何處へも轉ずべく、其元預け入れたる所の何處なるを問はず、好む所に於

て、所要の金高拂戻を請求することを得、而して局長は貯金者の名を發表することを禁ぜられたれば、貯金は全然秘密なるものなり。

チャールズ・サイクス

吾人は一錢銀行と郵便貯金銀行とに關して、チャールズ・サイクス氏の名を記したり、其名は實に此價值ある組織と關聯して、崇高の地位を占めざるべからず、彼はハッダースフィールドの私立銀行家の子なり、其小學校に在る間、フランクリン博士の『論文及び書簡』の一冊を賞與せられたることあり、彼は熱心に之を熟讀したりしが、是れ實に數多有益なる思想の萌芽を其心中に植ゑ、附け、其生活に實行的性質を與ふるに、有力なる感化を及ぼしたるものなり、ハッダースフィールドは繁盛なる製造市にして、労働者等は可なりの賃金を支給せられたれども、其業務は榮枯盛衰常なかりしかば、一朝商勢緩慢となるや、街衢若しくは路傍に、人の慈悲を乞ふもの踵を接する有様なり、小サイクス氏は、此等の人が、フランクリン博士の事を耳にせず、商賣繁昌にして自ら有福なる時に貯蓄を實行し、以て不幸と乞食とを避くべき方法を聞かざりしことを思ひて、屢々驚歎したり。

一千八百十三年、サイクス氏は、ハッダースフィールド銀行の一員となり、これは英國に建設せられたる第二の合資銀行なり、蘇格蘭銀行會社が是れまで取り來りたる謹慎と成功とは、頭取等をして蘇人の一支配人を選ぶに至らしめたり、頭取等が採用せる最初の決斷の一は、労働社會の間に、準備と勤儉の習慣とを奨励せんが爲めに、十磅以上の額に對しては貯蓄預證を交附することなり、サイクス氏は支配人の寵兒なれば、支配人の口より、蘇國農民の勤儉なる習慣に關する面白き報告を洩れ聞さしが、バースに於ける一銀行は、各十磅より二百磅に至る種々の貯蓄に對する利子として、年々二萬磅を下らざる額を支拂へることをも耳にしたり。

一千八百三十七年、サイクス氏は、會社の現金掛の一人となり、これより常に望める労働社會の勤儉家と直接に交はることを得るに至れり、過ぎゆく年と共に、サイクス氏は十若しくは二十磅を貯蓄せるものが、絶えず之を増加して、遂に其總額百若しくは二百磅、稀には三百磅に達せるものあるを見たり、若し労働者全體にして此等の感すべき職工の如く、勤儉と遠慮とに

依りて感化せらるゝに至らば、労働者の境遇に起るべき進歩は實に驚くべきものあらんと氏は屢々想像したりき。

此時に際して商勢甚だ振はず、機業職工は殆ど業務なき有様となれり。困難と痛苦とは有らゆる方面に起り、此等は沈黙と高尚なる勇氣とを以て忍耐せられたり。即ち種々の補償策は、現存せる害悪の爲めに提案せられ、社會主義、改革主義、自由貿易、説唱道せられ、中には茫漠として到底實行し得べからざる種類の理論も百出したりしが、猶此暗黒の時に當りて、幾分か未來のために現在を制し、或は一時の困難を凌がんがために、合資會社若しくは貯蓄銀行に於ける自己の貯蓄に依ることを得たる人々の例も多かりき。自由貿易の良好なる結果を信じて、サイクス氏は、全階級を通じて遠慮と勤儉の習慣とを收得し、同盟會の辯士等が巧に演述したるが如く、未來の幸福のために、人民は豫め教育によりて陶冶せらるゝにあらざれば、國家の繁榮と不幸とは、共に大なる害悪の伴ふ所となるものなることを確信したり。

サイクス氏は、夕暮労働者と共に家に歸る路すがら、度々議論せる結果、法

律も亦殆ど如何ともすること能はざる數多の社會問題あり、人民全體の不勤儉の如きは其一なりしことを知れり。五百人の機業職工を使用せる一人は、サイクス氏に語りて曰く、「業務は繁く、賃金は高き時代に於て、予は膝を折りつゝ職工等に歎願せりと雖も、遂に職工をして一ペンニーをも貯蓄し、若しくは雨天の日のために備ふるに至らしむること能はざりき」と。商勢は繁榮に次ぐに衰微を以てするの經驗も、意志なく、且つ自ら好まざる學生を教ふることも能はざりき。サイクス氏が故大僧正サンナー氏の「創造記」を讀みて、「貧者を助くる唯一の眞の秘訣は、自己の境遇を改良するに努めしむるにあり」との語に會せしは、恰も此時なりき。

此言語は簡單なれども、燦然たる光輝を放ちてサイクス氏の心を照らし、彼に對して主調音となり、將た試金石となりぬ。是に於て、サイクス氏は、今日まで遭遇せる種々の見解と理論とを總合考究したり。施物や恩恵や、此等は深き慈善の意志に於て行はれたれども、却つて之を受くるものをして衰頹せしめたりき。之に反して、人間眞の尊嚴の中心たる自己依頼と自助とにし

て一般に労働社會の特質たることを得ば何物が能く彼等が前途と向上とを阻碍するものあらんや。サイクス氏は労働社會が其手中に一層の金力を有するに至らざれば、彼等は永く貧乏と不幸とに陥るを免れざるべきを見たり。又若し勤儉の習慣にして一般に守らるゝに至らば、社會の狀態は直ちに變遷するに至るべきを知れり。是に於て氏は全力を盡くして、此善事業に助力を與へんことを決心したり。

一千八百五十年までは、貯蓄銀行は各週唯僅に數時間開かれたるのみにて、每一ヶ年賃銀に於て四十万磅以上を支拂へるハッダースフィールドにても、銀行開設以來三十年以上なるにも拘はらず、僅に七万四千三百三十二磅の貯蓄あるに過ぎざりき。一千八百五十年、サイクス氏は、リーズ・マリーキエリーの記者に無名の書を寄せ、其後要求によりて名を通じたり。職工其他同様の労働者の爲めに、一錢貯蓄銀行の設立を勧誘し、労働社會の青年男女が如何ばかり蓄資者たる有らゆる機會を失ひつゝあるかを説きたり。

其書は頗る賞讃を博し、ヨークシャー同盟職工組合の委員等は、親しく其

議を容れ、一錢銀行は、ヨークシャーなる職工協會と聯合して、建設せられたり。サイクス氏又自らハッダースフィールドに其一を設立し、今日に至るまでに凡そ三万磅を出入したり。實にハッダースフィールドの労働者は、大にサイクス氏の實行的先例に倣ひて、最も遠慮あり、勤儉なる民となり、其貯蓄銀行の蓄積は、一千八百五十年、七万四千磅なりしもの、一千八百七十四年には三十三万磅に増加したり。

一千八百五十四年、サイクス氏は、『好時機——貯蓄銀行と爐邊』と題して、極めて適切なる小冊子を發行したり。即ち此書は一般に銀行問題に關して注意せしむるに至れり。彼は又銀行の甚だ不適當にして國內の要求に應ずること能はざるを發見し、時の大藏大臣サー・クロンウェル・ルイス氏に會見して、一考を求めたり。大臣は氏に其意見を書面に認めんことを求めたり。是に於て數ヶ月の後、ルイス氏に寄せたる『貯蓄銀行の改革』と題する小冊子は發行せられたり。サイクス氏は、貯蓄銀行預入の貯金に政府の充分なる保證を與へんことを要請したり。されど此は拒絶せられたりき。

次ぎて、サイクス氏は郵便貯金銀行の問題を考査せんとして進みしが、其貯蓄銀行の改良に關して、少しも議會の採用する所とならざるに落膽したり、其懷抱せる希望——貯蓄銀行は實に國民の銀行とならざるべからずて、希望の實現せられんは、甚だ遠きに在るものゝ如くなりき。されど、暗黒時代は曙光に先つものなり。彼が貯蓄銀行改良の念を絶たんとせる折しも、彼は爲換局の中に、平民的貯蓄銀行の根柢を作り得べき組織あることを思ひ出したたり。

即ち書を寄せて、リーツの議員たる其友ペーンス氏に自己の計畫を通じたるに、其考案はサー、ローランド・ヒル氏に委託せられ、ヒル氏は此暗示を讀し、其計畫の郵便局と關聯すれば、實行し得べきものなることを言明せり。かくて其計畫は、遂にグラッドストーン氏の注意を牽き、其後國內を通じて郵便貯金銀行を設立するの法案議會を通過するに及べり。

サイクス氏が社會學會に於て、郵便貯金銀行の成功を豫言せる際、若し夫れ計畫にして實行せられなば、そは直ちに光榮ある事業を成すに至らん。到

る處銀行開設せられ、貯蓄の收納せらるゝ處には、或る程度までは自己依頼の念起り來り、一層高尚なる生活は此に始まるに至らん。やがて漸次に無遠慮は、労働者の有害なる強敵にして、又經濟と遠慮とは如何ばかり眞實なる良友なるかを承認するに至らん。一家の買物は、現金にて都合よく買はれ、定期支拂に依りて、望むがまゝの家は最低の家賃を以て借り入るゝことを得べく、家庭には愉快溢れ、勉勵と勤儉とは起り、而して日々其收入の幾部を貯蓄することを得るに至らん。斯の如くして嚴寒と困難の時とは、愉快に凌がるゝことを得ん。要するに此計畫にして採用せられなば、予は國內の労働者は、遂に遠慮と克己の習慣とを養ふことを得て、個人の價値は増加し、又物質的には國家の安全に資すること最も大なるものあらんことを信ず」と。

されど、労働社會は未だ郵便貯金銀行が與へたる利益を充分に利用することなかりき。例へば、パーミンガムにては、技術家は市中の最高賃金を受くるものゝ中に在りたれども、郵便貯金銀行に於ける貯蓄者の表に見るに、技術家は實に奴婢、既婚及び未婚婦人、坑夫の次に位せり。他の方面に其貯蓄を

爲すものなきにあらざるべけれど、それは全貯蓄者の十分の一にも過ぎざるなり。

次に全英國中の報告を見るに、郵便貯金銀行に於ける每一方の貯蓄者中、僕婢を業とするものは最上位に位し、次に既婚及び單身の婦人、次に無職にして職業を得ること能はざる人々、次に技術家、次に労働者、坑夫、商人、陸海軍人、書記、婦人の頭装製作人、裁縫師、實業家、官吏等なり。されど、吾人は此組織を以て未だ其根柢を固めたるものと見ることに能はず。郵便貯金銀行が充分其結果を收むるに至るには、現代三十年間を經過せざるべからざることを信ずるなり。

プレスト
ンに於け
る貯蓄

プレストンの住民は過ぐる數年の間——殊に彼の大ストライキ終結以來、其所得を貯蓄するの強き傾向を示したり。全英國を通じて、ハッダースライ、リムドを除けば、未だ此地の住民ほど勤儉にして遠慮あるものあらず。五十年前は三十人に對する一人のみ貯蓄銀行に金銭を貯蓄したりしが、二十年前には貯蓄者の數十一人に對する一人に増加し、昨年は五人に對する一人

に増加したゆゑ、一千八百三十四年には、十六万五千磅は五千九百四十二人の貯蓄者なりしが、一千八百七十四年には、八万五千四百二十八人の總人口中、一万四千七百九十二人の貯蓄者ありて、實に四十七万二千磅を貯蓄したり。嗚呼、過去二十年の教訓と經驗と繁榮との結果を此の如く満足に示し得るもの果して何處にかあるべき。

第九章

小事

眞面目なる愉快と、有らゆる平安とは、小事の集合より生じ、家庭の神聖なる快
樂は、此等小事に對する子女、家婦、若しくは友人の注意に依れり。

ハンナ・モーア

消費と節約と購求とに對して、各其時を知れ、人は決して探々たることなから
ん。

小事を輕んずるものは、漸く滅亡に歸するに至らん。

教會の書

小事の懈怠は、人類の大多數が坐礁したる岩石なり。人生は小事件の繼續
より成る。其各事は比較的重要なならざるが如し。雖も而も各人の幸福と成
功とは繋がりて此等小事件の處理せらるる習慣に在りて存す。品性は良好
に將た鄭重に處理せられたる小事より成立し、事業家の成功は小事に對す
る注意の如何に依る。一家の快樂は善美なる整頓と適當なる準備とより成
れる。小事の結果なり。善良なる政治も、これと等しく、小事を爲すに其宜しき

を得るより成就することを得るなり。

極めて貴重なる智識と實行とは、細心なる貯蓄より成る。智識と經驗との
小断片の結果なり。一生の間、何物をも習得せず、或は蓄積せざるものは、小事
を怠りたるの故を以て、失敗者の列に加へらるゝなり。世人或は世界が自己
に反對したりと思惟するものあらん、されど彼等は實に己自ら己の強敵た
りしなり。所謂幸運は久しく世人の信仰する所たり。されど、それは他の世人の
思想の如く漸次に滅せんとす。之に反して、勉勵は幸運の母なりて、ふ信念は
換言すれば、人の一生に於ける成功は、努力と勉勵と小事に對する注意
とに比例す。てふ信念は、漸次に其勢を逞うせんとす。怠惰放逸にして敗績す
る奴輩は、決して幸運に遭遇すること能はず。蓋し勤勉の効果は、之を得るが
爲めに適當なる努力を費さざるものには、全然拒否せらるべければなり。
人を作るものは、幸運にあらずして、労働なり。米國の一記者曰く、幸運は常
に顯はれ来るものを期待すれども、労働は機敏なる眼力と堅固なる意志と
を以て、常に事物を生成す。幸運は臥床に在りて、急使の來りて、遺産の報知を

幸運と勞働

齋らすとあらんを望み、労働は六時に辱を離れて、ペン若しくは槌を以て忙
ばしく合格の基礎を養はんことを努む。幸運は悲鳴を洩らし、労働は歡聲を發
す。幸運は機會に依頼し、労働は品性に信頼す。幸運は蹉跌しては放恣に傾き、
労働は向上濶歩して、其抱負を獨立に有すと。

一家内には多數の小事あり、之に對する注意は健康と幸福とのために缺
くべからざるものなり。清潔は床を掃き、椅子を拂ひ、茶碗を洗ふ等、多數の些
事に對する注意より成る。而して其結果は道徳上、將た物質上、幸福安寧の狀
態なり。家屋内を循環する空氣の如きも、亦細事と思惟せらるゝが如し。蓋し
吾人は眼以て空氣を見ること能はず、又其何物たるかを知るもの甚だ稀な
ればなり。されど、吾人若し屋内に純潔なる空氣の供給を怠るに於ては、必ず
自己の怠惰の爲めに困難を感ずるに至らん。密閉して不潔なる空氣満ちた
る窓戸も開放せる窓戸と何の差なきが如くなれども、而も此等は人をして
往々熱病のためは鬱れしむることあり。是に於てか少量の塵芥と悪氣とは
實に甚だ重大視せざるべからざるものなり。家政の全部は、之を別々となさ

ば頗る些事たるに過ぎず。されども、此等の些事集まりては頗る重要なる結
果を生ずるなり。

小事の懈
怠

一本のピンは衣服の一部としては極めて小事物なり。されど、之を裝飾に
使用しては、大に其人の品格に關することあり。嘗て敏捷なる一人あり。一日
未來の妻として交はれる一美人の家を訪問したるに、其意中の人は、ピンも
着けず、髪も整へずして男の室に入り來れり。之を見て其男は爾來其交りを
斷ちきと云ふ。世人或は曰はん、斯の如き人は三文の價なし」と。されど彼は實
に敏捷なる者なりき。其後果して好配偶を作りたり。

一藥種商、廣告して助手を求めたるに、二十人の志願者を得たり。即ち同時
に一同を店内に導き、一錢の鹽を包むことを試みしめたり。かくて此些事を
最も奇麗に最も精巧に處理するものを選択したり。即ち業務の最小點の成
就によりて、一般の實地的才能を推量したるなりき。

小事の懈怠は、多數の人をして、其財産を蕩盡せしめ、企圖の最良なるもの
をも損失せしむ。出帆に際して其船底に微小なる穴隙あるを顧みざりし船

は、貴重なる商品を積みて航行中、沈没の難を免るゝと能はず。一本の釘なかりしが爲めに、副官の乗馬の蹄鐵は失はれ、蹄鐵を失ひたるがために馬は失はれ、馬なきがために副官は敵の捕ふる所となりて斬殺せられ、副官の智謀なかりしがために、指揮官の軍隊は遂に失はるゝに至れり。是れ唯一小釘の蹄鐵に固定せられざりしがためのみ。

『これにて足れり』の語は小事を怠るもの、普通に用ふる所なり。こは多數の人格を破壊し、多數の財産を蕩盡せしめ、多數の船舶を沈没せしめ、多數の家屋を焼失し、多數の有望なる企畫を破砕して、又回復の途なきものとなす。是れ實に正道の中絶を意味するものにて、姑息の策なり、間に合せの方便なり、失敗なり亡滅なり。『これにて足らん』かにあらずして、何が爲すべき最上の物なりやは、吾人の目的とすべき點なり。試みに人をして一たび『これにて足れり』の語を採用せしめよ、其敵手に陥るや必せり。——即ち忽ちにして無力と失敗との境に陥るべく、吾人は望なき者として彼を棄つるに至る。

佛の國家經濟家セー氏は、小事懈怠の例證として次の話を擧げたり。田舎

これにて
足らん

の一畑地に家禽飼養場あり、其門戸の鍵破損して戸は絶えず動搖し居たり。五錢若しくは十錢の費用と二三分の時間とは、優に之を整頓するに足るべきに、其儘放置せられて、戸は人の出入毎に動搖し、且容易に閉づること能はざる如くなりしかば、之がため家禽の失はるゝこと屢々なりき。一日良種の一豚逃亡したり、一家族は園丁、料理人、搾乳女等悉く其搜索に従ひぬ。園丁は第一の發見者なりしが逃げ走る豚を追ひつめんとて溝を跳り越す際、挫傷を得て二週間病牀に臥せざるべからざることとなり、料理人は乾かさんとて火にかけ置きたる麻布の焼けたるを發見し、搾乳女は急ぎて走り出づる時、其牛を繋ぐことを忘れたるがために、其牛暴れ出て、同舎に繋がれ居たる小馬の脚を折りたり。焼失したる麻布と園丁の療治代とは其價五磅に及び、小馬の損失は實に其倍額に達したり。斯の如くして僅に數錢の費用にて補償せられ得べかりし鍵のなかりし爲めに、頗る多額の損失は生じたるなり。

人生に於ける之に似たる例證は實に擧げて數ふべからず。若し小事の懈

怠にして習慣性とならば、滅亡破壊は決して遠きに非ず。富を作るは勤勉者の手なり、而して勤勉なる男女は、小事と等しく大事にも細心なり。物極めて些細にして甚だ無意味の如くなれども、之に對する注意は、重要なる問題に於けると等しく、必要缺くべからざるものなり。

數錢の消

試みに例を最劣等の貨幣五厘錢に取れ。一個の小銅貨——能く何の用をか爲し得ん。之を以て果して何をか買ひ得べき。僅に一杯の酒をも買ひ得ず。唯僅にマッチ一箱の價に過ぎず。乞食に惠むに適するのみ。而も此五厘錢の消費宜しきを得ると否とは、人間の幸不幸に關すること如何ばかり大なるぞや。

(以上文學士 若月保治 譯述)

能く働けば能く儲けらる。然れども、其儲けたる金錢をば、或は青樓に、或はピアホルに宵越しの錢は持たぬと云ふ如く浪費すれば、生涯苦役を免れ得ざる可し。之に反して、或は保険料となし、或は貯蓄銀行に預け、殘餘を妻子の養育費に充つると云ふが如くせば、蓄計は豊かに、家庭は圓滿に、而して未來の心配は少なかるべし。

凡て貯蓄とは、小を積むことなり。塵積もりて山と成る。一錢は積もりて壹圓と成る。貯蓄する一錢は、蓄財幾百千万圓の種子なり。而して貯金は、快樂富裕、獨立を意味す。然れども一錢は正直なる手段を以て儲けざるべからず。正當に儲けたる一錢は、只貴ふたる壹圓に勝るものなり。蘇格蘭の諺に曰く、「貴ひ物の衣服は、買ひ物の衣服ほど、着心地よからず」と。銅貨は黒くなるとも尙且つ銅貨なり。「鍛冶屋の錢は黒い」と云ふと雖も、彼の錢は、正當に儲けたるものなり。

貨殖の道を知らざる人は、一生浮ぶ瀬なかる可し。軍人が國家の干城なる如く、貨殖は一身の干城なり。貨殖の用意は、魔力の如く、一度始むれば直ちに習慣となるものなり。人をして心安からしむるものなり。或は貯蓄箱に入れ、或は貯蓄銀行に預けたる銅貨は、病氣を慰め、老後を樂ましむるものなり。貨殖の用意ある人は、一朝事ある時に臨みて、綽々として餘裕を有すれども、然らざる人は、周章狼狽苦楚を嘗めざるべからず。

節儉なる家婦

貨殖は病氣其他不時の變に備ふる爲めなれども、夫婦互に其心を合はし

て提携するにあらざれば、實行し難し。用意周到にして節儉なる家婦は、主人に取りて金の冠なり。斯の如き良妻は、内助の實を擧げ、良人の品性を高め、人の道を完うせしむるものなり。

感すべき
家婦

労働社會の改良に盡瘁したる、ピルストンの僧正オーウェンは、常に好んで、妻の感化によりて、勤儉家となりたる一労働者の實話を引用して、世を戒めたり。其労働者は、マンチエスターの更紗職人なりしが、一婦人を迎へて妻とす。結婚の當時、其妻、彼に圖るに、毎日五合づゝの酒代を與へんことを以てす。男は自ら酒を嗜むと雖も、妻をして芳醇を傾けしむるを好まざるが故に、寧ろ其請求を不快としたり。夫婦は能く稼ぎしが、亭主は、工場の開鎖後、飲食店に入らざる日とは、あらざりき。日々稼ぐ所の賃銀は、女房が五合の酒亭主が二升の酒となりぬ。而かも、夫婦は相對して一盞を傾くると云ふことなく、亭主は放蕩に耽りて家に在ること極めて少なし。斯の如くして、一年三百六十五日は夢の如く過ぎ去りぬ。結婚の記念日に當り、亭主は妻の窶れたる姿を見て嘆じて曰く、『我汝と夫婦となりてより、一日の安息日だも得ず。一錢

の貯へもあらざれば、汝の母を田舎に訪問するの義理を缺けり』と。

意外にも、優しき詞を良人の口より聞きたる彼女は、眼に一滴の嬉し涙を浮べ、莞爾として曰く、『果して然る乎、さらば、余其費用を負担せん』と。

亭主は嘲けるが如く、『なに、費用を出すとや。どうせ碌な金にはあらざるべし』と曰ふ。

『否、余は酒五合を得たり。』

亭主は其意を解するに苦しみたり。やがて、妻は起ちて、爐の煉瓦一枚を外して古びたる靴足袋を取出し、毎日五合の酒代三十六圓、五十錢を計へつゝ、『以て安息日となすに足る』と言ひて、良人の手に渡したり。

彼は一たびは驚き一たびは恥ぢ、悔いて曰く、『爾來我再び盞を手にせず』と。遂に復た酒を飲まず。用を節して貨殖に力め、妻の貯蓄金を資本として商店を開き、次第に資を得て、土藏を建て、工場を起し、別荘を造り、馬車を買ひ、遂にリヴァプールリヴァプールの市長とまで成り上がりたりと云ふ。

之と同じく、最も下等なる労働者と雖も、其品行方正なる者は、能く勤儉と

愛と節制とが貧なる家庭に『個中自ら樂天地あらしむる』ものなる所以を、労働者社會に教ふるものなり。斯の如き人は、聖人の教と同じく、世を裨益すること大なり。斯の如き人、一人あらば、社會は直ちに其著しき感化を感ず。實例は、言語よりも能辨なるものなるが故に、一人の善き生涯は、數十回の教訓に匹敵す。所謂活ける教化なり。

活
日常の生

日常の生活は人の道德的及び社會的地位を最も能く試験するものなり。今假に二個の人ありとせよ、同じ職業に従事して、同じ賃金を儲ける者なれども、其行ふ所を比較せば、其差實に天地も雷ならざるものあり。一人は獨立の人たらんと希望し、他は奴隸たるに甘んず。彼の家は小綺麗なれども、是の家は軒傾きて月濡る。彼は相當の服装をなせども、是は襤褸を纏へり。彼の子は清潔にして學校に通へども、是の子は汚なく垢づきて、一見其故里を示す。彼は入生通常の娛樂を有し書を藏すと雖も、是は娛樂なく書物なし。儲くる所の賃金を同うして、斯の如き懸隔を生ずるは、果して如何なる理由ありて然る乎。

予輩答へて云はん。曰く、彼は勤儉にして是は然らざるが故なりと。彼は妻子女家庭の爲めに能く己を制し、是は放逸氣儘なり。彼は樂みを其家庭に求め、是は妻子を忘れて煙花の巷に財布の紐を緩む。彼は土を見、是は下を見る。彼が娛樂の標準は高く、是は卑し。彼は良書を伴侶として心術を練磨し、是は酒に耽りて益々惡風に浸染す。彼に賃殖の用意ありて、是は湯水の如く金錢を消費す。

二人の勞
働者

嘗て甲乙二人の労働者あり、薄暮相携へて家に歸る。途にして、甲は乙を顧みて曰く、

『オ、兄弟、俺ア前エに聞きて、事があるがね。他でもない。前エは、立派に、女房や子を養うて、衣服も相當に着せるのみか、加之銀行へ貯金をするッて、エ事だが俺ア前エと同じに賃銀を貰って居て、子供も少ないのに、始終貧乏暇無しッて、エ有様だ。一體何ういふ理由だらう？』

『何有、大した仔細も無いがね。唯一錢の錢を無駄に爲ないッて、エやうな理由さ。』

「何んだ？只其れッきりか？」

「然うさ何でもないことだが、五十歳になつても、この秘訣を知らぬ人が有る例へば、お前さんのやうな。」

「えッ俺がか？手前エは、また何うして、其秘訣を知つたか、俺に聴かして呉ねエ。」

「所望とあらあ言ッて聴かさうが、俺は虚言を云はぬから、眞面目に聴いて貰はねばならぬ。第一に俺は酒代を拂つたことがない。」

「酒代が要らぬ其れでは何か、手前エ割前を出さねエて、他の懐中で飲むのだね。畜生ッ、甘く遣らあがらあ。」

「否、其んな事は爲ぬ。水を飲むのだ、水なら口ハだ。諺にもいふ通り、酒てエ奴は翌日へ流連するものだから、俺はグウ／＼云ふ喉を我慢して、其錢を貯金にするッてエ方針だ。水を飲んで居れやあ、病氣にも罹らず、借錢も出来ッてなしさ。女房だッて寡婦になる氣遣ひもないねエ。心算ッても見なさい。幾何費用が違ふか。一週間に一圓、一年には五十圓だ。其五十圓が、お前エを貧乏に

して、子供が跣足で居る、俺や俺の子供には衣服になるッて譯だ。」

「まあ待ッて呉れ、俺ア其んな呑助ぢやないよ。たまに一合か二合位、引ッ掛はるばかりだ。一週間に一圓なんて、要るものが冗談ぢや無エよ。」

「然うが其れでは聴くがね、お前エさん、この土曜の晩に幾何飲んだ？」

「然うさね、權の野郎と一緒に三合もやッて、熊の野郎が外國へ出稼ぎに行く、と云ふので、送別會の意で、また三合、それから歸宅ッて寝たばかりだ。」

「其時蓋の敷にしたら何杯だらう？」

「馬鹿をなしいや、其んなことが記憶で居られるかい。」

「ねエ、答が出来ないだらう。お前さんは幾何要ッたか、知らないのだ。屹度さうだ。然し其處が即ち一錢の銅貨が財布から消えて行く譯だ。ねエ、了解ッたかい？」

「手前エの秘訣てエな、唯其れ限りなのか？」

「さうさ、一錢を無駄にせぬやうにすれば、可いのは、俺は貯金するから、お前エのやうに、貧乏はせぬ。ねエ、何んでもないことだよ。」

「異個何んでもないが詰ら無えぢやないか。」

「同じ賃銀を取りながら、前エは始終貧乏暇無して、俺は内輪が善くて銀行へ貯金する。其理由は何うだとの前エの質問だが、前エの詰らないといふところに、其理由があるのだ。一體、財産といふものは、取りも直さず獨立と云ふ事で、財産は一錢を積み上げたものだ。加之俺は精出して稼ぐ、勿論前エも然うだが——仕事の辛いことを思へば、稼いだ錢を酒にするのは勿體ないやうな氣がして、俺は銀行へ預ける。それで貯金さへあれば、病氣の折だつて、雨の降る日だつて、心丈夫なものだ。甚麼變があらうとも、御主人に頭を下げて貸して貰ふ必要がないからね。俺は貯金するので、獨立獨立の人間だと云ふ感じがする。借金を背負つてゐる人とか、一錢の貯へも無い人間は、奴隷と同じで、不便なものだ。」

「然し、我々勞働者に權利がもつとあつたら、斯んなに苦しむには及ばないだらうと、俺あ始終殘念で堪らねえよ。」

權利と習

「明日、前エが充分に權利を持つやうになつたら、消費した金が舊に、戻る

だらうか。小兒に靴や足袋を買つてやる錢で酒を飲む日にやあ、權利が有つたつて何の益にも立たぬてはあるまいか。權利の爲めに前エの女房が、節檢することもあるまい。爐が清潔にもなるまい。權利が小兒の顔を洗つたり、お前エの衣服の穴を繕ふものではないだらう。是非とも、我々は權利を與へて貰ひたい。然し權利は習慣ぢや無い。我々の望む所は、其習慣だ。——良い習慣だ。良い習慣さへあらば、我々は今日からでも、自由の人となり、獨立の人間となることが出来る。……それでは、此處で失敬しやう。俺の秘訣を忘れないやうにね。——錢の錢を粗末にせぬと云ふことだけだ。」

「失敬」と二人は袂を分ち、甲は、メインスカートの我荒屋さして、横町に曲がらぬ。予輩は讀者を彼が家に紹介せんと欲す。然し彼の家は、家と云ふほどのものにあらず、不潔極まりて、兒等蠢動し、婦は、金切聲を絞りて、罵りつゝあり。之に反し、乙の住所は家なり。整然として清潔に、婦は仕事に汲々たれども、身形賤しからず、良人工場より歸り來れば、毎日兒等と共に團樂して、平和と快樂とを分ちつゝあるなり。

今や秘密は暴露したり。乙の貨殖論は、謹みて聴く可き價值あり。然れども、彼は猶ほ、城府を設けて、一家の有福は家婦に依ると語るを憚りたり。而して彼の妻は、勞働社會の齊しく羨望すべき所のものなり。家婦の内助あるにあらずれば、節儉も、經濟も、家庭の快樂も成立するものにあらず。特に勞働者の婦を然りとす。何となれば、勞働者の妻は、家婦兼戸主兼乳母兼下婢なるが故なり。節儉ならざる家婦に、金錢を委託するは、猶ほ篩を以て水を汲むが如し。節儉なる家婦は、家庭を安寧ならしめ、良人の生涯を幸福ならしむ。

一日一ペ
ンニー

一日一ペ、ンニーを以て、生活を維持するに足ると信ずる者あらずと雖も、一日一ペ、ンニーづゝの貯蓄は、人の獨立を確保し、家族の爲め、不慮の災厄に備ふる所以なり。

一日一ペ
ンニー
の力

一日に一ペ、ンニーを消費する勞働社會の爲めに設立せられたる貯蓄會社の趣意書及び統計表を見よ。特に何會社と限るの必要なし。何れの會社の統計表も、大同小異なるが、今試みに生命疾病保險會社の統計表に依りて、一日一ペ、ンニーの影響する所を見ん。

第一。二十六歳の男女は、一日一ペ、ンニーに依りて、生涯中、病氣の際に、一週間十シリングを支辨せらる。

第二。三十一歳の男女一日一ペ、ンニーづゝを掛金六十歳を以て満期とすせば、契約後何時死亡するとも、直ちに五十磅の支拂を受く可し。

第三。十五歳の男女にして、生涯一日に一ペ、ンニーを掛金せば、死亡後一百磅の支拂を受くることを得。

第四。二十歳の男女、一日一ペ、ンニーづゝを掛くれば、六十五歳以後、毎年二十六磅、即ち毎週十シリングづゝの支拂を受くることを得。

第五。初生の小兒、一日一ペ、ンニーづゝを掛くれば、十四歳に達し、一時に二十磅の支拂を受くることを得。

第六。其小兒、二十一歳まで掛金せば、獨立生計を營む資本として、一時に四十五磅の支拂を受くることを得。

第七。二十四歳の男女、一日一ペ、ンニーづゝを掛くれば、六十歳に至りて、壹百磅の支拂を受け、何時にても、全額の五分の四を引出す權利あり。六十歳

未滿にして死亡せば掛金全額の拂ひ戻しを請求し得べし。

一日一ペンニーの力は、大略以上の如し。誰か忽緒に附することを得んや。保險會社の統計表を一覽する者は、必ず多少の感慨なかるべからず。一日一ペンニーづゝを銀行に預けるは、半歩的の貨殖なりと雖も、甚だ有益なり。然れども、保險會社の場合は、即席に其威力を現はすものなり。三十一歳の人が、一日に一ペンニーづゝ、保險會社に掛金するは、何時死するとも、妻子の爲めに六十磅に値せり。多人數の小貯蓄を集積してペンニーに大なる力を與ふるは、相互保險の根本目的なり。

労働者の爲めに設けたる生命保險の制は、彼等をして、妻子の爲めに後事を圖らしむるものにて、決して營利的の事業にあらず。道德的の事業なり。宗教的の事業なり。一家の米櫃たる主人の死亡後、能く其遺族をして、獨立の生計を營ましむる正當の手段なり。斯の如きペンニーの使用法は、眞面目なる實利的義侠的の事業なり。

ジョセフ
バクセン
デール氏

故人ジョセフバクセンデールは、自家の傭人等の爲めに利益を圖りたる

ジョセフ
バクセン
デール氏

人なき。彼は常識に富み、世に實業界のフランクソンと稱せらる。俚諺を作るの才に長け、實用的經營を善くす。彼は常に自家の雇人をして、雨天と老後に豫め備ふるの手段を講ぜしめ、彼等の老衰業に堪へざる者に恩給金を與へたり。

彼は倉庫の白壁に墨黒々と大書して曰く、「失望すべからず。働かざれば得る所なし。儲けたる錢を浪費する者は零落して乞食となる。勤勉節約、儉約を以て汝等が生涯の習慣たらしめよ。」と。通行人は日々自然此等の訓言に着眼し、不知不識の間に化せられて、之を實行するに至りたる者多しと云ふ。彼は工場事務所、或は食堂の如き處に長文の訓示を掲げ、以て雇人等を戒めたり。皆一語千金の價值あるものなるが、今其中より、時間を守る必要と云ふ一箇條を抜萃して、讀者の一察に供せん。一、時間を守るは、不紀律な事。紀律は事務の根本原則なり。時間を嚴重に守ることをなれば、不紀律なる時間を守ることは甚だ緊要なり。蓋し一家の平安無事を助くるが故なり。

時間を守らざれば従つて職務の怠慢を來たす。心の沈着は、時間の嚴正より生ずる。利益なき不規律なる人は、常に周章狼狽するものなり。彼は東奔西走するが故に、落つて談話もなすこと能はず。辛うじて駆け付けたる時は、既に事務に遅れ、然らざれば、一の仕事を終らざるに他の仕事に取掛かざるべからず。時間を守ることは、品性に重みを興ふるものなり。蓋し斯の如き人約束を定むれば、人皆彼が其約束を守る知るが故に、自ら人をして時間を守ることを嚴正ならしむることとなるなり。主人にして時間を守る以上は、雇人等も時間を守らざるべからず。實に約束は負債なり。手は汝等と約束する以上、汝等は時間の嚴守を命ず。手は手の時間を徒費せざるが故に、汝等も汝等の時間を徒費すべからず。

ピックフォード
ピックフォード
公衆夫れ或は曰はん、ジョセフ・バクセンデールとは何人ぞと。彼は實際英國は勿論歐洲全土に有名なるピックフォード會社の代表者なり。彼は醫師の子にして、ランカスターに生れぬ。相當の教育を受けて、後棉業に従事し其會社を代表して倫敦に來れり。幾何もなくして、商業恐慌時代に遭遇せし

がば其方針を變へんと決意せり。時にピックフォードなる者ありて、運漕業を開きしが、資本の缺乏に苦みつゝありたり。彼は即ち其資本主となり、一時は業務を擔當せざりしも、事業に何等の進歩あらざるを見、斷然意を決して、其專務取締役となりて、一大活動を試みんと欲したり。是に於て、全力をピックフォード會社の爲めに傾注し、英國全土に其業務を擴張し、海陸の運輸を獨占せり。當時に在りては、道路甚だ險惡にして、或る時期の間は貨物の運搬杜絶するの有様なりき。斯の如き有益なる大事業は、莫大なる資本と、非常なる精力及び管理を必要とす。貨物運搬用の馬匹は、ピックフォード時代に僅々五十頭なりしものや、一千頭以上を數ふるに至りぬ。倫敦、マンチエスター間、倫敦、エキセター間、或は倫敦、エディンバラ間、の運輸線には、多くの停留場を設け、必要な馬匹を豫備したり。又別に造船場を建て、海上運輸に必要な諸種の船舶を、バクセンデール自ら費を投じて建造せり。運輸業の監督は、決して容易のものにあらず。唯堅忍不拔力行の人にして、

始めて能くする所なり。彼は一艘の輕舟を建造し、自ら之に乗りて諸方に漕ぎ廻はり、事務員、運漕人夫等の勤惰を監督し、晝夜を問はず。或は又特別仕立の馬車を驅ることあり。常に時間を惜み、良馬を雇ふ爲めには金錢を吝むことなし。斯の如くして貨車を追及し、人夫等の廉直なるや否、護身銃に裝藥の有無、當時旅行者の危険の一は山賊なりき。事務員の勤惰、事務の整頓等を監視した。

彼は又彼等雇人等が、明暗によりて、其行を二にするや否を見るの用意ありたり。斯の如くなるが故に、彼等も亦互に相警戒するに至りぬ。バクセンデールの力によりて、會社の事業は一大發展を遂げ、交通機關の不完全なる當時に於て、其運輸の狀況は、殆んど間所する所なかりき。

然るに此大發展大成功に一大頓挫を生ずる機運、俄然現はれたり。即ち鐵道の勢力是れなり。予は破壊的の鐵道を憎むものなり』とは、ブリッヂウオーター侯の語なりと雖も、遂に鐵道時代は來りて、何者も其勢力を拒む能はず。第一の鐵道は、某炭坑と某要港との間に敷設せられ、此處より海路石炭を倫

鐵道と運

敦に送れり。第二に設計せられたるは、貨物運送の便を計るを目的とし、ランカシャーは主要の工業地方なるが故に、先づリヴァプールとマンチェスター間に一鐵道敷設せられ、後此兩市より各方面の支線を延張したり。バクセンデールにして、若し此新交通機關の便利を知るの慧眼なかりせば、彼は忽ち一敗地に塗れて、復び起つ能はざるに至りしならん。然れども、彼は早くも最後の勝利が鐵道に在るを洞察せしかば、方針を一變して、鐵道の利用策を講じたり。是に於て、慘憺たる苦心の結果、貨物運輸機關として、リヴァプール、マンチェスター鐵道會社を起し、次いで、フーリントン、バーミンガム間及び、バーミンガム、倫敦間の鐵道を計畫し、議會の委員會に意見を陳述し、賛助を得て、直ちに其工事を起し、竣功後直ちに人馬の運輸業を廢せり。斯くて彼は鐵道運輸界の霸王となり、各市の貨物運輸を獨占して、當時の鐵道會社は、皆其左右する所となる。

彼は亦各鐵道會社の大株主たり。即ち推されて南米鐵道會社社長となり、サウスイリアム、キムピットと共力して、ドーヴァア港に線路を延長せんと計り

しが、ドーヴァー港務局は頑冥にして過酷なる港税を課せんとす。是に於て、彼は斷然其交渉を中止し、ブォークストン港を買収して、南東鐵道會社の所屬港となしぬ。後英國の資本を主として、ブローン及びアミアン間の鐵道を敷設し、倫敦、巴里間の聯絡を完成したり。

彼は個人としての運輸業及び鐵道擴張の爲めに多年盡瘁せし結果、健康著しく衰へしかば、療養の目的を以て外國旅行を企てぬ。野心家は彼の不在を機とし、奸手段を運らして其社長たる地位を奪ひぬ。然れども彼は之が爲めに何等の不平をも抱かざりき。彼に數人の子息あり、皆長じて彼の經營事業を補佐せしが、彼は死に至るまで、自ら其局に當りて、毫も倦む所を知らざりき。彼は自己の職責を重んじ、自家の傭人等に、わが經驗上有益なる訓戒を與へぬ。手翬は今彼の略傳を終るに當り、左に、彼が傭人等に頒布し、且の倉庫の白壁に書付けたる其告諭の一を掲ぐ。こは、「良き格言と忠告」と題せられたるものなり。

仕事の格

「本社の一老被傭者は、最初、小額の賃銀にて本社に雇はれ、勤儉によりてこ

の頃、相當の財産を作りたる由なり。彼の格言は、「シルリング(十二ペンス)の中に、九ペンス以上を消費せず」と云ふことなり。こは極めて些細なる事の如くなれども、決して然らず。二十回にして五シルリングとなり、四十回にして十磅となることを反省せよ。

今假りに一青年が此貨殖法を應用するとせよ。彼に豫め二十磅の所持金ありて、毎年十磅づゝを貯蓄するとせば、六年の末には壹百磅以上の財産を所有するに至る可し。若き中に貨殖の好機を逸せば、老後如何に狼狽するとも、金錢は貯蓄し得らるゝものにあらず。

吾人の従事せる會社は、三十年間俸給を受けたる人々の歎く所となれり。彼等若し勧められたる方法を遵守して、俸給の中より多少の貯蓄をなせば、彼等は相當の資産を作り、社會に相當の地位を得たるならん。
吾人の幸福は、勤儉に依る。勤儉に要するものは、才智にあらずして、不斷の用意なり。世の中に、出世の出来ぬ人は、あらず。賢哲曰く、「神は自ら助くるものを助く」と又曰く、「仕事を厭うて、快樂に耽る者は、忽ち仕事を失ふ」と。

些細なる事と雖も、忽緒に附すべからず。大事は小事より起るものなり。各自は宜しく、各自の職責を盡くすべし。規定の時間を守る可し。今日爲し能ふものを、決して明日に延ばす勿れ。

若し、仕事に平常よりも切迫するときは、自ら狼狽せざるやう、又他人を妨害せざるやう、時間を餘計に用ふべし。各自の職責を懈ることは、紀律を重んずる人に、迷惑を及ぼすものなり。他人の過失を、隱匿することは、往々、其人の利益にあらずして、備主に非常なる損害を與ふるものなり。

近來の出來事は、此事に就きて、特に汝等の注意を促すの必要を感ぜしむ。そは、汝等の地位の公私を問はず、甚だ緊要なるものなり。誠實ほど、人間に貴ぶべきものなし。偽りほど、賤劣なるものなし。汝等宜しく反省せよ。人は、偽りを口にせずして、偽りを行ふものなることを、而して、體裁を繕ふことは、偽りなり。故に、備主の損失を、知りながら、之を知らしめざる人は、同罪たるべきものなり。

なり。加之、彼は偽りを行ふものなり。時間を守らざることとは、一つの偽りなり。言行は如何なる場合にも、公明正大ならざるべからず。過失が少なくなれば、勢力も自ら減ずるものなり。

吾人が、或る重大なる職務を行ふは、稀なることなり。然れども、常に必要なるものは、小なる職務なり。故に、互に、助くべき機會を、忽緒に附すべからず。然るときは、汝等は、最も能く、備主を益し、且つ、汝等の間に、信實及び好意の精神を保障するものと謂ふべし。

善良なる基督敎信者は、善良なる備人ならざるべからず。汝等の運命如何を問はず、汝等が第一に、服膺すべきものは、『神を畏るゝは、智識の始めなり』と云ふ格言なり。

第十章

傭主と被傭者

勤勉の汗は、乾きて消失すと雖も、最後に奏効あるものなり。

シエーク・ヒピリア

人間は規則製造所なり。よく繁げたる荷物なり。其中なる品物には、すべて法規記されたり。

ジョージ・シ・パーバート

「注意」は「勤勉」の儲ける所のものを貯蓄す。仕事に勉むるとも、注意せざる人は、一方の手に集めたるものを、一方の手を以て徒費するものなり。

コナルト

財産の所得、即ち資本の積立ては、比較的高き賃銀を得る労働者の自由な所。尙ほ進んで、賃銀を興ふるに二三の便法設けられ、賃銀を空費せしめざるの組織もあり。今日夜等の貯金額は、甚だ莫大にして、唯眞面目なる習慣と立派なる意見とだに、ちらば、人生の半を経ざる中に、彼等は獨立の資本主となることを得べし。

ダブリン・アール・ケレゴリー

同情の必要

傭主は、被傭者の間に、勤儉、謹慎及び實直の良風を作るに努力し得べきものなり。職工は保護せらるゝを好まずとも、援助せらるゝを拒むものにあらず。

吾人は既に個人が爲し能ふ所多大なる所以を論じたり。彼等は、儉約の良習慣を養ひ、他日の必要に應ずる爲めに、貨殖の策を講ずるを得べし。然れども、彼等の貨殖は、他の刺戟と補助とを待たざるべからず。彼等は、同情と援助とを要す。

傭主と被傭者

傭主にして、自己に非常なる勢力ある所以を知らば、宜しく被傭者に同情と安寧とを興へざるべからず。こは、別に傭主に損失を致すものにはあらずして、却って利益を興ふるものなり。而かも吾人は不幸にして、今日までも、労働者の社會的安寧と改良とを考慮する一人の傭主ありしを聞かず。労働者が傭主を侮り、彼の利益の爲めに熱心ならざるも、亦所以ある哉。今一例を擧げて、傭主の爲めに教ふる所あらん。傭主は労働者をして、土曜日の夜間に、市場に出て、買物せしめざるやう、賃銀の支拂時期に意を用ひざるべからず。蓋し労働者は、多く一週間分の日用品を買ふことを餘儀なくせられて、非常に不利なる地位に立たざるべからざればなり。勿論、多少の餘裕ある労働者は、土曜日以外に、有利なる地位に立ち、日用品を購ひ得可し。傭主は亦飲酒

店にて賃銀を支拂ふの弊風を斷然廢して酒の爲めに浪費せしめざるやう注意するを要す。こは甚だ有害なるものなればなり。

然れども、僱主の爲す可き所は、當に此に止まらず、百尺竿頭更に一步を進めて、勤儉の美風養成を圖らざるべからず。其方便は、男女の爲めに貯蓄銀行、少年少女の爲めに一錢銀行の設立、儉約俱樂部、建物會社、食料衣服組合等の如き種々あり。亦干涉主義に偏せざる程度に於て、勞働者に賃銀の利用策を勸告するを要す。僱主の有力家にして、貯蓄制度の設立を企て、實利實益を爲したる者多し。斯の如き人は、既に其被僱者より尊敬と忠勤とを受くることを保障したり。

同時に、僱主被僱者間には、最も同情を必要とす。實に同情は、貧民、勞働社會、中流社會、上流社會を問はず、一切の階級を通じて必要なるものなり。彼等の間には、多くの社會的懸隔ありて、互に聯絡することなし。法官タルフォード氏將に死せんとす、嘆じて曰く、「人若し今日階級と階級との聯合を圖るに、英國の社會が最も必要とする所は、何ものぞ」と問はば、予は簡單に同情の必要

基督教的
同情

と答ふるに、躊躇せずと、然れども大聲俚耳に入らざるを恨みとす。基督教的根本眞理とする所は、互に愛せよなり。語簡なりと、雖も世界を改新するに充分なる福音なり。然れども、社會的階級に甚しき懸隔ありて、互に事情に通ぜざれば、相互間に、同情及び愛情は成立せざるなり。

慈善は此弊害を矯正する所以にあらず。同情を必要とする所の貧民に、金錢、毛布、或は石炭等を惠むは、多大の效果あるものにあらず。バウンチフル夫妻は、慈善家なれども、其所謂慈善は、金錢に始まり、金錢に終るものなり。一片の同情あらず。由來貧民が同胞兄弟といふ觀念を以て取扱はれざるは、慨嘆の至りなり。

之と同じく、僱主被僱者間にも同情なし。『我は我なり。』『我泳げば即ち足る焉んぞ、人の溺るゝを顧みるの違あらんや』とは、彼等の格言なり。嘗て旅客あり、深夜給仕人の爲めに眠を驚かさる。給仕人告げて曰く、『町の角より出火せり』と。客叱して曰く、『隣家に延焼するまで妄りに眠を驚かす勿れ』と。一僱主あり、職工に告げて曰く、『汝等は出来るだけ予より絞り取らんとす。予も出来る

だけ汝等より絞り取らんと欲す」と。然れども、こは大に誤れり。苟も一片の同情ある人は、斯の如き觀念を抱かざるなり。彼は常に彼の方に向けられたる人情の光明ある方面を見ざるべからず。ボーリンブローク卿曰く、「常に暗黒の方面のみを考ふるは、精神の賤劣醜惡なる標なり」と。

之に反し、労働社會は、彼等の利益を以て、僱主の利益と全然相反するものなりと考ふ。彼等は成るべく勞力の報酬多きを望む。彼等は成るべく勞力を吝みて、成るべく高き賃銀を食らんとす。僱主と被僱者との間には、金錢問題以外、毫も同情なし。頻りに紛擾と同盟罷工との起る亦偶然にあらざるなり。双方は互に味方を頼みて睨み合ひ、其主張を固持して相下らず。是れ吾人がブレントン、ニウカッスル、倫敦及びサウスウエールスの如き大同盟罷工を目撃する所以なり。豈に痛嘆に堪へんや。

兩者の争ふ目的は利なり、物質的利益なり。而かも其利益は、一時的にして、恐る可き最後の大損害を包藏せり。兩者の猜疑は愈々激増し、社會は中心まで腐敗するに至れり。之を治するには、唯眞の同情と慈善とあるのみ。是に依

競争

りて社會の空氣は純潔となるべし。金錢の施與は何等の益なし。社會に慈善及び同情あらざれば、地下の法官タルフォード氏が一念遂に霽るゝの日なけん。

論者或は曰く、同情の缺乏は、大抵競争の弊害より生ず。競争は無情なり、利己的なり、有害なり、破壊的なり、億兆に不幸と貧困とを齎らすものなり。競争は、一方に定價を下落せしむると同時に、他方に昂騰せしむるものなり。競争は廣き肩を有し、重荷を負ふに堪ふるものなりと。

然れども、競争は一利一害を伴ふ。競争は一種の戦争なり。人生は一の戦争なり。労働者に取りて、競争は賃銀を高くする一の戦争にして、僱者に取りては、最大なる利益を收めしむる戦争なり。文學者、政治家に取りては成功——名譽、尊敬、收入を得る——の戦争なり。凡そ弊害は何事にも伴ふものにして、競争も亦一種の弊害を有す。人若し他人よりも幸福ならんと欲せば、或は人間の階級が、他の階級よりも幸福ならんと欲せば、彼等は他を顧慮するの違なし。他を見棄てし、我勝ちに進み行くなり。

競争を休めんか、そは個人及び階級の進歩を障碍するものなり。公等は死せる同一水平線上に蠢動して、社會は何等の變化をも來さざるべし。進化の原動力空に歸して、種屬は一切の短所を以て永久に保全せらるべし。競争を止むれば、個人の戦争休む。即ち個人の進歩なく、亦社會の進歩あらざるなり。競争あるが故に、怠惰なる人も必要に迫られて、自然に奮發するなり。奮發せざれば、彼は敗北せざる可からず。働かざれば、食ふこと能はず。貧を好まざれば、即ち能く働き汲々として、貨殖せざるべからず。他を待つことなくして、我が本分の仕事を爲さざるべからず。

成功は、戦うて困難に打勝ちたる後に來るものなり。故に困難あらざれば、成功なし。争ふべきもの、競ふべきものあらざれば、何物をも得られざるなり。人は必要に迫られて奮發するものなり。奮發の必要は、即ち人類進歩の根原なり。換言すれば、個人的及び國民的進歩の要素なり。世に機械の發明改良あるは之が爲めなり。造船業者、商人、製造家、機械製造人、貿易商、熟練の職工を刺戟するものは是れなり。何れの生産的事業に於ても、競争は其原動力たり。競

争は、世界各國の資本を豊富ならしめたり。——土地の生産力、人間の品性を發達せしめたり。されば競争は、個人の發達進化を刺戟する爲め、絶對的必要なるものなり。

勿論人は、競争のみを以て足れりとすべからず。競争心は人間唯一の特色にあらずして、感覺、同情及び熱望を有す。此等は即ち人をして、公益事業の爲めに共同一致せしむるものなり。公益の爲めには、絶對的個人主義を枉げざるべからず。人は他人と相提携し得るものなれども、或る事情の下に在りては、競争の本能と機會とを有す。競争には、勿論多少の弊害なきにあらずと雖も、結局利益あるものなり。

資本とは何ぞ

勤儉の結果の一は、資本の増加なり。資本は、自制、用意及び過去の計畫を代表す。最も能く貨殖する人は、常に勞働其自身の地位より出世するものにして、其仲間を超越し、遂には人を使役する身分となる。斯の如き人は、勞働者の境遇を脱したりと雖も、働かざる人とは謂ふ可からず。彼等は、生産的事業の範圍を擴張するが故に、人民の最大恩惠者と謂ふべく、且つ疑ひもなく、國家

富強の根本要素なり。數十年間勤儉以て貨殖せざれば、良工の運命は最も覺束なきものとならん。

労働者と
僱主

職工は、彼を用ふる僱主の金錢の使用に關せざるものはあらず。下手な労働者が一日仕事を休めば、十八ペニーの資本を無用にし、上手な職人が仕事を休めば、平均一人壹百磅以上二百磅の資本を運轉せざるに等し。職人は賃銀といふ形にて、利益の配當を受け、事業の成敗に關係なし。純益は資本主の管理と冒険との報酬なり。然れども、不景氣なる時代に於ては、資本主も新聞紙上に廣告せらるゝが如く、常に利益あるにあらざるは事實なり。

良き資本主の下に在る労働者は、負債の爲めに損耗を招くが如き憂なし。彼は器械が廢物となりたる爲めに休業するが如き不利益を見ず。製造品の販路に苦心することを要せず。又原料の價の高下を心配するを要せず。此等は労働者に取りて重大なる利益なり。世の不景氣は、労働者に影響すれども、景氣善き時は高き賃銀を得るものなり。故に此時に際して、貯金せんと欲せば、能はざるにあらず。畢竟するに、會社の盛衰は、労働者に影響すれども、労働

者は會社に責任なきなり。

カーライルは、英國屈指の大工業家に就きて一奇談を語りて曰く、『セント・ドリリアンダーショットのプラグソン、海賊的口吻を以て職工等に告げて曰く、『貴き紡績工等よ、我等の儲けは十萬磅なり。之を以て予は葡萄園を作らんとす。十萬磅は予の所得なり。毎日十八ペニーは汝等の所得なり。さらば、汝等紡績工等よ、今我汝等一人づゝに、一グロート(我六錢餘)を與ふ。之を以て予が爲めに健康を祝せよ』と。

此海賊的工業家は、文學者の空想より出來たる小説的人物なるは勿論なれども、多數の讀者は必ず之を以て實事談と信ずるならん。世間には勿論海賊の如き僱主あるべし。然れども、海賊的ならざる僱主も亦少からず。文學者、出版業者、商人の中には、充分不正なる人物ある如く、工業家中にも不正直なる者あり。然れども、吾人は、宜しく、如何なる職業にも、正直は、根本原則にして、不正直は、例外なることを確信せざる可からず。兎に角、工業家の真相を知るは、吾人に取りて益なきにあらず。

先づ吾人をして、南ランカシアに有名なる一大工業會社の真相を窺はしめよ、即ちエガートン及びニューイーグレーに於けるアッシュウォース氏の紡績會社なり。この會社は、創立以來既に七十年以上に及び、年々業務を擴張し、職工を増加せり。職工の賃銀は、此地方の平均律にして、一週間十七シリング以上二磅までなり。女工の賃銀は、一週間二十一シリングを下らず。一家夫婦と子供との賃金を合せば、一年五十乃至二百磅なり。

アッシュウォース家が職工の爲めに圖りたる設計如何と云へば、最初より設けられたるは學校なり。一千八百二十五年頃、業務の擴張と職工の増加との爲めに、晝間を小學校となし、青年の爲めに夜學校を開き、又日曜學校にも應用したり。爾來業務の擴張毎に學校も擴張せられ、其上に新聞閱覽場、圖書館及び日曜禮拜堂をも建設するに至れり。青年職工の爲めに一のクリッケット運動場も設けられたり。

斯の如きアッシュウォース家が熱心に莫大なる費用を投じて起せる慈善事業は、他日同家に禍を及ぼすものなるべしとの疑惑を抱く者多かりしが、

果して杞憂は事實となり、恩を仇なる不幸を見るに至れり。其事情は次の如し。職工中に非凡なる青年才子ありき。少年職工として、雇入れられたる者なるが、學校の成績優等にして最も數學に長じたり。同盟罷工の流行せし一千八百三十年に、アッシュウォースの工場にも、同盟罷工起り、此青年才子は、其首謀者なりき。新職工の雇入によりて、罷工者等は遂に敗北したりと雖も、青年才子の煽動によりて、彼等は一揆と變じ、意趣晴らしに、同盟に加はらざりし職工及び新募職工等を襲撃して、時ならぬ血の雨を降らし、學校其他の建物を破壊する等、亂暴狼藉至らざる所なく、一時天下の人心を寒からしめぬ。斯の如き打撃を被りしにも拘はらず、アッシュウォース家は、其素志を變ぜず、學校を再築し、教育の効果を擧ぐるに努めたり。謂へらく、職工の惡風は無學無識なるに因る。之を矯正するには、學校の建設より急なるは無しと。果せる哉年と共に彼等は、智識を啓發し、頑愚なる態度を一變するに至れり。

ニューイーグレーの工場は、ポルトンを距る七哩の山間に在り。附近一圓の地は、同家の所有なるが故に、同家は斷じて、此處に飲酒店の開業を禁じたり。

しかば、此地の住民は紀律の正しきと勤儉とを以て有名なり。不良の徒は自然アッシュウォース村には住み難く、職工仲間より指彈せられて、追出さるゝなり。住みたくば、土地の眞面目なる習慣に服従せざる可からず。否らざれば、何處へか住み替へざるべからず。斯くて此地方は、社會より孤立して別天地をなせるが故に、酒色の惡風に感染せらるゝことなし。

同家は、亦職工に對する義務として、便利なる借家を建てたり。石造の二階建にして、二階に二個乃至三個の寢室あり。下は仕事部屋と居室と臺所とに區分せられ、長屋全體を繞らすに壁を以てし、庭園を設けたり。納税は家主の負擔にして、家賃は一週間二シルリング、四ペンス乃至四シルリング三ペンスなり。

金曜日を以て賃銀支拂日となし、且つ服務の紀律正しき事は、疑ひもなく職工等をして土地の愛着心を起さしめぬ。勤續數代に及ぶ者甚だ多く、重縁の者も少からず。特に感ずべきは、未だ曾て盜難の患あらざることなり。職工等も、備主と共に勤儉貯蓄を旨とするが故に、銀行に預金無き者は、少なく、或

は、自宅を建築せる者すらあるなり。

彼等は職工の地位より昇進せざるやと云ふに、然らず。適當なる者は、拔擢せられて、監督者の地位に昇進したるあり。ヘンリー・アッシュウォース氏曰く、「昇進者は三十名もあらんか。而して其中の十名は、或は社員、或は水車の所有者となれり。……職工の境遇改良を圖りたる備主は、世に多からん。而して、こは利益問題より來りしに、あらずして、厚意的の事業なることを疑ふ人は、あらざる可し」と。

職工に同情なき工業家等、例へば、セント・ドリー・アンダー・シヨットのブラグソンの如きは、彼等の財産を絞り取りて、健康の祝杯を擧げる爲めに、各人に僅か一クロットを残し、獨り自ら揚々得々の色あり。然れども、彼等は多く終りを善くせず、一代にして絶えたり。工業家中の最も善良最も高尚なるもの——例へば、ダルトンのアッシュウォース家の如き、デルビーのストラット家の如き、リーヴのマーシャル家の如き、或はハリファックスのアクロイド家、ハッダースフィールドのブルック家の如き——は、數代連綿として繁昌

せり。ストラット家は、英國工業の先鞭者たりしアークライト氏の舊社員なりしなり。實際英國が工業國となりしは、アークライトの紡績器械の發明、ワットの蒸氣器械の發明以來のことなり。

工業家の
公共心

我が工業家の精力設計及び公共的精神に負ふ所なくして、英國は果して今日あるを得たるならんか。農業は果して人口の増加を支持し得たるならんか。工場に職工の需用あらざりせば、我英國の社會は貧富の懸隔益々甚しく、日々乞食の増加を見たりしならん。——佛國の轍を踏みて、財産の掠奪政體の顛覆を招きしならん。——蒸氣機關は、英國の安全を保障したり。大陸の戰亂より我國土を保護したり。蒸氣機關の發明と、工業上に於ける其應用なかりせば、英國は今日第三乃至第四等國の地位に呻吟しつゝあるなるべし。大工業家が富豪となりしは事實なり。然れども、彼等に勤勉と精力と組織的手腕なければ、失敗すべきは明白なる理なり。ストラット家や、アッシュウオース家や、マーション家の人は、富豪となりしは、勿論なれども、單に富貴を目的として、事業に汲々たる者にあらざるなり。彼等は富豪なるが故に偉大な

るに、あらずして偉大なるが故に富豪となりしなり。貨殖は一攫千金の結果にあらずして、寧ろ非常なる勤儉貯蓄の結果なり。アダム・スミス曰く、「大なる財産は、有利なる事業より得らるゝことなく、長日月の勤儉と用意との結果なり」と。

リスター
氏

然れども、亦例外なきにあらず。例へば、ブラッドフォードのリスター氏の如きは、既に結合機關を發明し、更に進んで、絹屑を利用して上等の天鵝絨を織る器械を發明したり。此計畫は從來發明家の着手せざりし所に於て、成功不可能として危みしものなり。リスターは、既に結合機關の成功に依りて、巨万の資を作りければ、閑日月を樂むに綽々として餘裕ありしも、勇猛精進の精神に富みしが故に、絹織器械の發明に全力を傾けたるなり。予は頃日ブラッドフォードに氏を訪ひたる時、其懷舊談を聽くを得たり。其言に據れば、氏が二十年間、毎朝五時半に起床したる、一事を聽かば、世人は如何に氏が苦心經營困難と戦ひしかを曉り得ん。實際氏は英國に氏の如く勉強せし人あらずと自信せるなり。而して未だ成功の見込立たざる中に、巨万の財産を傾け盡く

したることは、最も着眼すべき事なり。氏は其發明の機械に依りて、一錢をも利するに至らざるに、早く懷中より三十六萬磅を支出せしが故に、殆ど破産の境界に陥りたり。實に氏が再び帳簿を作るべく初めし前に、其損害高は二十五萬磅と註せられぬ。爾來、其發明機械の專賣特許權は、氏をして當世屈指の大成功者たらしめたり。

フオスター氏の演説

リスター氏がブラッドフォード市民の爲めに設けたる公園に、先年氏の銅像建立せられたり。其除幕式に於けるフオスター氏の演説は、左の如く結論せられぬ。詰るところ、予は我等が此處に集まれるは、リスター君の名譽を表彰するが爲めか、將た我等自身の名譽を表彰するが爲めか、其孰れなるやを疑ふものなり。吾人は、我英國を實業國となし、爲めに最大富強國とならしめたる仕事の能方を尊敬せんと冀ふものなり。リスター君に尙ぶべきものは、此不退轉の勤勉なり、實行せざるべからずと、自信せる目的を成就すべき此實用的判斷力なり。此決斷心なり。氏の決心は磐石の如く、如何なる反對も如何なる障礙も、之を動かすこと能はず。——斯の如き實用的能力は、我英國

をして今日あらしめたる所のものなり。特に吾人が尊敬を表すべきものは、何ぞと云ふに、そは此人の顯はしたる膽力なり。其破産の悲境に在りて、此處に爲さざる可からざる、或る者あり、予は其爲すべき方法を發見するまでは休まざるべし。一度方法を發見する曉、誰か果して能く我が事業を妨ぐる者あらんやと自問自答せし氏の心事なり。氏は此主義によりて、多年の健闘に耐へたり。吾人は、此等の二大發明に於ける一千八百四十二年以來の氏の苦心經營談を聽きし時、既に名譽の戰勝を得たる此人物の銅像を建立し、吾人の子孫をして他日感奮せしむるの資に供せんと欲したり。こは彼等に、成功せる富豪家の倣を示すのみに止まらずして、亦勤勉、智力、精力、勇氣、忍耐の美性を抱ける人の倣を示すものなればなり。

偉人は能く散財し能く貯ふ

偉人は能く散財し能く貯ふ。モンテスキウ、歴山大王を評して曰く、「歴山大王の強大なりし所以は、第一に其天才なり、第二に節儉質素なり、第三に大事業の成功に必要なる宏量なり」と。ナポレオンも、シャールマンの如く偉大なりしが故に、シャールマンの如く節儉なりしと稱せらる。ナポレオンは、戰爭に

は莫大の費用を惜まざりしが、決して浪費者にはあらず。其他ナポレオンは公共的事業の爲めには金銭に愛着心を有せざりき。此等は能く貯へ能く散ずる實例なり。而して精力勤勉及び大なる組織力を有せし人は、亦皆斯の如し。

大工業家を以て英雄に比するは、一見不倫なるが如しと雖も、工業家は武人と等しく、勇氣天才及び組織力を要するものなり。彼は職工の業務部署を畫策し、是は兵士の戰鬪部署を運籌するものなり。謀略、勇氣、銳利なる觀察力及び綿密なる注意を要することに於て、二者優劣なし。而して其立場より言へば、工業家は最も慈善家ならざるべからず。此點より見ば、サア、チタス、ソールト氏は、工業界の海軍大將たるのみならず、亦工業界の陸軍大將と謂ふべし。世人氏を稱して、工業界の帝王なりと云ふ蓋し過言にあらずるなり。

チタス、ソールト氏は、ヨークシャーの羊毛取扱商の子なり。少年時代より農事を好み、田舎の趣味を喜び、農を以て身を立てんと決心し、ブラッドフォード近在の農夫となりしが、傍ら父の羊毛商會の社員たり。然るに此地方に

サア、チ
タス、ソ
ールト氏

工業熱の熾んなるを見て、其有利なるを看破し、ブラッドフォードに羊毛績績業を開始せり。機敏なる彼は、第一にアルバカ羊毛に着眼せしが、當時未だ其需用なく、ブラジル國より輸入の材料、リヴァプールに山積して販路なし。アルバカは廉價に其一部を買ひ取り、直ちに糸に紡ぎぬ。其れよりリヴァプールに有るだけのアルバカ買占に着手し、又其一手購入を特約し、盛に之を糸となして、莫大なる利潤を得、遂に一大工場を建設するに至れり。是れ即ちソールトが成功の第一歩なりき。

工業界に雄飛すること二十年、機を見て勇退し、舊の農夫となりて、長閑なる餘生を娛まんと欲し、五十歳の春を期して、斷然決行と思ひ定めしが、未だ五十歳に至らずして、其決心を翻へし、營業地の移轉を斷行せり。ブラッドフォードは、工業の勃興と共に人口の増加激烈にして、彼は其以上の増加を好まざりしなり。即ち地を山紫水明のエアルの谿間にトしぬ。エアルの地たるや、前にリヴァッブレードフォード間の鐵道あり、背後にリヴァッブレード間の運河を控え、水陸運輸の便を占め、實に適當なる工業地なり。此處に一大工

場新に建築せられ、壯觀言はんばかりなし、稱してソルテールと云ふ。其構造を説くは茲に要なければ、唯工場及び職工住宅の建築費合計十五萬磅以上に及びしと云ふに止めん。以て其宏壯なるを知るに足らん。

開業式の當時、ソルテール氏は、三千五百名の賓客を招待して祝宴を張り、挨拶して曰く、『予は歩き廻るにあらざれば、逆も此大衆を見ること能はず。貴人の御臨場を辱うしたるは予の非常に名譽とする所にして、特に我が職工諸君の臨席を悦ぶものなり。……予は予の周圍に、此地の風光を娛じむ人目——即ち賃金の高き満足せる幸福なる職工の一團を作らんことを希望す。予は我工場附屬の職工住宅を以て、我が英國工業の模範となさんと圖れり。若し予の行動にして神意に負がざれば、予は幸福と満足とを自ら娛まんと欲す』と。

彼は徒らに大言壯語するものにあらず。其口約は着々實行せられたり。ソルテール氏は、職分と責任とを重んずる人なり。佛國政府より其工場現況報告書を請求せられたる時、答へて曰く、『ソルテールに於ける一切の計畫は、世

の意向に投ずるの趣向にあらずして、全く予一個の感情及び判断より起されたるものなり』と。工場其ものに就きては、多く説くの要なし。時間を節約して生産力を増大ならしむるやう構造せられたり。一分業より一分業に材料を運ぶに、一分間も無益に費さず。機關の馬力は其極度を働き、時間は經濟的に使用せらる。故に其生産力は非常に増加したり。

予輩は、ソルテール氏が、職工の物質的及び道德的狀態の改良に盡瘁したる次第を述べんとす。寺院、ウエスレー派禮拜堂及び文學、哲學會の設けあるを見れば、以て其計畫の全豹を窺ふに足らんか。少年男女の爲めに數個の小學校あり、其運動場は甚だ廣し。大人の爲めには、クリケット場、投球場、クワットト場等の遊戯場設けられ、大なる集會所、浴場、洗濯場、診察所及び養老院等備はらざる所なし。

職工の數は三千人に餘り、其借宅七百五十六軒を算す。家賃は一週間二ペンスより七ペンス迄にして、寄宿所あり。宿費中には税金及び給水料を含み、瓦斯は安價に供給せらる。職工中には家賃の滞納者なく、一人の賃金は一週

二十四シリング乃至三十五シリングにして、父と六人の子供より成れる一家族の収入は、一週四磅四シリング即ち一年二百二十磅なり。職工の爲めに設けられたる斯の如き便利なる家屋は、彼等をして、家庭と云ふ感情を覺醒せしめ、各自其住處を清潔に掃除し、瀟洒たる裝飾を施すに至れり。貧民窟の探検家にして、此一團體を見舞ふ者は、昔斯の如き組織が能く彼等の罪惡と疾病とを防ぎ、道念を堅固ならしめ、智力を發達せしむる所以を知りて、威嘆の聲を發せり。ソルテールの醫員リシド氏曰く、不潔なる家屋に住む人は、襤褸を纏へる乞食の如し。彼は直ちに自重心を失ひ、自暴自棄となる。

ソルテールに於て最も注意せられたるものは教育にして、普通教育のみならず、高等教育まで授けらる。晝の學校あり、夜學校あり、智識交換を目的とする會あり、講演會あり、討論會あり、音樂は最も流行せる娛樂にして、食堂に集まるときは、常に奏樂の聲を聞きつゝ、午餐を喫し、専門の音樂教師あり。音樂を以て娛樂とせるのみならず、熟練なる職工等は、餘暇を以て科學的

娛樂に耽るものあり。例へば、博物學、動物の剝製術、排氣鐘、器械の模型製造、家具の製造の如し、中にはオルガン、其他樂器の製造に熟練せるものもあり。ソルテールには、酒類を商ふ家なし、故に飲酒に伴ふ弊害を見ず、貧民に特別なる病氣は、ソルテールに在りては、見られざるなり。空氣の流通、排水及び清潔法は最も方を致さるゝ所に於て、浴場は完全なり。即ち水浴、溫浴、洒水浴、土耳其浴等備はらざるはなく、洗濯場は目を驚かすほど壯觀を極む。職工は勤儉にして、貨殖に長じ、或る者は銀行に貯金し、或る者は建築會社、瓦斯會社及び他の有益なる事業に積み立つ。實に彼等は人類の最も幸福なる者の中に在るが如し、居るに便利なる家あり、團樂するに樂しき家庭あり、娛樂に釣魚、俱樂部、短艇、俱樂部、クリケット、俱樂部等の設備あり、學ぶに學校、文學會、講堂、博物館等あり、精神の慰安を求むる爲めに、一大教會堂あり。實に彼等は一切の便利、需要及び適當なる娛樂を完備せる別天地を形づくれるなり。此別天地がソルテールの名を得、サア、チタ、ス、ソールト氏が、活神の如く、彼等社會に尊敬せらるゝ所以、豈に偶然ならんや。

ソールト氏の如き大仕掛けの計畫にあらずとも、能く労働者を優待する
備主蓋し世に少からず、彼等は普通の賃銀を給し、勤儉貯蓄を説き、貯蓄銀行
を設け、安價に日用品を鬻ぐ組合を設け、或は衛生的の借家を建て、或は學校
を設立して、労働者の子弟を教育する等、労働者の道徳的社會的改良を圖る
種々の手段を講ぜり。

フクロイ
氏

羅にハリファックスより代議士に選出せられたるエドワード・アクロイ
ド氏も、労働者に勤儉貯蓄の良風を教へて、ヨークシャー一圓に非常の勢力
を有せる大工業家なり、其所有地たるコブレー及びハレール（ハリファッ
クス附近）に職工の便利を圖りて、宏大なる借家を建築し、建物會社を設け、勤
儉貯蓄によりて、彼等自身の家屋所有の便を圖り、或は食料衣服を廉價に買
ひ得る組合を設け、宏壯なる學校を設立し、教師の俸給を支辨し、壯嚴なる教
會堂を建立し、學術協會、労働者圖書館、藏書五千冊、労働者俱樂部、新聞縱覽所、
音樂會、遊戯場等を設備せり。又アクロイド氏は、其廣大なる所有地面を、百平方
乃至二百四十平方ヤードに小別し、之を花壇となして、職工に貸與し、賃料を

以て、毎年園藝共進會を開き、賞與を與ふ。ハレール園藝協會は、此地方に
て最も有名なるものとなれり、一言以て之を蔽へば、アクロイド氏は、四千の
職工の道徳的、精神的改良を圖る爲めに、僱主たる者の爲し、能ふ限りの慈善
事業を爲したるなり。

ヨーク
銀行

アクロイド氏の事業は、常に斯の如く職工の爲めに盡瘁する所多大なり
しのみならず、亦勤儉貯蓄獎勵の爲め、ヨークシャー・ペンニ銀行を設立し、
一般公衆の便益を計れり。一千八百五十六年、氏は早くも職工をして、一ペン
ニ以上の貯蓄をなさしむべく、一小貯蓄銀行を設立したるが、非常の奏功
ありければ、此貨殖組織を擴張して、ヨークシャー一圓の人民に恩澤を及ぼ
さんと決心し、有力なる紳士の賛同を得て、一千八百五十六年計畫案を議會
に提出し、其協賛を経て設立せられたるもの、即ち今日のヨークシャー・ペン
ニ銀行なり。

今左に、其銀行營業史中より要項を拔萃せん。

同銀行の
起原

『人の心に、思想即ち偶然の暗示を生ずる次第は、時として甚だ奇なるもの

あり。彼等は突飛なる空想の子たることあり。或は神の私語なることあり。手の心をして今日の大計畫を偶然思ひ到らしめたるものは蓋し後者なり。其由來は次の如し。都に在りける頃、レントの齋の間、女皇陛下の法教師の説教を聴聞する爲め、屢々ホワイトホール寺院の禮拜式に臨みぬ。四月十二日、倫敦傳道婦人協會支部の爲めに、チャールズキングスレー氏の爲したる説教は、最も難有きものなり。氏は簡単に、『東西』と題せる書の出版を引用して、其協會が倫敦の貧民の爲めに盡くせる効果を説き、更に倫敦に於ける貧富の懸隔及び既に佛國に實現せし如く、其れより生ずる社會上の危險に就きて詳論したり。予は此説教を聽きて大に感慨し、直ちに『東西』を購求して通讀したり。

倫敦の西部に於ける富豪の華美なる生活と、東部に於ける貧民窟の生活との比較を見て、予は感慨禁ずる能はず。如何にして上流社會と下流社會との間に双方の自重心を害することなくして、橋梁を架すべきや。は解決の急を要する難問題なり。然れども、此有益なる一小冊子の巻頭にあるスペン

貧民救助法

サ、伯爵夫人の序文に依れば、雲上の一貴婦人を會頭とせる婦人協會は、或る程度までは既に此難問題を解決したるものゝ如く思はれたり。

爾來予は、如何なる簡便法に依りて、吾人の隣人に對する職分を果たし、予と縁故なき倫敦よりも、關係深き此地方に對し、傳道婦人協會の所謂「自ら助く可く貧民を助くる」主義を實行せんかと考慮したり。自ら助く可く貧民を助くるは、ヨークシャー、ペンニ銀行設立の根本主義なり。

銀行は一千八百五十九年五月一日を以て開業したり。其年の末に至り、未だ七ヶ月を経ざるに、二十四個所の支店開かれぬ。支店の數と貯金者と貯蓄高は年々増加して、一千八百七十四年には、支店の數二百五十を算し、貯金高は殆ど四十萬磅に達せり。

ヨークシャー、ペンニ銀行は、郵便貯金銀行と利害の衝突なし。其主要なる目的は、青年男女に、勤儉貯蓄の良風を教ふることなり。又勞働者の大人に取りても、極めて便利なるものなり。支店の増設に従ひ、貯蓄者も自然に増加したり。此銀行の歴史上最も著名なる事實は、少年の貯蓄が兩親の不注意及

び放逸に及ぼしたる同情的感化力なり。此事實は蓋し社會の一考に値ひするものならん。今左にアクロイド氏の言を藉りて其例を述べん。
支配人曰ふ。凡ての少年貯蓄者は銀行に貯金することに依りて貨殖を計るの傾向あり。而して大人等も之が爲めに酒色に浪費するの愚を悟りて同一の傾向を生ぜり。或る職工等は株券を買ひ、或は農業に従事し得るほどの貯金を有せりと。

禁酒

他の支配人曰ふ。或る大酒家は其子の貨殖に汲々たるを見て慚愧し、酒を節して、今日にては一週間に半クラウンづゝを貯蓄しつゝあり。炭坑夫の不良なる一人は今日正しき貯金者となり、且つ其子の名義にても貯金しつゝあり。彼は従來酒に浪費しつゝありしなり。貯蓄を始めたる日より彼の行狀及び品性は一變したり。又嘗て一坑夫あり、二兒を有す。或る日二兒等、父に請ふに衣服を新調するに足るまで、一週間に一シリングづゝ、銀行に貯金せんことを以てす。従來自己の賃金と二兒の賃金とを酒に空費しつゝありし彼は、悔いて勤儉家と變じたり」と。

一支店の書記は酒呑みの夫婦が其子供等をして銀行に貯蓄せしむるを知れり。語りて曰ふ。予は常に襪襪を纏ひつゝありし一少年が一日銀行より貯金を引出し、三時間も経ざるに、早くも美服を着て、グッドフライデーの唱歌を歌ふ爲めに學校に来れるを見し時、歡び禁ずる能はざりき。バンド、オブ、ホリズ、オン、グッド、フライデーの會合に於て、彼は滿堂の大人小人等に向ひ、銀行の有益なるを知る者は手を擧げよと求めける時、忽ち無數の手の擧がまし中に、一人の貧女は、余は二兒の代りに二本の手を擧ぐと叫びたり」と。
「一家族の父なる一坑夫は、酒を断ちて、其金を銀行に預け、遂に建物會社によつて、四百磅を以て二軒の家屋を建てたり。銀行の彼等下流社會に於けるは、猶ほ蜂巢の蜂に於けるが如きものにして、即ち一種の貯藏所なり。病氣其他不時の災難に遭遇する時、彼等は銀行に避難し得るが故に、毫も狼狽するに及ばず。」

一宣教師曰ふ。予は二年前酒呑の夫婦に遇ひ、禁酒を盟はしめ、其錢を銀行に預けしめたり。彼等の典したる質物は甚だ多かりき。然れども、今日にては、

悉く之を受け出し、毎週銀行に少しづつ貯蓄しつゝあり。貯蓄する毎に、亭主は常に酒に費すよりも快しと曰へり。彼等の家庭は今日甚だ安樂なり。

一醉漢あり、一夜突然銀行に來り、一シルリングを投げ出して曰く、「是れ麥酒六杯分の代價なり。然れども予は今日まで飲んだる錢を貯蓄すると旦那に約束したり」と。此男は眞面目となり、規則正しき貯金者たるなり。

他の銀行に於ても、一無頼漢が其女房に、銅貨數個の貯蓄を勧められ、俄にその氣になりて、次第に貯金高を増し、同時に禁酒せし例あり。彼は暫時にして其信用を増し、遂に建物會社の株券一枚を買ひ、後又一枚を買ひ、其拂込みを了りし後、地所を買うて、二軒の家屋を建て、其一を住宅となし、一を借家とせしが、今は堂々たる商人となり、二三の雇人と一人の弟子を有する身となれり。彼は謹嚴にして、其友人及び隣人間に重んぜられつゝあり。

斯の如き例を擧ぐれば、僕を換ふるも猶ほ盡きずと雖も、餘りに煩はしければ、今之を省きつ。ペンニー銀行の本店支配人は、支店支配人等の爲めに、忍耐と奮發との教訓なりとて、次の逸話を語れり。「スミス君は、古參支配人の一

小見らし
き仕事

人なりき。然れども一二日出勤するや否、小見らしい仕事なりと云ひて辭任したり。予答へて曰く、「我々の仕事は小見相手なり」と。其後、偶然彼と出會しける時、予は銳氣を挫かるゝこと度々にして、我等は果して、或る利益を得つゝあるや否を疑ひ、餘りに馬鹿氣たる仕事なれば、寧ろ銀行を閉鎖するに若かずと想ふことありと嘆じたるに、彼は熱誠の色を面に浮べ、答へて曰く、「不可なり。君は斯かる思想をば、夢にも社長に感ぜしむべからず。君は君の利益を得つゝあるを知らざるなり。銀行内の人は、自身貯蓄家にあらずれば、其家族が貯蓄家なり」と。予は大に悟る所ありたり。若し社長アクロイド氏が失望する時は、予は將に此言を以て答へんとす」と。

是に依りて之を觀れば、貯蓄銀行は非常なる慈善事業なり。是に依りて平和、安寧及び慰樂を受くる家族萬を以て數ふ可し。アクロイド氏の例に倣ふ者甚だ多く、英國は今や到る處としてペンニー銀行の設立なきは無し。

ペンニー
銀行

第十一章

クロスレー家——傭主と被傭者(續)

富を樂むの術と、且つそれを頂つゝの徳とを以て、富を樂む。

子の冒險は一局部に止まらず、亦一場所に止まらず。且つ又、予の全財産も、目下の資産のみを以て止むものにあらず。

最も悪しき道路は、屢々最も滑かなる運命に導くものなり。

誰か、徳高き妻を見出し得る者ぞ。彼女の價はルビイよりも遙に高ければなり。

彼女の良人、彼女に心を寄すれば、彼は腐敗するの恐なし。……彼女が羊毛及び亞麻を探して、甲斐々々しく自ら働く。……彼は紡車の錘と竿とを手

にす。彼女は貧しき者に其手を伸ばし、乏しき者に其手を届かす。……氣力と節操とは、彼女の衣服なり。……彼女の子弟は、起ちて彼女に祝福を祈り、彼女の良人も亦然して、彼女を稱讃す。

製造業と協同主義とを結合し、職工中の功勞者に利益の配當を與ふる工業家、少からず資本と勞働との衝突を防ぎ、勞働者に満足と與へんとするは、

其目的にして、一舉兩得の名案なり。斯くて勤儉貯蓄したる勞働者は、勞働者の地位を脱して、社員の椅子に就くを得るに至れり。

ハリファックスの二大工業たる、アクロイド家及びクロスレー家の事業は、斯くて株式會社となりたり。彼等は斷然舊來の主義を打破して、率先支配人、職工等に株券を與へたるなり。

前章に於て、ヨークシャーに於ける、エドワード・アクロイド氏の慈善事業を述べたり。故に、予は茲に毛氈製造を以て世界に有名なるクロスレー商社に就きて、少しく説く所あらん。クロスレー商社の歴史は、本書「勤儉論」に有益にして、趣味ある材料なれば、冗長を厭はず、詳述する所あらんとす。讀者請ふ之を諒せよ。

此商社の創立者をジョン・クロスレーと云ふ。世々ヨークシャーの舊家なり。ジョンの祖父は、ハリファックスの近傍、キングス・クロスに住み、名門の出として、高等の教育を受けしが、資性實業を好まず、遊獵に耽りぬ。然るに、其妻は、之と正反對の性質を有し、勤勉にして精力ある好家政家なり。當時一家の維

ジョン・クロスレー氏

持は彼女の双肩に懸り、學校の收入を以て其維持費とせり。此學校は、リファックス近傍にて、最も盛大なるものなりき。

其子の一人即ちジョン・クロスレーの父、初めて毛氈製造業に手を出したり。彼はウエブスターと云ふ人に就きて其業を學び、後ウエブスターの一女を娶りぬ。ジョン・クロスレーは、叔父に毛氈織の業を習ひ、後ラッデンデン・フートの大毛氈製造業家カーラーに招聘せらる。既にして、カーラーは、屋敷の新築を始めぬ。其規模の宏大なるを見て、カーラー資産を作れりとは、何人も想像する所なりしが、其實内幕の魂膽は、甚だ苦しさものありたり。即ち建築費として四千磅を支出せしが、資力遂に續かず、落成を告ぐるに至らずして、カーラーは自暴自棄の極、帳簿を焼き棄てたり。クロスレー看破して曰く、「彼は一婦人の歡心を得んが爲めに汲々たり」と。一婦人とは、蓋しカーラーの妻なり。カーラーは、非凡の實務家なりしも、妻は非常なる贅澤家なりき。而して、彼女が榮華を行ひし新築の屋敷は、カーラーが零落の因となりぬ。落成後幾何もあらずして、カーラー死し、事業は忽ち瓦解せり。

ジョン・クロスレーは、即ち轉じて、ハツファックスのカーラー・ジョーヂヤの下なるジョブリス氏の毛氈製造場に雇はれぬ。是に於て、彼は一婦人を迎へて室となす。其結婚に就きては一場の奇談あり。由來クロスレー家には、妻に豪の者多く、一家の繁昌は其方に依る者頗る多大なり。

ジョン・クロスレーの妻をマルサと云ふ。フォリー・ホールに生る。曾祖父をトーマスターナと云ひ、シブデン・ゲアルレーの農夫なりしが、其家は今尚保存せり。其長子家業を嗣ぎ、次子エブラハムは農業と機業とを兼ね、二男一女あり。エブラハム、トーマス及びマルサと云ふ。長男エブラハムは、即ちジョン・クロスレー夫人の父なり。

エブラハムは、農と機業とを兼ねたり。然れども、讀者須らく記憶せよ。當時の機業は、今日より見れば、言ふに足らざる小規模のものなりし事を、其後一時弟トーマスとの共同事業とせしが、結婚後分離して、彼は爾來スカウト農場の所有者となり、其處に門戸を構へたり。エブラハム・トーマスは、斯の如く、相當の地主なれども、娘マルサを下女奉

公に出すを敢て面目なしとは思考せざりき。マルサ十五歳の時、フリーの
オールドフヒールド嬢に雇はれ、下婢、小間使、料理人を兼ね、且つ朝夕牝牛五
頭の乳を搾りつゝ、十年の間、誠實に忠勤を勵みぬ。されば、給金も最初一週十
五ペンスなりしが、二年目に十八ペンスとなり、九年目には増して、一年六キ
ニとなりぬ。而して、アルサは奉公中、貨殖に汲々として、三十磅を貯蓄する
に至れり。

クロスレー商社の創立者たり、又アルサターナーの良人たるジョン・クロ
スレーは、元來一毛氈織工なり。一夜機を織りながら酒を呑みけるに、酒壘を
取落し、壘は碎けて四邊に狼藉たり。クロスレー周章て之を拾ひ上げんとし、
過ちて腕を傷け、出血甚だしく、心地死すべく覺えたり。負傷の後は、一時仕事
を休みしが、或る日主人カーラー、彼を呼びて、訊ねて曰く、「機は織れざるとも
機を緊着けることは出来るならん」と。即ちジョンは、命に依りて之を試みた
り。甚だ熟練なりければ、カーラーは、再び機織部に歸ることを許さざりき。ジ
ョン・クロスレーは、自ら其負傷を以て、其生涯の一轉化なりと曰へり。

求婚事情

彼がマルサを娶らんとて、マルサの父に交渉したるは、此時代なり。マルサ
の父は、自尊傲慢にして、織工ごとき人物に大切なる娘は與へ難しとて、容易
に諾する色あざりき。恐らく、マルサ自身の懷舊談は、其結婚を最も明白に
語るものならん。

「或る夕暮、余門前に出でけるに、一人の若き男佇み居りて、馴々しく寄添ひ
來り、情嬌になれよと口説くにぞ、余は謝絶して、其儘室内に入りぬ。其後度々
其青年の姿を見たりしも、言葉も交さずして、數年を過ぎぬ。彼の名はジョン・
クロスレーと云へり。余の主婦は、此事を耳にしてより、絶えず注意を拂ひて、
余の身を保護し給ひ、且つ嘗て娘なりける頃、クロスレーと云へる婦人に、學
校にて教を受けたるが、其婦人の良人をトーマス・クロスレーと云ひ、今うる
さく附纏へる青年の祖父なりと物語られぬ。戀路の間に、あこがれて、門前を
行きつ戻りつ彷徨ふ彼の姿を見る毎に、主婦は常に「若きクロスレーが、又來
た」と言はれたり。

一日、余は彼より、艶書を受取りぬ。文句は今日一々記憶し居らず。ジョン・ク

ロスレーの外にも余に言ひ寄りたる者數名あれども、ロスレーの如く剛情なるはあらざりき。余も遂に其情に絆されて、心を彼に許すに至りぬ。最後に送り越したる手紙にて彼は、ロイプ・ジョー・ジャードに一軒の空家ありて、工場にも程遠からず、甚だ便利なれば、今を二人して世帯を持つのは好機なりと迫りぬ。余は十一月の五日に主家より暇を貰ひて父の許に歸るべければ、其節順路其空家を検分せんと答へやり、主婦に請うて數日の暇を貰ひ、其空家をも検分して家に歸り、父母に結婚の許可を願ひしが、父母は頑として聽き入れ給はず。已むなく、ホーランド嬢の許に歸りけるに、二三日経ちて父母は、妹グレースを使者として此縁談は斷じて兩親共不承知なり。若し強ひて親の言葉に背きて、ジョングロスレーと夫婦にならば、親子の縁も是れ限りなりとぞ申し送られける。

妹の去りける跡に、余は寢室に退きて、さまざまに思ひ惱みつゝ、結婚式の準備品として求め置きたる聖書を取り出して、何心なく披きたる所を讀めば、偶然、汝が父汝が母汝を棄てば、良人汝を拾ひ上げんとの句あり。久しく結

ジョングロスレー
事業家
となる

ほぐれたる氣忽ち露れて、最早歸趨に迷ふ所あらずなりぬ。余は意を決して、ロスレーの申込みを承諾し、黃道吉日を擇び、一千八百零一年二月十八日芽出度借老の契りを結びぬ。

此良婦を娶らざれば、ジョングロスレーは、遂に碌々として世を終りしや、甚だ明白なり。結婚後、マルサは、良人と共に苦樂を分かち、能く貞女の誠を盡くせり。而して、マルサは、或る意味に於て、ロスレー家の大黒柱なり。工場主ジョブリスの死後、ロスレーは、他の二人と共に、其社員となり、事業を繼續したりしが、未だ幾何もあらずして、社員の間、意見の衝突起り、ロスレーは、斷然勇退して、デイリンク・クロウミルを借り受け、弟トーマス及びゼー・ストラファースと協同して、毛絲紡績業を創め、同時に以前の關係より、リス商社の毛絲紡績及び染絲を引受けぬ。實に此リス商社の紡績及び染絲は、デイリンク・クロウミルの重なる仕事なりき。然るに、茲に一大恐慌俄然として來りぬ。それは、リス商社が、突然約を變じて、仕事を他に託したることなり。是は實に當時のロスレーに取りて、一大打撃なりき。然れども、其

損害は非常の勉強と奮發と節儉とによりて回復せられぬ當時マルサの苦心は實に言語に絶するものと謂ふべし。其苦心談の一節に曰く、『余は毎朝四時に起きて朝飯前隣人等の起き出づる頃までに、二シルリングづゝ稼きたり』と。

兎も角もクロスレー兄弟及ピトラヴァースの共同事業は、二十年間繼續し契約年限の満期に積立金四千二百磅に達し、各自一千四百磅づゝを分配したり。四千二百磅は實に二十年間の苦心に報ふるには餘り薄しと雖も當時の「デイ・イン・クロウミル」は微々たる組織にして所謂社員各自の手業より稼ぎ溜めたるものとせば、亦漫りに悔り難きものと謂はざる可からず。『二千四百磅は甚だ有益なるものとなれり』とはマルサの言ふ所實に成功の第一歩なりしなり。ジョン・クロスレーは遂に「デイ・イン・クロウミル」を買ひ占めぬ。彼既に八人の子女を擧ぐ、男兒は皆父の業を補佐し、父母の勤儉に感化せられ、有爲の人物となりたり。

クロスレーの一族

「デイ・イン・クロウミル」

たり。其語る所に據れば、彼は隣家の子弟養育法の失敗に、多くの注意を拂ひたり。消極的主義の教育法は、監督嚴重に過ぎて、一步も自由に戸外に出さしめず。故に世間見ずとなり、父の死後、籠を出てたる鳥の如く、自由に娑婆に出づれば、事皆豫期に反し、茫然として爲す所を知らず。斯の如く、消極的に養育せられたる青年は、大抵方向を誤りて零落するものなり。之に反し、極端なる積極主義にては、餘りに放任に過ぐるが故に、世路の艱難に耐ふるの銳氣を失ひ、舵なくして渺茫たる海に乗出したる船の如く、忽ち人生の海岸に擱岩坐礁すべし。

乃ちクロスレーは、此二主義の利害得失を考へ、折衷主義を採りて、我子を以て出来得る限り、人生の智識と經驗とに豊富ならしめんと力めたり。家に在る時彼は、必ず側に其子の一人を控へ、家を出づる時も必ず其一人を伴へり。斯の如く誘掖指導せしが故に、彼等は皆世才に長じ、社會の善惡表裏に明るく、前途を誤ることなくして、着々成功の域に進みたり。

「デイ・イン・クロウミル」

クロスレー家の歴史は、此上語るの必要なし。ジョン・クロスレーは、一千八

クロレイ
氏

百三十七年を以て易簀し、ジョン・ジョセフ、及び男爵サア、フランシス・クロス
レー、其事業を継げり。サア、フランシスの死後、今日日尙ほ淺し。一千八百五十
七年、彼は風景絶佳なる一地區を買ひ、ハリファックス市に寄附して公園と
なしたり。其寄附式に當り、万歳聲裡に起ちて、一場の演説を試み、特に彼は度
々市長と金錢問題を論じたりし事を述べて曰く、「思ひ起せば、今より二十年
前、一日彼と共に此問題を論じたる時、予は、金儲けと云ふ事は、愚なることに
て、多くの人は、金を儲ければ幸福になると考ふれども、そは、恰も水上の泡の、
捉へんとすれば、忽ち消え去るが如きものなることを論じたり。……若
し予が名門華胄に生れ、若しくはウィリアム・ゼンカラと共に來りし人
々の後裔なりしならば、予は今日あることを得ざりしならんか。亦何等の誇
るべきものもあらざるならん。然れども、予は素微賤より起れり。故に予は我
家を興したる者に、予の今日有する名譽を分たざるべからず。予の母は、相當
の田地を所有せる農夫の女なり。勿論言ふほどの田地ならねど、先祖傳來の
ものなり。我が母の父は、ジャコブと同一の過失をなせり。——ジャコブは、ジ

マルサ
クロ
の誓

ヨセフを見るの明を缺き、我が母の父は、我が母を理解し能はざりき。我が母
は十七の春を迎へしが、家に在りて父母の脛を嚙らんよりは、如かず一本立
ちにて世を渡らんには、と健氣にも意を決して、父の言葉に背きて、奉公に出
でぬ。予は今日、我が母の奉公せし家の繼嗣たる人の臨場を辱うせるを名譽
とす。ハリファックス・ポールド・オブ・ガーチアンの副社長、オールド・フー
ド君は、即ち其人なり。我が母は、奉公中、一人して下婢と小間使と料理人とを
兼ねたるのみならず、朝夕一日も缺かさず六頭の牛乳を搾れり。其他彼女は、
小宮殿にも似たらん華美壯麗なる主家の一切を監理せしが、此等は尙ほ未
だ其大手腕を揮ふに足らざるものなり。女主人は、絲を紡がしめぬ。我が母は、
ワレーの住民の出來ぬ事を爲したるなり。——彼女は羊毛一ポンドより
三十六縮の絲を紡ぎて、主人に多くの儲けあらしめぬ。』
サア、フランシスは、進んで、デイ・イン・クロウミルの所有者となりしまでの
父の經歷を語り、前段に述べたる如く、扱て曰く、「彼女の精力は、變はる所なく、
毎朝四時に床を出て、庭に下るれば、即ち神に誓うて言ふ、天若し此土に於て

余等に祝福を與へ給はし。余等は世の貧しき人々に之を分たんと。予が誠實を旨として、父の事業を大成したる所以は、此誓ひあるに依る。我が母は生前常に我等兄弟を戒めて曰ふ。實價より安く物品を鬻ぐ勿れ。こは汝等の産を倒して、永く世に益する所なし。されど、冬季中、貧民等に仕事の無きときは、損をなしても安く鬻げよ。蓋し労働者が家に歸りて、見等が飢に泣くも、與ふるに物なきが如きは、憫むべきものなればなりと。

ハッ
クス
公

扱て、サア、フランシスコスレーは、果して何を以て母の素志に報ひしか。氏曰く、「一千八百五十五年九月十日、早朝予は北米合衆國ホワイトマウンテンに向ひ、クエベックを出發せり。當時旅情を慰めたる風景は、今日尙ほ予の眼前に髣髴として現はる。ホワイトマウンテンの旅館に投じ、其夕暮、獨り散歩を試み、實に得難き絶景にして、夕陽今やワシントン山に春つき、紅なせる雲の色は、しき、綿も亦及ぶ所にあらず。予は恰も神と共に逍遙せるが如きを感じ、獨り心に問うて曰ふ、我果して何を以て、神の恵みに答へんか。神よ、願はくば、神慮のほどを告げたまへと。神勅直ちに來れり。曰く、此風

景に懐くべく、汝と與に數千の人を伴はざりしは、能はざるが故なり。然れども、此風景を取りて、彼等數千萬人に與ふるは、爲し難きことにあらず。ハリファックスの労働者が、仕事を終りて散歩するの場所として、術と自然とを調和するは、爲し難きにあらず」と。予はいみじき思想よと思へり。予は旅館に歸りて、祈禱を捧げ、安らかに眠りぬ。翌朝眼覺むるや、予の感想は亦勸かすべからざるものとなれり。九月十日、クエベックを出發せし折、予は、公園建設の事は、夢にも思ひ及ばざりし所なり。歸宅後、予の志は愈々堅く、爾來萬難を排して之に着手し、漸く工事を終りて、茲に芽出度開園式を舉行するは、予に取りて、實に幸福なる日なり。

公園の開かれたるは、實に一千八百五十七年八月にして、後三年、恩惠者サア、フランシスコスレーの銅像建設の企畫あり。主唱者ジョセフ、ダルハム、橄を四方に飛ばして、公衆一般に寄附を募る。政黨連の醜金する者甚だ多し。時偶々伊太利に革命起り、ヴィクトル・エマヌエルが伊太利統一の壯圖を行ふに際す。之が爲めに、銅像建築の事一頓挫を來し、久しく實行に至らざりき。

蓋し、建築材料の大理石を掘るべき、カルララの石工等、ガリバルデーの獅子吼に、自由を絶叫して奮ひ起り、エマヌエルの馬前に戦ひしが故なり。伊太利の平和克復後間もなく、銅像は落成したり。

「天若し此土に於て、余等に祝福を授け給はば、余等は之を貪しき人々と分たん」との、マルサ・クロスレーの誓は未だ公園の建設を以て、全く満たされたるにあらず。こは、マルサの良人が初めて、デイン・クロウ・ミルの所有権を得たる時、マルサが神に誓ひたる語なり。ハリファックス、キツデル・ミンスター、マシエスタ、及び倫敦に於ける、クロスレー家の大事業は、組織一變して、一千八百六十四年合資會社となれり。即ち職工事務員等、一切の會社に關係ある傭人と協同して、會社の利益を圖り、純益金をば、彼等に同様配當する組織にして、彼等が株を所有し得る爲めに、社主は莫大なる金を彼等に貸與せり。斯くて、彼等は株券を所有し、年々利益の配當を受くるに至れり。而して事務員となり、職工となるは、彼等の自由に選擇し得る所なり。

マルサの
業志報ひ
らる

而して、結果は極めて良好なり。成功の保障に、必要なる社中一同の精力

建築家と
協同

擴充して豫想以上の成績を收め得、以て工業界に一新機軸を出せり。現今此會社の傭人の持株は三萬磅に達し、職工の爲めに設けられたる貯蓄銀行の預金は一萬六千磅なり。是に於て、マルサの素志、全く報ひられぬ。

被傭者の利益の爲めに企てられたるもの多き中にも、ウエイクフェールドに近き、ホイットワード炭坑に於けるブリッグ家の美舉は、最も有望なるものの一なり。此炭坑は、一千八百六十五年を以て、株式會社となり、坑夫は即ち其社員となれり。積立金を引き去りて、利益配當年一割以上に及ぶときは、一割以外の利益の半額を賞與として、被傭者の間に、其俸給の高に應じて配當するの組織なり。炭坑主の目的は、畢竟同盟罷工を豫防して、労働者と利害關係上相提携するに在るなり。

此計畫は、大に工業界の歡迎する所となれり。ジョン・ステュアート・ミルの經濟原論に曰く、「ブリッグ會社は、一新機軸を出せり。被傭者と社會改良との爲めに、斯の如き有益なる制度を設けたるは、傭者の大名譽なり」と、代議士ヒ

ウ氏炭坑を觀察し、其初年に於ける大成功を見て、感嘆し、社主に告げて曰く、『足下は、英國の爲めに大功勞ある者と予は信ず。英國は永く足下を徳とす可し。』百里萬國博覽會は、ブリック會社に、勞働者が株主なるを否とに拘はらず、一定の配當以外の利益金を彼等に配當するの方針を執りたる第一の英國の大備主なり』との褒狀を附與したり。

然るに、不幸にして、此有望なる計畫は、一頓挫を來せり。そは備主の罪にあらずして、被備者の罪なり。近來炭價の騰貴によりて、備主等は其利益に満足せしも、被備者は、決して其賃金に満足せざりき。若し彼等にして、ウエーリスの炭坑夫の如く、無遠慮なりしならば、同じく、賃金の増加を要請せしならん。若し果して然らば、ウエーリスに於けるが如く、備者の失敗を來たせしならん。然るに、此有望なる組織遂に廢止せられて、工夫は、今日にては利益配當を受けず、單に賃銀のみにて、働くやうになれり。事の茲に至りし眞因は、勞働者が無學無識にして、此組織の有利なるを知らず、徒らに目前の利に走りしが故にして、ホイトトウの炭坑中にも、勿論勸檢貯蓄によりて、財を遺し、自

他の協同組織

己の家屋を所有するに至りし者ありと雖も、其大部分は、儲ければ儲けるほど、金錢を湯水の如く消費して、靡みず、零落實に憫むべきものとなりぬ。

鐵工界にも、此組織を採用する者數個所ありたり。マンチエスターの、グリーンニング鐵工會社及びミッドルスポロの、フォックスヘッド鐵工會社などは、其尤なるものなり。然るに、其結果は、坑夫の貪慾と怠慢とを生じ、一時製鐵業の不振を來し、失敗に終れり。特に、グリーンニング鐵工會社の如きは、非常の熱誠を以て、此計畫を實行せしかば、被備者の方より見ば、非常の成功なりしが、不幸にして、會社の損失相續ぎ、遂に瓦餅に歸したり。

フォックスヘッド鐵工會社

之が爲めに、同盟罷工を防遏し得たりしも、勞働者に怠惰の風を起して、仕事は四分の一減退せり。會社は、一大同盟罷工を持餘して、一千八百六十六年此協同制を採用し、會社は他の會社に關係するを得ず、勞働者も亦他の會社に關係すべからざるの條件を附加したり。利益に依りて、勞働者に賞與金を與ふる規定を變じて、ブリック會社の如く、一割以外の利益を二分して、其一分

を會社の所得となし、一分を賃銀の高下に應じて労働者に配當すること
なし、且つ貯蓄法を設けたりしが三年間に於て貯蓄者は唯一人と云ふ不結
果を來し遂に此貯蓄法を廢止するに至れり。

商業不振の結果最初二ヶ年間會社は無配當なりしが労働者は規定の賃
銀を支拂はれ生産力は前途甚だ有望なる景況を示せり第三年目に於て二
分五厘の賞與金が僱主と被僱者の間に配當せられ賃金は五分の増額をな
したり第四年目に於て賃金は更に一割を増し斯くて甘き汁を吸ふ者は勞
働者なりき然れども四分の賞與を配當したり總會に於て社長ハッド氏の
報告は次の如し。

或は吾等の方針が餘りに人情に傾きたりと謂ふ人あらん予は人情主義
を以て仕事を爲すものにあらずと雖も亦金儲け一方に偏するを好まず予
は數年間諸君と共に協力し且つ諸君の爲めに多大の利益を圖りたりと信
じて疑はず兎にも角にも人生五十限りあり二十年乃至三十年の後は、地
下の人とならざるべからず而して黄泉にては僱主又は被僱者とならん

も爲すべき仕事なし吾等の執りたる方針が何等の利益を諸君に與へざら
ばとせばそれは極め至奇怪なることなりと謂ふ可し相互の利益を計り誠實
に協同して全力を傾注するは僱主の職分にして亦被僱者の職分なりと信
ずべきことなり。

石炭炭場の恐慌は製鐵業に影響を及ぼせり石炭の缺乏は屢々製鐵場にお
て休業を餘儀なきせむめたり石炭供給減少の最大原因は労働時間の短縮
と賃金の増額とならざるが故なり尙ほ三分三厘五毛の賞與金は、千八百七十
六年被僱者に配當せられ生産力は依然として良好にして社員の多くは多
額の貯蓄を有せり翌年の賞與金は四分なりしが工場が石炭の缺乏に苦し
むるときは依然として、僱主の大集會となり爾來賃銀を増額せず且
商業組合の運動に反對することを決議したり。

諸君は貨殖に汲々として不時の災厄に備ふるの覺悟なきべからず災
難は早晚必ず來るものなり老後の計を爲して良書を讀め市立圖書館あり。

諸君は入場するの機会を有せるにあらずや、信用を得んと欲せば、正直ならざるべからず。英國の労働者は、理義に明るく、正直にして、人情を知らざるべからず。予は諸君が終始斯の如き労働者ならんことを要求す。諸君は宜しく、諸君の受くる優待に感謝すべく、諸君の爲めに盡力せる人々の好意に感謝するを要す。諸君が一片の同情を有せざれば、儲主の中の善良なる者は倒れて、壓制的の者のみ、獨り漁夫の利を占むるに至らん。漫りに私利と感情とに奔る人に盲従して、其手足となる莫れ。彼等は唯私利を計るが爲めに、諸君を利用する者にして、遂に諸君を絶望せしめ、孤立せしむるのみなり。」

されど、徒勞に歸したり。賃金は二割の増額を來たし、賞與金は廢止せられ、石炭の缺乏は依然たり。儲主は利を見ることなくして、損失を招けり。鐵の價は下落して、工場は二ヶ月間休業せり。其結果如何と云ふに、總會に監査役ウォーターハウス氏報告して曰く、「本年の總收入金は、總支出に超過せしと雖も、利益配當を爲すに足らず。儲主及び被備者に分つべき賞與なし」と。一千八百七十五年も無配當にして、會社は最早協同組織を維持する能はざるに至り

ぬ而して其間に被備者の得たる賞與金全額は八千磅の巨額に達したり。其より後、サア、ジョセフ、ホイットウォース氏も、利益を労働者に分つの意思を發表せしが、其方針は尙ほ未定にして公表せられざりき。カーライル氏、其計畫あるを聞き書を寄せて曰く、

カーライルの書簡

「英國工業界の大頭連が、皆足下と同一の精神を有せんこと切望に堪へず。熟ら之を察するに、今日英國の狀態は甚だ不吉なるもの、如し。資本と労働との問題は益々沸騰を極めて、何時解決せらるゝものとも見えず。予が自ら正鵠を失はずと信ずる所見二あり。第一、先づ資本主と労働者とが誠實なる心を以て互に協同提携し、共に徳義を重んずるにあらざれば、二者は逆も一致し難し。第二、同盟罷工よりも憂ふべきものは、忌憚なく言へば、今日まで我英國に於て試みられたる有益なる計畫が、兎角仕事の粗略に流るゝの弊害を生じたる事なり。試みに今日と百年前とを比較し見よ。百年前の仕事の風は眞面目にして、今日は甚だ不眞面目なるを知るに足らん。」

サア、フランシスコ、スレー氏は、世人の誤解する者多きことを道破した

り、最高額に労働を賣るは、労働者を害するものなりとの説あり。然れども、請ふに考むれば、彼等は労働の外に賣るべき何物をも有せざるなり。寧ろ労働者を誘惑する者を禁ずることを急務なれば、若し備主にして、最低賃銀の労働は、常装最も廉なると思考する者あらば、それは甚しき誤解なり。同盟罷工及び紛擾の度、起るは、雇傭備主が徒らに賃銀に吝たして、二片の義侠心なきが故なり。

百年以前の英國は工業國にあらずしなり。穀物羊毛及び亞麻以外の物品は、皆之を輸入に待ちたり。織は之を西班牙、瑞典、獨逸及び露國に仰ぎ、陶器は和蘭、絹子はフランス、象牙は地方より、絹は佛國より、毛織物は自其畿より輸入せられたり。即ち英國には、未だ工業と云ふべきものあらずしなり。石炭坑の事業も幼稚なりし。是は當時坑内の溜り水を排泄する方法を知らざりしが故なり。

百年以前の英人は、蒸氣機關を製造することを知らず、架橋工事の如きも殆んど見識に類したる。百年以前の建立に係る寺院を見れば、當時の建築術の程度を知るに足らざる。百年以前に於て、英人は最劣等の國民なりし。港も無ければ、船渠も無し。テムズ河の沿道は、大賊の據る所にして、大道と云ふ大道、白晝盜賊の徘徊せざるは無く、前世紀の中葉頃まで、ロンドン下の農夫は、金錢及び物資を賣きて、辛うじて一ラシの下人の掠奪を免れたる状況ありき。

百年以前の船は、殆んど物の益にも立たざるものにて、囚人及び不浪入に由りて防禦せられたるなり。百年以前、ロンドンが、蒸氣機關を工夫せる頃、多岐か所外出せば、忽ち捕へられて、印度又は亞米利加に送らるゝの危険あるほどに、世は物騒なりし。百年以前蘇國の炭坑夫及び鹽製造人は、奴隸なほむなむ、婦人小兒が炭坑に働くに至りしは、實に五千年以來の事なり。吾人は百年以前の怖るべき状態に復歸することを願はず。

百年以前に於て、愛蘭は、屬國の如くに待遇せられたり。されば、謀反人の處罰せらるる者甚だ多かり。また、港に於て艦隊反亂を謀り、叛徒は死刑に

處せられたり。盜賊天下に横行し、狂暴至らざるなく、タイパインの刑場に誅せらるる罪人、日に五六名を下ることなし。十字街頭絞殺臺の在らざる所なく、人民は無智にして放慢、ウエスレー及びホイットフィールドの出づるまで、懷疑論無神論は天下を風靡しつゝありたり。福音の傳道師たる彼等二人は、鷹の卵、或は瓦礫を投ぜられ、一マソヂスト派の僧は、グロウセスターより叩き出されたるにあらずや。

百年以前に於て、文學は衰運の極に達し、印刷術は憫むべき状況に在りたり。ウイリアム・ホワイットヘッドなる者、帝室詩人の月桂冠を戴けるを見て知るべし。今日果して彼の姓名を知る者あるか。キボン未だ『羅馬衰亡史』を出さず。マニアスは、文學者中の流行兒なりき。政治の腐敗は、彼の書に依りて判斷するを得べく、上流社會は、不義の快樂に耽りたり。賄賂は代議士に選出せらるべき第一手段なりき。ウイスター州選出のドウデスウェル、下院に演説して曰く、『議會は不義漢の名を以て一議員を追へり。然れども、不義不信をいはず、或は政府の犬とならずして、宴會席上、芳醇に酔はざる者、果して此下院

に半ダリスありや」と。

酒は現時の弊風なりと雖も、百年以前に在りては、更に一層甚しかりしものあり。酒樓の看板に曰く、『諸君は此處に一ペンニーにて酔ふことを得べく、二ペンニーにて大に酔ふべく、而して無一物なれば、素面なり』と。當時にありては、鯨飲斗酒尙ほ辭せざるの意氣を尙ぶ。故に半ダリスを倒す者は普通の人も、僧侶中に豪飲家あるも、敢て天下の奇とする所にあらずりしなり。

英人の癖

百年以前に於ける、人民の娛樂は何ぞ、其最も喜ばれたるものは、角力闘犬、鷄合、闘牛、引廻し、仕置の類なり。ウインダムは、議會に於て、リングの試斬を辯護し、英人の膽力を練磨し、自衛術を教ふるものなりと言へり。狗を以て牛を怒らすことは、英國人の勇氣を鼓舞する益ありとは、ウインダムの言ふ所なれども、闘牛よりも一層残酷なるものなり。稱して、ブル・ベイチングと云ふ。一頭の牛を市場の杭に繋り付け、近處より猛犬を集め來りて咬み殺さしむるなり。之を聴く者誰か酸鼻せざらんや。然し一千八百二年四月二十四日、ブル・ベイチング禁止案は、五十一に對する六十四の多數を以て、下院を通過せ

耳餘の談

其時反對論著たるフナシダムが競馬及び銃獵はブルース・チンク或は蘭牛よりも殘酷なりと絶叫して得々たる色ありしとは豈に滑稽ならんや。一昔枷手枷の刑は五十年前まで慣用せられたるものなり。治安に妨害ありと認めたる罪は之を以て罰せらる。而して此罪人を飛道具を以て射死と男女小兒等の群集して毒めり時の光景は筆にも口にも述べがたき有様なり。罪人を路傍に置き、通行人に鞭たしむる刑は多く女囚に採用せられ、之を羅馬のネグロの時代に比するも敢て遜色なし。狗を以て半を咬み殺さむめ或は鶏合の如き凡て殘酷なる遊戯は今日其跡を絶つ。村の磔柱は腐も、飲酒海賊をなすに至りぬ。既に昔の夢となりたり。吾人は再び其夢を見ざらんを願ふものなり。勞働者の行くべき所は今日酒樓以外に甚だ多し。展覽會あり、公園あり、蒸氣船あり、鐵道あり、圖書館あり、博物館あり、音樂堂あり。百年間に於て吾人は野蠻の風を脱しぬ。吾人は古人の如く勇敢に思ふ。吾人の如く殘酷ならず。吾人は古人の如く亂暴ならざれども、十分男らしきなり。動作は溫雅なれども、膽力精力及び忍耐は古人に劣

る所なし。吾人は一層自ら重んずること厚く國民として吾人の地位は一層重きを加へたり。百年以前の世態を回想する毎に吾人は慚愧の堪へざるなき。

立英國の最も誇るに足るべき事業は最近百年間に成就したるものなり。英國の奴隸は國の内外を問はず、一般に解放せられ、公役は免ぜられ、代議士は各階級より選出せられ、穀物令は廢止せられ、自由貿易は行はれ、吾人の港は、今日世界到る處に開放せらる。

眼を轉じて我が發明家の爲せし所を見よ。ワットの發明したる蒸氣機關は數年ならずして幾多の新工業を興さしめ、世界を裨益せること殆ど計り知るべからず。ベシヨウ・コルトが鍛鐵法の發見は英國をして外國を敵國に仰ぐ能く、自國に於て能く鐵を製造せしむるに至れり。凡ての船渠、凡ての築港は十九世紀中の設計にして、蒸氣船、鐵道、電線は實に最近五十年間の發明事業なるなり。製造法が粗惡に流れたりとの非難は、吾人其理由を發見するに苦しむ。英

英國の職
工と労働
者

國は自由貿易にして市場を世界に開放せり。されば獨佛自米等の製造品が英國品に優らば、常に輸出を見ざるのみならず、亦國內に於ても賣買なきに至るべし。今日外國人は英國の市場に來りて英人と競争すること自由なり。英國人が世界に於て最も善き最も正直なる職工なる事は、自由貿易の明白に證明する所なり。自由貿易禁ぜらるれば、我國は即ち粗悪品製造國と化し去らん。然るときは外國品輸入禁止令を發布するの已むなきに至らん。然れども事實に於て年々英國の輸出は増加せるにあらずや。外國品は其販路を求むる爲めに英國製の商標を用ふるにあらずや。此等の事實は英國の製造品が粗悪ならずして、世界の市場に第一の販路あるを證するものなり。

英國の技
師と機關

歐洲大陸諸國の製造場は英國の職工と英國の器械とに依りて、初めて成立せられたり。彼等諸國の賃銀は英國よりも復に低廉にして、英國品に過多の關稅を賦加するにも拘はらず、猶ほ英國品は外國の市場を壓倒しつゝあり。ブラッセル氏「勞働と賃銀」と題せる書中に論じて曰く「實用的工藝に於て英國は確かに世界に冠絶せり。外國船に英國人の機關師が乗込み居るは、

即ち英國の機械的天才を代表せるものなりとは、地中海を航海せる者の齊しく承認する所なり。額事レバー氏の談に據れば、ソリストに設立せらるべき英國ロイド會社にては、工作部に多數の英國技師を招聘し、郵船にも英國の機關師を採用すると云ふ。俸給の低き獨逸人及び瑞西人を代用するも差支なきにあらずと雖も、英國人の用意周到なると、熟練なると、一切の困難に耐ふる力とは、彼等の優越權を保障したりと。

英國人は亦世界第一の坑夫なり、世界第一の工匠なり、世界第一の水夫なり、世界第一の造船家なり、世界第一の機業家なり。ブラッセル氏の談に據れば、巴里ルーエン鐵道の工事に、佛人、愛蘭人、英國人使用せられ、賃銀は佛人三フランク、愛蘭人四フランク、英國人六フランクなりしが、三者中英國人は最も有益なりし事を發見したりと。英國職工の他國に優ることは、同一の仕事に當らしめて、これを比較する時常に發見せらるゝ所なり。

機械の迅
速なるこ

英國職工の手際の迅速なるは、何人も疑はざる所なれども、そは英國の機械運用の効力なり。シューールスシモン氏曰く「往時手職人は一の力なりしが、

今日は機械の爲めに力の監理者となりぬ。傭者が多大の利を得、職工の賃銀が他國よりも高きは、英國機械の精巧と英國職工の手際とに依ると。今紡績工に就いて言はんは、佛國の職工は一人四十個の紡錘を使用し、露國人は二十八個、獨逸人は三十七個なれども、英國人は七十四個を使用し、得英國機械の精巧迅速なるは、棉を印度より輸入してマンチエスターにて之を製造し、再び印度に積出して、尙ほ能く印度製の洋布よりも安く販賣せらる。カドウェイツ氏は次の如き事實を語れり、「或る有名なる綿布紡績業家の妻、倫敦にて買ひ入れたる、美しくしき綿紗の一片を、其良人に示して、斯の如きものを織るやうになれば、貴下は機業家として功勞ある者とならんと云へり。其人些細に検査すれば、それはマンチエスターに於ける自家所有の工場にて製造されたるものなりき。印度より原料を取寄せ、印度向きに織りて積出したるものが、再び英國に舞戻りて、珍らしき印度物産として販賣せられたるなり。」

外國の職

領事は毎年各文明諸國の製造工業の狀況を調査して、本國政府に呈出し

つゝあり、頃日職工大會に於て、代議士ウアルター氏は此等報告書の一に關し演説して曰く、「報告書に依れば、特に注意すべき一事あり、即ち二三の例外を除けば、外國の職工は自ら其仕事に重きを置かず、我が長所を發揮せんと欲せざるが如し。此弊風の例外としての名譽を、負へる一國に關して顯著なる一例挙げられたり。瑞西は教育と時計製造とを以て世界に冠絶せる國なり。然るに報告書中の次の一項を見れば、教育の力も、熟練の力も、此弊風を如何ともする能はざるが如し。報告書に曰く、概して瑞西の職工は仕事に堪能に非ず、其仕事に興味を抱けり。こは彼等の教育の然らしむる所にして、敬服の外なく、是によりて、彼等は其主人に金錢上の利益を與へ、亦從つて間接に自己を利するなり。然るに、彼等の行爲の不得策なるを證する著明なる一例、ゼンデルモルに起り、世に大なる感動を與へたり。此地方に於て、過去數年間に、製造せる時計の質は甚だしく粗末となれり。こは舊來の商略を墨守するも、職工の技能に依りて製造數を増加する方得策なりと思考しなむが故なり。此方策は暫時豫想以上の繁昌を來せしが、遂に其製造に係る時計

外國人と
貨殖の用
意

の聲價を失墜し、此地方の時計製造家は悉く破産するに至れり。」

然れども、一般に外國の職工に向ふべきもの一あり。彼等は英國の職工の如く、烈しく働かざるも、貨殖に用意あることは是れなり。彼等は貨殖に汲々として、節儉に至らざるなく、極めて算盤づくなり。佛國の職工は、英國よりも謹嚴にして、品行方正なり。故に従つて有福なり。ブラッセー氏の談に據れば、パリ・ムウエン鐵道の工事に際し、工事請負人は、二週間毎に賃銀支拂の事を規定したるに、其後佛國の土方は一ヶ月拂を請求したりと。

工事の監督者レイド氏は、下院の鐵道労働者委員會に於て、佛國の労働者は、英國の労働者よりも、一層獨立的にして一層尊敬すべき者なることを述べ、佛國人は一ヶ月拂を希望するに、英國人は、毎週土曜日拂を請求し、次の水曜日には、其仕事の爲めに、或る物の必要を感ぜることを以て其例證とし、「一ヶ月拂に甘んずるの餘裕あることよりも、能く労働者の體面を試験するものなり」と結論したり。

佛國労働者は、英國の如く、貯蓄の輕便法を有せざれども、*デ・デ・バー*新聞の

記事に依れば、佛國には約一千の貯蓄銀行及び支店ありて、下等社會二百萬人の昨年に於ける貯金は合計二千八百萬磅なりと云ふ。巴里市の佛國人には、公債に投資するの傾向ありて、田舎の者は土地に投資するの風あり。兎に角、一般に佛國人は舊來の習慣によりて、甚だ節儉主義なり、貨殖主義なり、算盤づくなり。

第十二章

奢侈

決して負債を作ること莫れ。汝自身の分限に甘んぜよ。一ヶ年二十磅にて生計の出来ぬ人は、四十磅を持たずとも、生計し得ざるものなり。彼等は逸樂の人なり。實質に比して、高きに過ぎる物の一種なり。ジョージ・ハーバート

されど、如何にグランテイ夫人は言ふならん。

古脚本

善惡に對する「然り」と「否」とは、人生の巨人なり。

セロールド

苦悶の百年は、負債の一フアーシングを償却するに足らず。

佛國の諺

體面は、現金にて、それを保ち得る人々には、甚だ好ましきものなれども、それが爲めに負債を作すは、天使を斷腸せしむるに足る。

セロールド

奢侈は方今社會の通弊なり。奢侈の風は、昔に富有なる上流社會に止まらず、亦中流下流社會にまで蔓延せり。

古人は金持になりたしとか、或は金持の如く思はれたしと云ふが如き野心なかりき。今日の人は、分を知らず、足ることを知らず、正直なる金儲を厭ふ

て、投機、博奕、賭事、詐僞、瞞着等の手段によりて、一攫千金の奇利を博せんとす。奢侈の風は、到る處にあらざるは無く、殊に都會を甚しとす。公等は、街路に於ても、公園に於ても、寺院に於ても、之を見る。衣服の贅澤なるは、其左券なり。社會は、一般に奢侈に流れて、身分不相應の生計をなせり。而して其結果は、商業の失敗、身代限の處分、法廷の檢束、有罪の宣告となる。

詐僞と負債

嗚呼體裁を飾らざるべからず。金持らしく見せざる可からず。虚飾家は容易に愚者をば欺き得べし。今や世人は外觀を張りて、立派なる門戸を構へ、梁肉に飽き、美酒に酔ひ、身に綾羅を纏ひ、出づるに馬車なかる可からず。然れども、斯の如くならんには、恐らく、詐僞不正の手段に依らざるべからず。其行動曲がらざれば世に處し難し。レッドパックス及びロブソンの豪奢は、天下の耳目を驚かせり。されど、今日、レッドパックスたり、ロブソンたるものは、百を以て數ふ可し。

詐僞ならざるも奢侈放逸なる人あり。此種の人、恐らく既に詐僞の彼岸に達せる者なり。彼等は常に財布の底を叩き、又往々分を越ゆ。彼等は紳士と

思はれんことを望み、人は時世に従ふ可し』と云ふ古諺を墨守する者なり。彼等は財布の底を叩き、或は分不相應の贅澤をなすの利害得失を顧みず、唯目前の體面のみを重んじ、後は野となり山となるも、一切構はざるなり。自尊心を犠牲として恥づる所なきなり。體面を保つ爲めに、彼等は美服を飾り、門戸を張り、暮らし向きを派手にし、流行を趁ひ、得々揚々として、世弊の眼前に出現す。彼等は偽君子なり、虚飾家なり。

されど、彼等は貧乏と思はるゝを欲せざるなり。彼等は貧乏を隠さんとして、苦心經營、至らざるなきなり。彼等は尻尾を出さじと焦心するが故に、入らぬ金を的にして、米屋に借り、菓子屋に借り、酒屋に借り、呉服屋に借り、牛肉屋に借る。彼等は出入商人の懷中を的にして、當世風に、所謂友人を饗應せざるべからず。而して、一朝身代傾き、借錢山の如く、首も廻らぬ有様と成り果てたる時、彼等の所謂友人なる者は何事をか爲す。彼等を見ること路傍の人の如く、窃に後指さして其迂愚を嗤ふ。

而かも、貧乏は生計が立たぬと云ふ意氣地無しより増なり。天氣見の友

人は何の益にも立たぬ者なり。彼等に狙はれたる人は、身の程知らぬ深淵に突き落さるゝのみ。所謂交際と云ふ果して何するものぞ。それは決して公私の生涯に於ける人の地位を高むる所以のものにあらず。成功は主として品性と世間一般の尊敬とに依る。されば若し成功せざる内に、成功の報酬を取らんと急がば、折角出来かゝりたる基礎は、忽ち瓦解して、身は負債と云ふ鮫鰐の巨口中に陥るべし。

時風に従ふ事

狂言に出場するグラウンディ夫人は、畢竟世間の習俗の擬人なり。風俗習慣、時様慣例等は、凡て彼女の代表する所なり。彼女は凡俗の人物なれども、甚だ怖るべき勢力を有せり。吾人は、何事も彼女に倣ふ、吾人は其命ずる所に盲従す。吾人は彼女の前に低頭平身して、唯其氣色を窺ふばかりなり。『グラウンディ夫人の批評は？』は、多くの貴き感情を壓し、多くの克己的行爲を抑へたり。

自我に對する反抗力は、隠然として成立せるが如し。吾人は意を枉げて服従す。何人も他人の眼色を窺ひ、他人の心中を計らざる可からず。吾人は習俗因襲の偶像禮拜者にして、前方を見ず、常に後方を見つゝあるなり。吾人は愚

かにも、女々しくも、獨立自立を恐れ、我意の如く行ふことを危む。時風は一切を支配せり。吾人は獨立せる思想行爲の自由空氣中に突進するの銳氣なし。吾人は吾人の本性に従うて自立する事、及び吾人の精神的自由を主張することを否む。

私の事柄に關しても、斯の如き精神は、同様有害なり。吾人は、各自の地位に應じつゝ、社會の指揮する儘に生活す。吾人は、餘りに習慣を重んじ過ぎ、グラデイの掟に従ひて、衣食住するものなり。斯の如くすれば、吾人は、即ち通俗の意義に所謂「紳士」たることを得るなり。斯くて多くの人は、世間が怖いとの馬鹿氣たる口實を以て、知りつゝ、不幸を招くなり。彼等は、徒らに世間の口を恐る。而して、兎角口汚なき京童は、十中八九まで、賢明達識の士にあらずして、愚人、凡人、短見者の流なり。

サア、ウイリアム・テンブル氏曰く、「身の程を知らぬ事は、一切の徳の根源なり」と。蓋し千載不磨の金言にして、經驗の明白に證據立つる所なり。

外見を飾るること

體裁を飾ることは、現今社會の最大弊害の一なり。身の程を知らぬ者は、特

に上流及び中流社會に多し。彼等は假面を被りて世を詐り、以て人を瞞着す。「體面は、彼等の主眼とする所なり。眞面目なる意義の體面は、保ちたきものなり。尊敬せられんと願ふは、人の情なり。然れども、現時の所謂體面は、皮相の體裁に過ぎず。即ち華美なる衣食住の意なり。唯表面を考へ、ポケットの中の金貨の音に耳を敬つのみ。現時の所謂體面は、毫も道德上の價値を有せず。今日の人は、外見甚だ立派なれども、心術陋劣なり。所謂臭き物に蓋をするに過ぎず。

族籍根性

此不眞面目なる弊風は、位と富とに對する虛榮心より生じたるものなり。人は、皆出世せんとて競争する者なり。族籍根性は、常に上流社會のみならず、亦下等社會にも甚だ熾なり。パーミンハムには、上衣に尾を附けたる勞働者の團隊と、尾の無き團隊とありて、前者は後者を輕蔑せり。種々の綽名を有したるコベットは、政敵サッドラーを嘲りて「麻布商」と云へり。然れども、麻布商は、其眼下に、多くの平民を有せり。麻布商は、小賣商を侮り、小賣商は、職人を侮り、職人は、日傭人足を侮る。

上には上あり、下には下あるものなり。此族籍根性は、中流社會に最も烈し。或る一團隊は、其下風にある一團隊と交はることを以て、體面に關すとす。小都會又は村落に於て、公等は種々の小團隊が、割據して睨み合ひ、互に相陥擠せるを目撃するなるべし。ビショップを戴く寺院所在地には、少なくとも六個の階級あり。

彼等は、眼下の者を排斥して、自己の範圍内に其進入するを拒みつゝも、眼上の人の劃したる線を躍り越えて、其圍内に進入せんと焦心るなり。彼等は、それを躍り越すべく熱心なり。斯くして、彼等は、一段上の團隊に仲間入りすることを許可せらる。

是に於て、激烈なる競争起り、卑劣なる手段を弄す。吾人は、社會の尊敬を得ざるべからず。而して能く斯の如くならんには、金持にならざるべからず。然らざれば、少なくとも、金持らしく外見を張らざるべからざるなり。故に争うて體裁を飾り、従つて愚を學び、奢侈に流れ、狂態を演ず。

刻下社會を最も腐敗せしむるものは、大宴會策なり。人々は其家に、尊敬す

べき一揆を詰め込み、以て滑稽なる時風に倣ふ。ルウツウ嘗て憤慨して曰く、『予は十二ヶ月間、餘り大なる家を持たんよりも、寧ろ一日間餘り小なる家を持たんことを欲す』と。流行は、絶対に此格言に反し、而して門戸を張るが爲めに、一家の零落を招きし實例甚だ多し。こは畢竟身の程を知らざるが故なり。然れども、單に外見を飾るだけならば、尙ほ恕すべしと雖も、外見を飾る爲めに執る手段に至りては、不義不徳の恐るべき惡結果を生ず。一地位を得るときは、人は其地位を維持する爲めに、種々の冒險をなす。奢侈は天下の異とする所にあらざるなり。四輪馬車に乗り、シヤンペンを飲み、富豪を氣取る者は、二輪馬車に乗り、ビールを飲むを屑しとせず。二輪馬車に乗りて得意なる人は、野外の別莊と市中の往復を、徒歩又は乗合馬車に依るを以て不體裁なりとなす。斯くて、彼等は、虚榮心の爲めに、不義不徳を敢てし、世間と云ふ大馬鹿者の痴威こけぞしに、不正手段を弄ぶ。其愚や遂に及ぶ可からず。世の所謂紳士なるものにして、虚榮心の爲めに、産を倒せし者、千を以て數ふ可し。彼等は一磅につき、六ペンスの高利の金を借りて、此不幸を招きしな

り。商業上の不正手段は、大抵虚飾と云ふ不徳に胚胎せるは明白なる事實なり。

似而非紳士となる爲めに、犠牲に供せられざるものありや、平和、正直、眞理、徳義、此等は、外見を飾る爲めの犠牲なり。吾人は所謂「世間」に後指されざらんが爲めに、假面を被らざるべからず、欺かざる可からず、「世間の喝采を博し、世間の評判を取る爲めに、自ら苦心せざるべからざるなり。」

斯の如き煩惱の果てに自殺するもの何ぞ限らん。體裁を飾る爲めに、生命を安賣するは、豈に愚ならずや。彼等愚人は、當世流の生活を斷念するよりも、寧ろ生命の絲を斷つを惜まざるなり。自殺の原因が眞の貧乏に在ることは、極めて罕なり。ジョエル・パーロー曰く「吾人は麵包の缺乏によりて自殺せし人を聞かざれども、馬車の缺乏に迫られて自殺せし人を屢々聞けり」と眞なる哉。

卑劣なる族籍根性の犠牲となるものは、特に女子なり。女の智慧は鼻の先と云ふ。彼等は、淺慮にして、外形に迷はざる、の傾向あり。女子の教育は、品性

族籍根性と女子

の陶冶よりも、男子惱殺主義を主とせり。彼等は、常に奢侈流行及び優美を夢想し、玉の輿に乗るは其主眼とする所なり。彼等は卑賤を恥づるほどに、犯罪と不徳とを恐れざるなり。彼等は流行に後れざらんが爲めに、汲々として千金を一擲するを辭せざるなり。其美性は、失はれ、其眞の幸福——主として同情に基づく所の——泉は、涸渴せり。

當世流の社交とは、外見を張ると云ふ意に過ぎず。富豪乃至富豪らしく見せる人は、最も歓迎せられ、貧乏人乃至貧乏らしき人は、蛇蝎視せらるゝにあらずや。此族籍根性の輕佻浮薄なるや、富貴に生れて、世に時めきし貴婦人淑女も、一たび不運に遭遇して、産を倒し、寄邊なく一本立となりて、正直なる手段を以て、正直なる麵包を求むるに至れば、忽ち無資格として、所謂尊敬すべき社交界より排斥せらる。獨立の精神は、此社會の卑しむ所なり。而して、流行の勢力に感化せられたるものは、零落を顧みずして、虚榮心を満足せしめんとするものなり。

女子と奢

斯の如く虚榮心強き女子が、男子と共に當世奢侈の弊風を助長するも、亦

決して異しむに足らざるなり。現時の如く、婦人が服装と化粧とに夢中なるは、英國に未だ曾て有らざる所なり。之を佛國の路易第十五世時代に比して、優ることあるも決して劣ることなし。女子の價値は、其衣服に依りて上下せられ、實物の如何は問ふ所にあらざるなり。衣服の華美は、純潔なる婦人の美に代はりぬ。詩人ウォーヅワースは嘗て「貴く作られたる完全なる女」と云へり。今日果して何處を探せば、完全なる女ありや。偽りの毛髪、偽りの色、偽りの眉、偽りの一切を以て、頭の尖より足の尖まで、美々しく飾れる動物の中に、果して完全なる女あるべきや。自然の雇職工は、彼等を作れり、而かも念入りには作らずして、厭々ながら人間に似せたるなり。

此弊風は、常に富豪に止まらず、俸給以外に収入なき社會にまで及べり。上を學ぶは下なり。番頭手代、小商人の女房までが、贅澤を云ふなり。彼等も亦體面の爲めに美裝し、收入以上の生計をなす。彼等も玩弄物の如き別荘を構へて、盛宴四隣を驚かす。演劇を見ざるべからず。右手に金を儲けて、左手に之を費ふ。否時としては、入らぬ前に費ひ果たすことあり。亭主が亭主なれば、女房

も女房にして、借錢を意とせず。亭主が一朝目を瞑れば、妻子は忽ち路頭に迷ふ。醜態として、稼ぎ蓄めたる錢は、悉く體面の爲めに吝ひ所なし。而して死後に尙ほ多少の餘財あらば、それは放蕩なる亭主の葬式に、外見を張る爲めの資とせらる。

亭主詰問して曰ふ「其衣服の代價は拂ひたりや」。答へて曰く「否」。亭主嘆りて曰ふ「汝は借錢で衣服を着る、言語同斷なり」と。亭主に相談せず、妄りに借錢して衣服を作るを不正なりと思ふ女は、あらざるなり。彼女は呉服屋に借りて衣服を着るものなり。こは實に水上に頭を擡げんと欲する男を苦しむるものにして、宜しく女房と贅澤とを去つて、不幸を未然に防ぐの決心を要す。收支相償はず、人生の不如意を嘆ぜしむる所以なり。特に夫婦が揃うて、豪奢を衒ふ場合を然りとす。

負債を作すこと
脚等が負債を作り、又は脚等の妻をして負債を起さしむるは、即ち他人に、脚等の自由を束縛する權利を與ふる所以なり。脚等は債權者の前に平身低頭せざるべからず。トク／＼と扉を叩く音は、脚等の膽を寒からしむ。郵便配

達夫は、裁判所の支拂命令書を投げ込むべし。されど、卿等に負債償却の力なし。是に於て苦しき口實を設けて、一時を糊塗せざるべからず。即ち、卿等は、虚言家となるなり。畢竟詐僞者なり。諺に曰く、『詐僞は負債の背に乗る』と。

商人の誘惑

奢侈の爲めに債務を負ふは、狂氣の沙汰と謂はざる可からず。卿等は、分不相應の贅澤品を買ふ。商人より半年間乃至一年間の信用を申込まる。されど、それは商人の策略なり。誘惑なり。而して卿等は、其策に乗る。卿等は、自己の收入にて生活するには、餘りに意氣地なく、他人の費用を頼みとす。古代の羅馬人は、其家來をも敵と見做して心を許さざりき。卿等が現時の商人を見ることは、猶ほ斯の如くならざるべからず。商人は、美服の掛賣手段を以て、天下の婦女子を籠絡するものなり。彼等は、負債を恐るゝ人の妻女を騙りて、後日、不當の書出を送呈する者なり。彼等は、足許を見て、不當の代價を吹く。而して、購客は之を支拂ひ、時として二重拂ひをする事もあり。蓋し、長き間には、請取書も紛失することあるが故なり。

ニツマン教授の言は、甚だ聽くに足る。曰く、『予は法律を以て、掛金の有効期

限を定めんことを熱望す。然るときは、世人は、最も能く顔を知られたる店以外にて、掛をなさざるに至るべし。物價も自ら正價に復すべし。掛賣の損耗に對する穴埋めに、他の購客より、不當の利益を貪り取る弊害は、直ちに止むなるべし。而して商人も、甚だ安心なることを得」と。

罪惡と誘惑

智者は、惑はず。一度誘惑せらるれば、何人も、誘惑に抵抗し、能はざるものなり。習性とならざる中に、防禦せざるべからず。負債を起さんと躊躇する婦人は、遂に負債を起し、主人の金を羨む番頭は、早晚之を盗用するものなり。こは、其感情が習慣となりたる時に、斷行せらるゝなり。凡て人の行爲の善惡は、習慣の善惡に、胚胎するものなり。

罪惡の原因

負債を作す事は、罪惡の大原因なり。而して負債の種類の如何に關せず、教育あり、薰陶あり、而して正直に金を儲けつゝある人も、奢侈、虚飾、博奕、腐敗せる男女の交際等の爲めに、忽ち墮落するものなり。著者は、前途を誤りたる青年を指摘するに躊躇せず。予の知れる青年に、酒樓の負債を拂ふ爲めに、番頭と僞稱して、詐僞取財を犯したるものあり。彼は

元來高等の教育を受け、學識ありて、一貴婦人と結婚したる者なるが、親戚朋友を忘れ、妻子あるを忘れ、一切を忘れて、酒と博奕とに耽りしなり。彼は數年間の禁錮を宣告せられぬ。

他の實例に於て、犯人は一宣教師の子なりき。彼は高價なる文書を盗みて之を賣拂ひ、其踪跡を晦ましたり。サウザンプトンより濠洲に渡航せし形跡ありければ、刑事は、半島及び東洋航路の郵船を探索せしも、遂に何等の手懸りもなく、其儘に打過ぎしが、天網恢々疎にして漏らさず、彼が持ちて逃げたる、英倫銀行の紙幣の一枚、偶然ダブリンより銀行に戻りたり。是に於て刑事は初めて探偵の手懸りを得、遂に捕縛して、倫敦に護送し、法廷は彼を十二ヶ月間の禁錮に處したり。

尙ほ一例を挙げんに、此犯人は、一鐵道會社の支配人なり。彼は、虚榮心の爲めに、徳義を犠牲にしたる愚者の一人なり。彼は奢侈の爲めに負債に苦しみ、遂に不正漢となれり。彼は盜賊の仲間知己を得、自ら保管せる會社の鍵を、竊に盜賊の一人に示して、合鍵を作らしめ、倫敦より巴里に運送せらるゝ、金

銀貨を竊取したり。是れ即ち、一時天下を騒がしたる大竊盜事件なり。後、盜賊の縛に就くや、支配人も羅織せられて、取調の結果、遂に逃るゝに由なく、其罪狀を自白し、終身流刑を宣告せられたり。

ニウゲートの海軍牧師ジョン・デーヴィス氏は、青年の犯罪の原因を論じ、一實例を指摘して曰く、

衣服の愛

『予の識れる一青年は、海軍將校の子にして、父の死後、其功勞によりて、特に海軍省に奉職することを得、忠實に働きて、俸給は正直に母に渡しつゝ、孝養を以て自ら其心を慰めぬ。二妹あり、娘盛りの年輩なり。僅かなりと雖も、遺族扶助料と彼の俸給とは、一家をして幸福安寧ならしむるに足れり。然るに、彼は不圖衣服の虚榮心に魅せられ、煩惱は去り難く、母と妹とを思ふの念薄らぎて、同僚よりも粗服を纏ふことを恥づるに至りぬ。彼の服は些か綻びたり。然れども、それは恰も職務の爲めに、軍服の破れたるが如く、決して意とするに足らず、必要上然るにして、不注意の證據にはあらず、寧ろ名譽の綻びなり。此標あらざるは即ち職務の怠慢を表明するものなり。然るに、此青年は深く此

理を察せず、是を以て一大恥辱となし、面目無きものと考へたり。同僚の新らしき美服は、彼を煩悶せしめぬ……彼は外見を飾らんと決心し、不都合なる時に、流行の衣服一揃を注文したり。彼の地位は、唯極めて短期の信用を保障するのみ。兎も角も、一二度は、口實を設けて、一時を彌縫せしも、督促益々急にして、今は如何とも爲し難く、苦し紛れに悪心を起して、十磅の紙幣封入の手紙を窃取し、辛うじて債務を果たせしが、被害者は、紙幣の番號を知りしが故に、忽ち裁縫師の拘引となり、糺問の結果、彼の罪狀明白となり、直ちに捕縛せられぬ。彼の華美なる衣服は、即ち囚人服と變じたり。今にして綻びたる衣服を思ふも、六日の菖蒲十日の菊なり、亦及ぶ所にあらず。彼は實に、凡夫凡婦の通弊たる、衣服に外見を張る痴態の實例を示したるものなり。』

サア、チャールズ・ナピールは、印度を去る時、部下の將校に、目的無くして負債を作すことを戒めたり。蓋し彼は、負債に不義理なる部下將校に對する愁訴を聞くこと頻りにして、勤勉實直なる商人の之が爲めに倒産する者多きを目撃したるが故なり。彼は此弊風をば、紳士の體面を毀損するものとして、

蛇蝎の如く憎みたり。彼は一切の奢侈浪費を戒飭して、部下の軍人に、職分の遂行及び質素の美風を起さんと欲したるなり。實にや、錢を拂はずして、ジャンペンを飲み、ビールを飲み、馬に乗るは、拐者なり、紳士にあらざるなり。

アモ紳士

印度在住の此等青年紳士の奢侈は、本國の青年紳士の奢侈の影響なり。オックスフォード及びケンブリッヂ大學は、青年に奢侈の風を教ふる處なり。其子を立派なる學者たらしめんと望み、學資を吝まらず貢ぎたる資産家の、あはれ零落したるもの少なからず。而して其子は、唯通俗に所謂紳士となりたるに過ぎず。現時の所謂紳士は、博徒なり、競馬者なり、骨牌を弄ぶ人なり、遊藝に堪能なる人なり、銃獵家なり、粹人通客なり。紳士は贅澤に暮らし、贅澤に消費し、贅澤に飲み、贅澤に死ぬる人なり。古の紳士なる語は、今や下落して浪費者となれり。紳士とは、君子の意にあらずして、遊冶郎の意なり。

無謀なる奢侈

青年は、負債の爲めに無耻不義漢となりつゝ、惡徳は社會一般の傾向にして、趣味は豪奢に向ひつゝあり。奢侈の習慣は、一度之を得ば、復た取り去りがたきものなり。目的もなく、徒らに負債を作ると云ふ無謀淺慮は、公德を紊亂

し、社會の上下に不幸を致すものなり。社會は外道界に沈淪して、亦回復の望みなきが如し。

奢侈の弊風は是非とも矯正せざるべからず。掛をせぬこと及び借錢をせぬ事は、萬全の策にして、借錢をすれば成るべく早く償却するは中策なり。借錢を負ふ人は旦那様にあらずして、商賣人の慈悲に預かるものなり。彼は三百代言の目的物となり、債權者の話柄、隣人の物笑ひとなるものなり。而して亦家族の前にも頭の上からぬ者なり。

佛國のモンテーン曰く、「予は予の負債を返す時、心中甚だ快を覺ゆ。蓋し煩はしき重荷と奴隸の影とを肩より下ろすが故なり」と。ジョンソンは節儉は自由の母なりと稱せり。實に負債ある人は自由の人にあらず。負債は常に個人の獨立を損するのみならず、亦遂には道德的腐敗を致すものなり。負債者は絶えず屈辱を蒙る。君子は目的なくして、金を借ることを卑しむ。他人の金を以て酒を飲み、美服を纏ひ、外見を張るを陋とす。ドルセット伯は、他の年少貴族の如く、非常なる負債に苦しみ、殆んど破産の悲境にまで沈みしが、偶

々、債權者の一人たる市助役の譏諷罵詈に憤慨して、俄に悟る所あり。爾來節儉を旨として、一切の負債を償却したりと云ふ。

人は一身上の事務を精査するの堅忍あるを要す。収入と負債との勘定は、如何に煩はしくとも必ず明かにするを必要とす。人は正々堂々として世に處するの策なからざるべからず。亦其妻に處世の要訣を教ふるを要す。謹慎なる妻は、良人の貨殖を扶けて、能く生涯を幸福ならしむ。不良の妻は、常に商人に借錢して、美衣を纏ひ、盛宴を張るものなり。

算數の智識

算數の智識は、身分相應の生計を營まんとするに、最も必要なり。婦人は最も算數の智識に乏し。女教師は之を無用として、女生徒に教へずして却つて語學、音樂、地理學及び行儀作法を授く。此等は固より有用なるものなり。雖も算術の四則は一層有益なり。加減法を知らざれば、焉能く収入と支出とを比較し得んや。算數の智識、缺乏は家政紊亂の原因なり。之が爲めに、資産家の零落したる例甚だ多し。

結婚

青年男女は、往々無謀の結婚をなす。青年、舞踏會にて一美形を見て、心を動

かし、共に踊りて、恍惚として家に歸り、夢に其美人に遇ふ。是に於て眷戀の情禁ずる能はず、結婚式を擧げて、同棲す。而して、此美形につきて、未だ知らざりし所の或るものを知るに至る。當座は、樂しく面白き事ばかりなり。其容貌は、依然嬋妍として、楚々人を動かす。今や人生の一新時期に進み入りて、日々互に顔を合せ、仔細に觀察するを得、而して初めて家政の局に當る。

新婚の夫婦は、互に落着くまでには、多少の時日を要す。結婚後の生涯が、極めて幸福なりし人と雖も、尙且つ平和と安息とを得るまでには、多少の小訃を経たり。俄に落着くものにあらず。最も幸福なる妻君の懷舊談に據れば、結婚後の第一年は、何事も甚だ不愉快にして、氣兼ね多く、落着く所を知らざりしと、然れども、愛情ある夫婦は、容易に落着きて、幸福と平和とを得るなり。

然るに、夫の青年男女の場合は、斯の如くならざりき。新夫婦は、遠き慮なく、徒らに幸福なる空中樓閣を畫きつゝ、新生活に入らざりたり。彼等は互に氣質を知るの餘裕を存せず、情に任せて、輕々しく結婚せり。故に事皆豫期に反し、互に失望するに至れり。彼等の結婚は、痴情の結果なりしなり。是に於て美形は

氣質

泣いて、良人の無情を嘆つ。些細なる事に泣くは、良人を煩はすものなり。斯の如き場合の涙は、同情を起さしむるものにあらずして、却つて嫌厭を起さしめ、愛情を冷かならしむ。涙は危険なる武器の如きものなり。婦人は、力めて、親切に力めて、快活なれば、幸福なるものなり。徒らに、忿恨、怨嗟を、恣まにして、生涯を不幸ならしめたるもの、蓋し甚だ多し。

結婚の資格

智力は、家庭生活に、多くの要なく、温かき情ほどに、愛を勵ますものにあらず。良き性情、幸福なる氣質の美を養成するは、さまで難き事なるにあらず。而して、幸福なるべき等の生涯が、短氣の爲めに攪亂せらるゝは、往々世間に見る所なり。夫れ夫婦喧嘩は、狗も食はざるものなり。而して、一時の情を抑へ能はざるが故に、不幸なる慘事を起すは、社會の真相なり。斯くて、樂みは變じて、苦みとなり、人生は跣足にて荆棘の間を行くが如きものとなる。

曩に擧げたる假定の例に於て、美人は、忽ち良人の爲めに忘れられぬ。元來、彼の青年は、嬋妍たる美貌を買ひたるものなるが故に、一たび容色衰ふる時は、初めて、悔悟の念を生ず。而して家庭は、下宿屋の如く無味なるが故に、在る

に堪へず、家を外にして、良からぬ巷に出入し、以て煩悶を慰せんとす。是に於て、美人は益々怨嗟し、絶望し、愁嘆す。

見生る然れども、夫婦は之を薰陶し養育することを知らず。嬰兒の時には、玩弄物の如く扱ひ、少年時代には、人形を見るが如くし、長じては、奴僕に對するが如し、斯の如く薄命なる夫婦の間には、一刹那の平和幸福なる嬉しき時も存せざるものなり。愉快なき所に愛情は漸次冷却す。

古人曰く、『前門に貧乏を迎へ、後門に愛を逃がす』と、然れども愛は貧民の家より逃げ去るのみに限らず、愛すべき愉快なる人なき富者の家よりも逃げて去るものなり。斯の如き富者の家庭は、善美を盡くして何等の不足無きが如くなれども、唯機嫌よき幸福なる顔を缺けり、物質的の快樂は家庭の幸福の一小部分なり、人生の禍福を定むるものは、道德的狀態なり。

血氣の青年は多く結婚を以て人生の一大事と思考せざるが如き觀あり。一度式を擧ぐれば、最早再び舊態に復するを得ず。結び目は解くこと能はざるものなり。輕卒なる結婚は必ず不測の結果を生ず。『結婚は福引なり』といふ

縁は異なもの

俗諺あり、良人の選擇、或は妻の選擇が、猶ほ下女下男を抱ゆるが如く雜作なきものとなせば、夫れ或は縁は奇なるものならん。容貌の美醜、財産の有無を以て、結婚の第一義となせば、夫れ或は結婚は福引の如きものならん。

然れども、予輩は結婚は福引なりとの斷定を否むものなり。詩人空想の産物たる小説的事實を憧憬することなくして、世の處女が戀愛の眞意義及び一生を託すべき配偶者に尙ぶべき性情は何物なるかを教へられ、又青年が妻は終身の苦樂を共にすべく、其家庭の幸福は、妻の性情及び量見に依るものなる所以を曉りて、其必要條件たる婦徳及び才藝を主眼とせば、結婚は決して福引にあらず、縁は異なものにあらず。能く考へ、能く斷じたる男女は、結婚後に必ず幸福なる結果を得べし。固より人にして過失なきはあらずと雖も、未來の幸福を賭して富籤を僥倖せんとするは、決して過失と云ふべからず。

「否」の言へぬ人

必要なる場合に「否」を言ふことは最も緊要なる事なり。誘惑來らば、直ちに襟を正して「否」と言ふ可し。曰く、『否、予は其費用に堪へず』と、多くの人は此方

針を斷行するの道德的勇氣を有せず。彼等は唯彼等の利己的満足を考ふるのみなり。彼等は克己の勇なくして、退讓盲從、以て獨り自ら快とす。其終りは、屢々官金私消なり、詐僞取財なり、滅亡なり。斯かる場合に於ける社會の批評に聽け。曰く、『あの男は身分不相應の贅澤をしたからだ』と。彼に馳走せられたる者の中に、一人として、彼に感謝する者、彼を憫む者、彼を救ふ者あらざるなり。

「否」の言へぬ人に就きては、何人も聞ける所なり。彼は、彼自身を除きて、總ての人の朋友なり。彼の大敵は彼自身なり。彼は直ちに其收入を消費し、然る後、證文、抵當、或は約束手形を以て、彼の朋友に借る。彼は最後の一錢を消費せる後、死して笑を天下に貽すものなり。

彼が處世の方針は、何人の要求にも應ずると云ふ主義なるが如し。快諾か、餘儀なき承諾か、其點は不明なれども、兎も角、投票の約束、金錢の貸與、或は手形の裏書等を請求せられたる時、之を拒むことなかりしは、確かなる事實なり。彼は斷然「否」を言ふこと能はざりしなり。彼を知る者は、彼に斯の如き勇氣

無かりしことを曰へり。

彼の父は彼に相當の遺産を與へたり。忽ちにして、其配分に與からんとする人は、蟻の甘きに就くが如く、四方より蝟集し來れり。「否」を言ふべきは、此秋なり。然れども、斯く言ふの勇氣なくして、盲從の習慣は、既に形づくられたり。狐疑したり、されど、斷然拒絶すること能はざりき。嘆願に遇へば、氣が弱くなりて、何事をも、唯々諾々として應じたり。資力の續く間は、友義に變はる所あらざりき。彼は總ての人の引受人なり、保證人なり。「君、ちよっと、これに署名捺印して呉れ給へ」と友人に請求せらる。「一體何んだ？」と彼は靜かに答ふ。警戒するだけの餘裕はあり。然れども、斷然拒絶すること能はざりき。三ヶ月後に至りて、債權者に苦めらるゝものは、自己以外の總ての人の友人——換言すれば、「否」を言ふの勇氣なき人の他にあらざるなり。

彼が連帶の義務を負へる一麥芽製造人——一面識あるばかりの人——は、株式の投機に失敗して、營業を停止したり。是に於て、「否」を言ふこと能はざりし彼は、連帶の義務を果たさざるべからず。一大打撃は來りぬ。忽ち彼は

「否」を言ふの勇氣

貧乏人となりぬ然れども尙ほ未だ悟る所あらず。彼は天下の貧人の來りて撫てる柱なり。酒に渴したる人の來りて鯨飲する酒店なり。餓狗の集まり來る豕肉なり。市井の浪人に乗り廻はさるゝ驢馬なり。他人の米を搗く臼なり。一言以て之を蔽へば終身否を言ふこと能はざりし、善人善しなりしなり。言ふ可き時に否を言ふは、人生の平和と幸福との要訣なり。否を言ふ能はず、又言ふことを欲せざる人は、概ね零落するものなり。世に惡の榮ゆる不條理あるは、吾人に否を言ふの勇氣なきが故なり。吾人が屢々浮世の流行の犠牲となるを辭せざるは、此一語を言ふの勇氣なきが故なり。決闘する者は傷けらるゝを好みて、否を言ふを欲せず。美人は富家の馬鹿息子が結婚を申込む時、榮華を夢みるが故に、否を言ふに躊躇す。諂ふ人は人々の意を迎へざるべからざるが故に、否を言ふを欲せざるなり。快樂を以て誘惑せらるゝときは、直ちに否を言ふの勇氣あるべし。警戒は英斷の前提にして、徳は行爲に依りて益々堅固となるものなり。放蕩の誘惑來らば斷然、否を以て答ふ可し。若し然らずして、其誘ふが儘に任せば、卿等は

葬式

徳を失ひ、卿等の自恃心は致命傷を被らん。否を言ふは、最初の中骨の折れるものなれども、慣るればさまで困難を感ぜざるなり。逸樂、教恣、罪惡、惡風の誘惑に抗する唯一の策は斷然、否を答ふる事なり。實に言ふべき時に否を言ふは、大なる徳なり。人は不相應の費澤に、無一物となり、果ては債を負ふに至るも、所謂社交は、地下の鬼となるまで、彼に附纏うて、片時も其側を離れざるものなり。彼は世間の爲すが如く葬られざる可からず、當世風の葬式を營まざるべからざるなり。彼は終身グラウンディ夫人の勢力に服従せざるべからざるなり。造花、放鳥、喪服、喪装の馬車、金銀の棺等は、彼女を満足せしむるに足らん。然れども、遺族に取りては、無益にして、奢侈なる滑稽劇なり。無益にして奢侈なる滑稽劇の演ぜらるゝは、舊に上流社會に止まらず、中流下流社會に通ぜる弊風なり。奢侈なる葬式は、紳士の體面を保つに必要なりとせられ、地位を高めんが爲めに汲々たる中流社會の人は、争うて貴族社會の爲す所に倣ひ、「世間が斯うだから」と云うて、死者に流行を適用し、巨額の

奢侈なる葬式

費用を投じて惜む所なし。

葬式料は活計豊かならざる家族には、大打撃なり。一家の麵包を儲ける人は奪ひ去られ而して遺族は其一切を負担せざる可からざるに、悲嘆の中に在りて尙ほ葬式の外見に苦心するの要ある歟。彼等が辛うじて集め得べき一磅の金貨、一シルリングの銀貨は、彼等の未來に最も必要なるを思はずして妄りに虚飾の爲めに消費し盡くすは、滔々たる天下の狀態なり。死者の虚榮に空費すべき金錢を以て活計の費に供するは、實に有益なり。

此弊風は更に下層社會に傳播せり。労働社會は中流社會と同様之が爲めに相應の苦悶を感ぜり。英倫に於て商人の葬式料は平均五十磅にして、職工労働者のは五磅乃至十磅なり。蘇格蘭に於ては著しく低廉なり。葬式に外見を張るは労働社會一般の傾向にして、名譽とする所なり。此目的の爲めに錢を投ずるは決して彼等の辭する所にあらず。労働者俱樂部中の最大なるものは葬式俱樂部なり。此社會に於て亭主の葬式に十磅、女房の葬式に五磅は通常にして、死者が數個の俱樂部の會員たる時一職工の葬式料が十五、二十、

三十乃至四十磅に達するは、敢て珍らしきことにあらず。而して斯かる場合に於ては、數人の葬式世話人集會して、其葬式料の負擔額を決定するなり。此等の葬式俱樂部の四五ヶ所に、小兒の生命を保險する者甚だ多し。吾人は嘗て一職工がマンチェスターの葬式俱樂部十九ヶ所以上に、保險を契約せることを聞きたり。

葬式俱樂部の會員たらざる労働者と雖も、尙且つ社會の流行を追ひ、費用を惜まずして、家族の葬式に華美を衒ふ。一家の父が死したる場合に在りては特に甚し。其一代の貯金は悉く之が爲めに消費せらる。實に寒心すべき弊害なり。

眞に喪を表するは、果して喪服を被ることなりや。喪を表するものは、心と愛情とにして、衣裳にあらず。ビンナム嘗て古代の基督教徒につきて、語りて曰く、「彼等は死者の爲めに喪服を着るが如き觀念を有せず。否、寧ろ之を蔑視したり。基督教の教義を守りて行動するならば、喪服を廢するも可なり、着るも可なりとて、全く各自の自由に任したり」と。

ジョン・ウエスレは、一人二十シリングにて六人の貧人を雇ひ、墓地に遺骸を運ばしめよと遺言し、且つ曰く「予は予を愛し、且つ予に従つて、エブラハムの心を心とする人々の涙以外には、特に柩車も喪馬車も紋も何等の飾りもあらざるを冀ふ。予は神の御名に依りて、予の遺言に決して違はざらんことを予の執行者に命ず」と。

現時の如き葬禮の習慣を全廢せんことは、極めて難事なり。吾人は大に全廢論に賛成すれども、悲い哉、茲に「世間で何と言ふだらう」との例の問題に遭遇す。斯くて、吾人は畏縮して、わが隣人の愚に倣ふ。然れども、道理は屢々繰返して教ふれば、感化あるものにして、竟には社會の流行を改良するに至らん。皇后アデレード及びサア、ロバート、ビールの遺言して、葬式を質素にしたる美談は、奢侈なる社會に相當の感化を與ふること無くして止むものにあらず。萬事上流社會に模倣するの傾向を有せる中流社會は、必ずや他日、此等の模範に依りて惠まらん。所あらん思ふに、近時漸く、社會の大部分は、此無意義の虚飾を厭ふの傾向を生じたれば、此機に乗じて大に輿論を喚起するの必

要あるべし。

既に北米合衆國に於ては、此弊風矯正を目的とせる團體處々に起れり。矯正改良の實を擧ぐるには、結社及び數の勢力に依るの外なし。個人力は、因襲久しき社會の病根を斷つには、餘りに微弱なり。

第十三章

大負債家

人生算術なれば、恐怖の舞臺に過ぎざるべし。汝等は負債の都、ブローリンに
行きつゝあるなり。其住民は皆算術を知らざりし人なり。

借りて扱はざるは、借らざりしに同じ。アルセトマウーセー

負債は、甚だ恐るべき子孫を生む者なり。虚言、卑劣、恥辱、心配、欺瞞も亦甚しい哉。
果ては、むき出しの顔に皺を刻み、利刃の如く、正直なる心を突き刺すに至る。

ドウケラス・セロールド

最良法に依れば、人間は、借りる人と、貸す人との二種に大別せられ、更に又ゴッ
ス族、セルト族、白色人種、黒色人種、黄色人種等に細別せらるべし。

チャールス・ラム

負債を作すは、自ら禍を招くものなることを知る人少なし。負債の種類に
依りて軽重あるにあらず、負債は償却を全うするまでは、猶ほ人間の首の周
圍に磨石を懸けたるが如く、又悪夢に魘はるゝが如きものなり。家族の安寧

を害し家庭の平和を破る。

一定の収入多き人も、尙ほ年々債鬼の爲めに苦しめらる。負債に束縛せられては貨殖蓄財——妻子の爲めに死後に備ふること能はず。負債家は生命保険、火災保険、貨物保険、銀行貯金、宅地購入等に不適當なり。餘裕は總て負債の埋め合せに使用せらるゝが故なり。

素封家、大地主さへ、屢々負債に苦しみ、不幸を招くことあり。彼等又は彼等の先代は奢侈の風——博奕、競馬、或は贅澤暮らしの如き——を習ひ、所有財産を抵當にして金錢を借り、而して負債の重荷を遺せり。嚴密なる世襲財産の場合に於ては、恐らく此憂ひなからん歟。蓋し貴族政治の制に據れば、彼等の死亡と共に債務消滅するが故に、彼等は公衆の費用を以て其奢侈なる趣味を満足せしめ得ればなり。されば、其相續人比較的責任を負ふことなくして財産を相續す。然れども此特權を有する人は甚だ少なし。多數の場合に於ては、負債は財産と同時に相續せらるゝものにて、負債額が財産額に超過すること往々これ有り。されば、今日英國の土地が大抵質屋、金貸しの所有に屬

債人と負

せるも固より當然なり。

債人は負債を作したり。債人と負債とは離るべからざるものゝ如き。觀あり。債人は大負債家なり。彼等は信用多し。大國民も大國債を有せり。彼等は大國民と云ふ體裁の爲めに信用を有するなり。意氣地なき人、意氣地なき國民は、負債を有せず。何人も彼等を信用せざるなり。負債ある人及び負債ある國民は、非常なる利益を保障す。彼等の名は多くの帳面に記入せられ、而して多くは拂ふか拂はぬかの當推量なき負債なき人は、比較的世間に名の無きものなれども、帳面に姓名を記入せらるゝ人は、世人の視線を一身に集む。彼の健康は常に注意せられ、若し外國に旅行でもすれば、其歸國を氣遣はる。債權者は常に恐ろしき顔つきせる嚴格なる人として描かれ、鬼と云はれ、閻魔と呼ばれ、而して債務者は万人を助け、万人を饜應する如才なき寛仁大度の人なり。彼は仁者なり。ゴトルド・スミスが牛乳代と家賃との滞りを催促せられたる時、誰か果して能く牛乳屋と家主とに同情を寄せんや。債務者は演劇の色役の如き割合よきものにして、我等の同情を一身に集む。バナード

天債の樂

演劇の色役の如き割合よきものにして、我等の同情を一身に集む。バナード

を害し、家庭の平和を破る。

一定の収入多き人も、尙ほ年々債鬼の爲めに苦しめらる。負債に束縛せられては、貨殖蓄財——妻子の爲めに死後に備ふること能はず。負債家は生命保険、火災保険、貨物保険、銀行貯金、宅地購入等に不適當なり。餘裕は總て負債の埋め合せに使用せらるゝが故なり。

素封家、大地主さへ、屢々負債に苦しみ、不幸を招くことあり。彼等又は彼等の先代は、奢侈の風——博奕、競馬、或は贅澤暮らしの如き——を習ひ、所有財産を抵當にして金銭を借り、而して負債の重荷を遺せり。嚴密なる世襲財産の場合に於ては、恐らく此憂ひなからん歟。蓋し貴族政治の制に據れば、彼等の死亡と共に債務消滅するが故に、彼等は公衆の費用を以て其奢侈なる趣味を満足せしめ得ればなり。されば、其相続人比較的責任を負ふことなくして財産を相続す。然れども此特權を有する人は甚だ少なし。多數の場合に於ては、負債は財産と同時に相続せらるゝものにて、負債額が財産額に超過すること往々これ有り。されば、今日英國の土地が、大抵質屋、金貸しの所有に屬

債人と負

せるも、固より當然なり。

債人は、負債を作したり。債人と負債とは、離るべからざるもの、如き觀あり。債人は、大負債家なり。彼等は、信用多し。大國民も、大國債を有せり。彼等は、大國民と云ふ體裁の爲めに、信用を有するなり。意氣地なき人、意氣地なき國民は、負債を有せず。何人も、彼等を信用せざるなり。負債ある人及び負債ある國民は、非常なる利益を保障す。彼等の名は多くの帳面に記入せられ、而して多くは拂ふか拂はぬかの當推量なり。負債なき人は、比較的世間に名の無きものなれども、帳面に姓名を記入せらるゝ人は、世人の視線を一身に集む。彼の健康は常に注意せられ、若し外國に旅行でもすれば、其歸國を氣遣はる。債權者は常に恐ろしき顔つきせる。嚴格なる人として描かれ、鬼と云はれ、閻魔と呼ばれ、而して債務者は、万人を助け、万人を響應する如才なき、寛仁大度の人なり。彼は仁者なり。ゴールドスマスが、牛乳代と家賃との滞りを催促せられたる時、誰か果して能く牛乳屋と家主とに同情を寄せんや。債務者は演劇の色役の如き割合よきものにして、我等の同情を一身に集む。バナナ

天債の樂

のパンダグルエル曰く「負債なき脚等果して能く何するものぞ。負債をな
さざるは天意に背けり。脚等は他人に貸すこと及び他人を信用することに
神聖なる或る物ありと思惟するや否借ることは眞の英雄的徳性なり」と
然しながら如何に美しくしき讃辭を負債に呈し得らるゝとも、負債の一大
害悪なることは疑を容れざる所なり。負債家は生涯中種々の奸策を運らす
ものなり。彼は執達吏の犠牲なり。シェリダンの如く執達吏を宴會の給仕人
として杯盤の間に周旋せしめ得る者は少なし。來客の門を叩くある毎に負
債家は愕然として色を變ず。彼の友人は冷淡となり彼の親戚は彼を辱かし
ひ外に出ていは侮られ内に在りては不愉快なり。彼は人生の有らゆる快樂
を失うて勢ひ刻薄ならざるを得ざるなり。澁面を作らざるを得ざるなり。不
平を鳴らざるを得ざるなり。彼は幸福と尊敬と——金錢——の通行券を
缺けり。彼の所有物と云へば唯負債あるのみにして之が爲めに彼は猜疑卑
屈の人となり。絶望の人となり。自暴自棄となる。彼は他人に侮辱せらるゝ如
く感じ又自ら面目なしと思ふ。彼は不當なる要求に唯々諾々として應ぜざ

るを得ず。之を免れんと欲せば唯一時のがれの虚言あるのみ。彼は最早獨立
自由の人にあらざ。低頭平身して憐憫を請ひ一時を纏繞す。突如として鬼の
如き執達吏來り。猛鷲の毒爪に攫み去らるゝが如く呆然として爲す所を知
らず。只管走りて友人或は親戚に泣付く。されど體好く謝絶せらる。是に於て
彼は高利貸の前に平身低頭す。万一成功せば彼は唯織かた虎口を脱し得べ
し。而して其究極する所知るべきのみ——恐らく疊の上にて死ぬること難
からん。

人は負債を峻拒し得るか。負債に伴ふ敗徳を避け得るか。債鬼を近づけず
獨立を維持する方法如何。唯一策あり「分相應の生活是れなり。然れども不幸
にして近時此良策世に行はれず。我等は未來を當にして借財す。我等は金錢
浪費の誘惑に抵抗し得ざるなり。或る者は家財道具に數寄を凝らし。家賃の
高き邸宅に殿様然たらんを願ひ。或る者は芳醇に酔ひ。演劇の棧敷に外見を
張らんと欲し。或る者は盛宴舞踏音樂會に四隣を驚かさん。望む資力あり
ての上ならば誠に結構なれども。之が爲めに借財するに至りては。恕すべか

らざるなり。肉屋、酒屋等に借りて、支拂も出来ざるに、徒らに人を招きて馳走するは、豈に陋劣なる心事にあらずや。
收支相償はざる奢侈風の生活及び今日の贅澤を満足せん爲めに、次の週間又は翌年の収入を抵當にするは、人の爲すべき道にあらず。我等が未來を見越す負債の全系統は有害なり。貸す人にも罪あれば、借る人も同罪なり。必要ある毎に現金を支拂ふ人は、自己の眞價を知れる者なり。彼は収入の範圍内に満足して、未來の必要に應ずる爲めに、浪費を省きて、貨殖の途を講ず。彼は常に收支を計算し、現金にて物品を買ふが故に、年末の勘定に、支出超過を見ることなし。

通帳主義

然れども、一度彼をして、通帳——或は仕立屋、或は呉服屋、或は米屋、或は小間物屋、或は魚屋、牛肉屋の如き——の便利を知らしめんか、彼は止まる所を知らずして、次第に借財の山を作る。道路は彼の爲めに平坦にして愉快なり。支拂の目途もなきに、欲するものをして家に運び入れられざるはなし。然れども、それは總て彼を困らすものとなる。年末掛取の來る時、彼は書出しを見て

愕然、色を變じ、狼狽爲す所を知らず。是に於て、彼初めて、後悔先に立たざるを知る。

小貸附會社

貧民社會に於ても異なる所なし。小商人及び貧民一般の危急に應じて、金錢の融通を目的とせる、小貸附會社法案が議會を通過したるは、僅に數年前の事に屬す。細民は、此法案を歓迎したり。貸附會社は、勞働社會が負債を作し、未來の勤勉を抵當とするに、便利なるものなり。苟も、貨殖に長ずる者は、貸附會社に到りて、一週間賦拂ひにて、五分利の金を借らんとは爲さざるべし。勞働社會は、負債を作すに、輕便なるが故に、之に向つて、隨喜渴仰の涙を流せり。或る者は酒代に、或る者は呉服代に、又或る者はボン／＼時計に、金錢の必要を感じ、而して、彼等は貯蓄する代りに、直ちに貸附會社に走りて、其金を得、債務の消滅するまで、困難と窮乏とに苦しむ。斯の如きは、其日稼ぎの生活にも劣れり、命懸けの生活なり。

貸附會社に關係せる人にして、財産を作りたる者ありや否は、火を賭るよりも明なる問題なり。假りに、五分の利にて、三ヶ月間十磅を借りたりとせよ。

一週間賦拂ひなれば、一週間に十志シづ、拂ひ込めば可なり、拂込みは翌週より始まる。債務の消滅するまで、毎週十志を支拂ふは容易なりとするも、満期までの五分の利子は容易ならざるものなり。勿論五分は相當の利率なりと雖も、満期までには、積もり積もりて、實に十割即ち元金と同様の額に達す。絞り取らるゝとは實に此等の謂ひなり。

天才と負債

天才の人も、同じく負債に走り易し。天才と節儉と、或は天才と自制とは兩立せず、又天才は算盤勘定に拙なり。天才の人は屢々、ペーコンの所謂、實務の才に勝る。然れども、ペーコン其人は、言行一致せざる人にして、不注意の爲めに、其末路甚だ憫むべきものありたり。彼は青年時代に、窮乏を極めしが、長じて愈々甚しかりき。彼は甚だ奢侈を好み、故に其莫大なる収入は、悉く負債の爲めに、他の手に渡りて残る所なし。一日ペーコン、常の如く官衙に至る。部下は、ペーコンの出頭を待てり。ペーコン曰く、「諸子、請ふ着席せよ。諸子の起立は予の落下なり」と。彼は活計の不如意を補はんが爲めに、勢ひ收賄度重なり、遂に敵の暴露する所となり、官を罷められ、落魄其極に達し、憫むべき最後を

遂げたり。

國家の財政に非凡の伎倆を有する人にして、一家の經濟に拙なる人あり。大政事家ピットは、英國空前の國難に身を挺して、國家財政の難局に當り、名聲中外を歴したりしが、彼自身は常に負債に苦しみたり。前英蘭銀行總裁カ・リントンリントンは、ピットの懇望によりて、其家政整理の任に當ること再三なりしが、肉屋の書出を見るに、肉の量一週百斤以上に達せることを發見したり。雇人の俸給、家賃、生計費等一切を合すれば、一年二千三百磅を超過したり。ピットの死後、英國國民は其功勞に酬ふる爲め、義捐金四万磅を募りて、債權者に支拂ひたりと云ふ。而して彼の収入は、毎年六千磅を下ることなかりしなり。一時五港長官ヘスチングス、ロムニー、ハイズ、ドウバー、サンドウキッチの五港を兼ねたる時には、四千磅以上の別收入ありしなり。マコーレーが「ピットにペリクレス及びデウイットの清廉ありしが、若し之に兼ねるに、更に彼等の節儉を以てせば、彼の品性は更に一層高かりしならん」と浩嘆せしもの、偶然にあらざるなり。

然れども、豈嘗にピット一人に限らんや。メルヴァイル卿も、其家政に、其國家財政の手腕を有せざりき。政治家フオックスは大借財家なりき。人間は十分負債償却の意思だにあらば、決して金錢の缺乏に苦しむに及ばず」とは、其主義なり。されば、彼は屢々猶太人の金貸より、非常なる高利の金を借りたり。博奕を好むことは、彼の一大缺點にして、之が爲めに、少壯時代既に巨額の負債を有したり。ギッポンの言ふ所に據れば、フオックスは、或る時二十時間の一六勝負に、壹萬壹千磅を失ひたりと。然れども、當時上流社會には、詐偽賭博流行し、其奸手段を看破する者あらざりしなり。セルウィンは、フオックスの賭博の失敗を聞き、「仁者チャールズ」と言ひて、彼を嘲りぬ。

シエリダンは、負債家の巨孽なり。彼は終始負債を以て生活したる人なりき。彼は或る方法に依りて、巨額の金を手にせることありしも、其如何になりしやを知る人としてはあらざりき。蓋し、彼は何人にも負債を償却したることなければなり。幾千萬圓の金も、彼の手中に入る時は、忽ち夏の雪の如く解け去りしものに似たり。彼は僅々六週間の湯治中に、先妻の財産千六百磅を費

消し盡くしたり。必要は彼を文壇に投じたり。而して「ゼライバルス」其他の脚本は、其金に窮したる結果なりしなり。後妻を娶りて五千磅の財産を得、ドルワリー、レインの株券を賣却して、一萬五千磅を得、之を以てサーレーに邸宅を買ひ入れしが、是れより、彼は終身債鬼に責めらるゝ身となりたり。是に於て、背に腹は代へられぬの諺に洩れず、金を作り債鬼を追拂ふ爲めには、如何なる狡猾手段をも辭せず、恬然恥ぢざる不義漢と化した。劇場主テラ、常に人に語りて曰く、「途でシエリダン君に遇うて帽子を脱れば、五十磅に値ひし、立ち止まつて話をすれば、百磅に値ひす」と。以て其全豹を窺ふに足る。

一日、債権者の一人、馬に乗りて催促に來れり。シエリダン曰く、

『良い馬だね。』

『さう思ひますか？』

『いかにも、……脚は何うですか？』

債権者は得意の色を面に表はし、是れ見たまへと言ひ捨て、疾風の如く馬を駆けらしけるが、其間にシエリダンは横町へ外れて、何處ともなく、姿を隠

したり。債鬼は毎朝彼の外出前を見計らひ、幾十人となり、どや／＼と押懸け来る。兩側の各室は、皆彼等の探索に任せらる。シェリダンは、朝飯を喫し了りて出て来り。

『ジョン、室は皆鍵をかけたらうねエ？』と家僕に訊ね、確めたる上にて、悠々債鬼の間を通り抜けて出て行きぬ。

彼は、牛乳屋にも、雜貨店にも、麵包屋にも、肉屋にも、到る處に負債ありたり。妻君が、珈琲、牛酪、鶏卵等の使ひに出でたる下婢の歸りを待つこと一時間以上、に及ぶは、敢て珍らしきことにてあらざりき。シェリダンは、海軍省の會計課長たりし時、一日肉屋は、羊の脚を臺所に持ち來れり。料理人は、それを受取り、煮る爲めに鍋の中へ押込み、代金の請求にとて奥へ入りしが、復た出て來らざることを多時なりしかば、肉屋は鍋の蓋を開けて羊肉を取り出し、再び携へて出て行きしと云ふ奇談あり。家政の紊亂斯の如く甚しきに、猶ほシェリダンは、其子と共に郊外に出づる時は、常に二輪馬車と四輪馬車とを駈り、自ら其一に乗り、其子トムは、第二の馬車にて彼に續けり。

されど、彼の末路は、慘憺たるものなり。死する前數週間、彼は殆んど食料を得るの道なきに苦しみぬ。友人は、全く彼に近づかざりき。裁判官は破産を宣告して、財産全部に封印し、彼は執達吏の看守中に、其最後の數日を過せり。動かせば死を早むとの醫師の診斷に依りて、彼は特別の恩典に浴し、纒かに入牢を免れたるなりき。

佛國の高僧デレンスは、負債償却の爲めに、財産を悉皆賣拂ひしが、尙ほ足らざる所ありたり。彼は負債家の絶えざる心配を自白し、債鬼に責められんよりは、ワインセンヌの獄裡に幽閉せらるゝ方算に勝れりと言へり。有名なるミラポールの生涯は、負債の絶え間なき生涯なり。そは彼が非常の贅澤家なりしに因る。彼は父の助けに依りて國王の宸翰を得、以て纒かに虎口を免れたり。彼は國家の大權を掌握して、飛鳥を落すの勢ありしも、末期は甚だ貧なりき。仕立屋に、結婚式の衣裳代の滞りありし一事を見ても、其如何に贅澤なりしやを知るに足る。

文豪ラマルチンは、破産すること前後六回、而して其末路は、救恤金の寄附

を暮らしほどに、憫むべきものなりき。彼は算術を憎むこと蛇蝎の如く、犬膽にも『凡ての高尙なる思想の邪魔物』と言へり。彼が生活の爲めに恬然として不正なる狡猾手段を弄したる、亦異とするに足らず。彼は『文學の趨勢』を著して、一ヶ年に二十万フランクの収益を得たりしが、其金は水銀の如く四散して手中に留まらざりき。其負債は三百万フランクに達せりと云はる。豈に驚くべきにあらずや。而して之が爲めに、其生活風を變ずることあざりき。ラマルチン崇拜家の一人、ラマルチンの財産買収を企てしが、一日鰈一尾を求めんとて魚店に到る、價甚だ廉ならず。偶々風采堂々たる一紳士來り、魚店の前に立ち止まり、少時鰈を見てありしが、やがて代價をも尋ねず、自宅に送り届けよと命じて去れり。こは別人ならず、ラマルチン其人なりき。

米國の政治家ウエプスターも、金錢に毫も愛着心なく、豪奢を極めしかば、常に窮乏に苦しみたり。セオドル・バークハートの言に據れば、ウエプスターは、ベコンの如く收賄したる形跡あり。彼は負債を作して、償却することなく、負債に負債を重ねたり。出所の不明なる金の其懐に入ること度々なりき。……

ウエプスター

合衆國元老議員たりし頃、彼はボストンの工業家より恩給を得たり。彼の最近の演説は銅臭紛々たるものあり。『大統領モンロー及びセファーンソンも常に貧にして、負債を作すこと度々なりき。然れども彼等は清廉の君子なり。現今、公人の生活は、動もすれば奢侈に流るゝの弊あり。彼等の収入は豊かならず、されば、節儉を旨とすべき筈なり。寧ろ貧しきが當然なり。然るに、中流社會に活動せる彼等の多くは、身の程知らぬ慮外者なり。柄にも無き體裁を飾りて、世に媚びる不所存者なり。斯くて彼等は負債に首も廻らぬ始末となりて、負債の餘弊たる面倒苦勞、詐僞、不正の渦中に引込まるゝなり。

學者と貧

學者は社交界の花形役者にあらざるが故に、借財家の例に乏し。學者は大概貧乏なり。然れども彼等は常に収入の範圍内にて活計を立てたり。天文學者ケプレルの生涯は、實に貧乏と負債との戰爭なり。こは數學の主任として、日耳曼皇帝に奉侍せしも、俸給常に不拂勝ちなりしが爲めに、已むを得ざる事情と謂ふ可し。故に彼は餘儀なく、星占を以て、緩かに糊口の資を得たり。其時書を某に寄せて曰く、『予は金満家の門に立ちて憫みを乞ひつゝ、予の

時を過す」と死する時、赤貧洗ふが如く、金貨二十二クラウン、平常服一着、シヤツ二枚、書籍若干冊及び多くの原稿あるのみなりき。ライブニッツは、巨額の負債を遺して死せり。然れども、こは彼が純然たる哲學者にあらずして、政治家を兼ねたるが故にして、彼は屢々出て、國外に使ひし、外交界に活動したり。

スピノザは貧なりき。然れども、眼鏡師の依頼を受けて、硝子を磨き、以て糊口の料を得、負債を作すことあらざりき。彼は大學に教授たることを拒み、恩給金の下賜を謝絶し、貧に安んじて自立したる氣骨漢なり。生理學者ダルトンは極めて金錢に無慾なり。マンチエスターの市民等彼の貧窮を憫み、彼が獨立して、餘生を學問の研究に委ぬるに足るほどの資を與へんとす。ダルトン謝して曰く、「教授するは予に取りて保養なり。予若し今日よりも富まば、今日の如く、研究に従事するを得ざるべし」と。ファラデーの生涯も、貧窮と獨立との好例なり。佛國の天文學者ラグランジは自ら其成功と幸福とを父が貧乏の餘德なりとなし、「予にして財産家なりしならんか、恐らく數學者となる

美術家と
負債

こと能はざりしならん」と曰へり。
學者社會の第一の負債家は、解剖學者ジョン・ハンターなり。彼は其ハンター博物館の爲めに、家産を傾け、収入を盡くし、借財を作れり。死後遺族は憫むべき境遇に陥りしが、ハンター博物館は、一万五千磅を以て賣却せられて國有となり、遺族は之に依りて、負債を償却し、且つ同時に記念碑を建設するの餘裕ありたり。
有名なる美術家は、概ね貧困と云ふ難局を切り抜けて、成功の榮冠を戴きし人なり。而して、一生貧苦を免れざりし者も亦尠からず。然れども、こは重もに不經濟の結果なり。ジャン・スチーンは酒癖の爲めに、財囊常に輕かりき。彼は素と醸酒を業とし、後酒店を開き、終始酒に縁ある人なりしなり。彼は酒を飲みつゝ、晝くを常とし、酔後の筆勢特に見るべきものあり。常に負債に苦しみしが、死後其聲價俄然として揚がり、今日に於ては、其晝の價は、晝の重さの金貨に當れり。
マンダックは莫大なる収入を有せしも、奢侈贅澤なりしかば、絶えず借財

の重みに苦しむたり。是に於て、初めて眼が覺め、一度棒に振りたる身代を取戻さんとて、一時練金術を研究し、古來如何なる物をも黄金に化するの力ありと云ひ傳へたる仙丹の發見を僥倖せんと期したり。貧すれば鈍するとは、當に此謂ひなるべし。然れども、晩年貨殖の途に汲々たりしかば、稍々餘財を貯へ、死後相當の遺産を寡婦に與ふることを得たり。レンブランドの負債は素と美術道樂に起因するものにして、大に趣を異にせり。彼の古畫道樂骨董道樂は、殆んど狂的にして、破産するまでに至れり。彼の財産は、死後十三年間裁判所の保管する所なりしと云ふ。

伊太利の
美術家

伊太利の有名なる美術家は概ね節儉家なり。ヘードンの自傳に曰く、「ラフェール、ミケランジェロ、ツルクシス、アペレス、ルーベンス、レイナルド、カッヂ、チ、アシ等は、富有にして幸福なりき。何となれば、彼等は天才に加ふるに、貨殖の道に長じなればなり」と而して、ヘードン其人は、反對の一例にして、彼の生涯は、困難と負債との間斷なき戦なり。辛らびて一口の借財を償却するやせざるに、早くも他方面に借財を生ずと云ふ有様なれば、借財と縁を切ることは、到

底彼に望むべからざる所なりき。モック、エンクシオンと云ふ畫は、彼が負債の爲めにキングスベントの獄に在る頃畫かれたるものなり。彼の日記に奇なる一節あり。曰く、「本日牛酪屋ウエツプに十磅を借る。ウエツプは二十四年前、サテシヨージビウモント君の紹介にて、予の門弟となりしが、感ずる所ありて、斷然志を變じ、目下牛酪商を營める者なるが、舊師の恩を忘れず、十磅を融通し呉れたり」と。ヘードンの自傳は、狀師及び執達吏との對談口論を以て満たされたり。債鬼は朝夕疊を叩いて詰め寄りしなり。其記に曰く、「ラザルス」の頭は出獄後に成り、エトクレスは出來上らざる中に抵當となり、ゼノーフォンの顔は、平身低頭兎角して辯護士を追ひ返したる後、午後、の作にして、カサンドラの顔は名狀しがたき煩悶中に畫きたるものなり」と。

古代詩人

カウパーは、平素詩人は、奢侈なる者なりとて、其贅澤家なることを自畫自賛せり。彼は清閑の生活に似ず、惜氣もなく、金錢を浪費して、豪奢四隣を驚かせり。「心利きたる支配人の補助により、經濟主義を取りて、一ヶ年分の收入を三ヶ月間に費消することにした」とは彼の手記する所なり。詩人に浪費家

多きは勿論なりと雖も、空前絶後の大詩人シェイクスピアは節儉家なりしことを忘るべからず、彼は用を節し、費を省き、以て家族の爲め、死後の準備を計りたり、然れども、沙翁^{シェイクスピア}時代の詩人は概ね負債家なり、ベンジョンソンは屢々窮乏を告げ、或る時の如き、僅に二十志^{シヤク}を借る爲め、ヘンスローに泣き付きたることすらあり、斯くても、尙ほ彼は、メルメイドの酒肆に入りて、夜毎、酒の香に酔ひ、財布の紐を緩めたり、マッシンチャイも、亦此酒肆の掛取に見舞はれて、器量を下げたること度々なりき。

グリン、ピール及びマローは、放蕩にして、哀むべき末路を遂げたり、マローは醉漢の喧嘩中に殺害せられ、グリンは、淫逸放蕩の結果、不治の病を得、死の床に横はりし時、下宿の主人たる靴屋に、十磅の償却を嚴談せられ、友人ピールに情を明かして無心を申送れり、然れども、ピールも亦彼の如く、身代限りの處分を受けて死したる人なり、ラレーに寄せたる最後の無心状を見れば、其落魄の状を想見するに足る、「長き病苦の爲めに弱り果て、恥も外聞もあつたものに無之候。」スベンサーは、親戚故舊に見放され、落魄して末路

を汚しぬ。ベンジョンソン彼の最後を記して曰く、「彼はキング街にて、麵包の缺乏の爲めに死せり、彼は、我エセックス侯の恵みたる三十磅を固辭して受けざりき、氣の毒にも、彼は此金を費ふだけの餘命を有せざりしなり」と。

近世の詩人文學者中にて、ミルトンの末路は、負債こそなけれ、甚だ憫むべきものなり、ラヴレイスは、牢死し、『ヒウダイブラズ』の著者バッドラーは、ロトズアレーに餓死せり、此地は、ドライデンが暗殺せられたる處なり、オトウエーは、タワールヒルに僭伏せる處を捕吏の爲めに縛られぬ、彼は最後に、一紳士に「志^{シヤク}を無心せしが、其紳士は彼の落魄を憫み、快く一ギニーを與へぬ、是に於て彼は、飢を治せんが爲めに麵包を求め、一口食ふと忽ち咽喉に問へて其儘息絶えたり、グイッチャーレーは、負債の爲めに、獄中に呻吟すること七ヶ年なりしが、能く八十の長壽を保ち、疊の上にて死せり、フキールデンが青年時代の奢侈放蕩は、忽ち酬ひ來りて、終生免れがたき困苦となり、落魄流轉異郷に妻子を残して死せり。

サヴェーチは、五十磅の年金を數日間に浪費するを常としたり、其頃、金の

笹縁したる猩々緋の外套流行したるが、一日ジョンソン途上に、サヴェー
に遇ふ。時偶々年金を受領して間もなき折なり。見れば、サヴェー
行の外套を被り、足には指尖の覗き出でたる破靴を穿ち居たり。放蕩不羈斯
の如くなりしが故に、遂に債務を怠りて獄中に投ぜられ、居ること六ヶ月に
して死せり。ジョンソンのサヴェーの傳の結末に曰く、「この傳記は、など世を
裨益することなくてあらんや。己が非凡の才藝を鼻に懸けて、人世の常則を
無視せんと欲する者は、用意の必要なることを知らずして、不注意と不規則
とに慣るれば、學問ありても益に立たず、才子も徒らに世の物笑ひとなり、天
才も侮らるゝものなることを心に記せざるべからず」と。

スターンは、身代限りまでには至らざりしも、落魄を極めたり。死後、彼の妻
と娘との救恤費、精金募られたり。チャールは負債の爲めに入牢の身とな
りしが、固より放蕩と贅澤との酬ひなり。カウパ、彼を評して、「金錢の浪費者
にして、機才の濫費者」と言へり。チャタートンは、落魄失望の餘り、十八歳の
時、自ら毒を仰いで死せり。サア、リチャード・スチールは、負債を拂ひたること

スチール
とゴース
トスマス

なき人なりき。彼は多くの點に於て、性情品性シエリダンと伯仲の間に在り。
彼はなかくの策略家にして、一攫千金の投機を好み、以て万一を僥倖せん
と欲したり。債權者執達吏の迫ること絶間なかりしが、信用の續く限り、縋り
なく贅澤を盡くしたり。遞信省に奉職中、官も高からず、俸給も少なきに、悠然
二頭曳の馬車に乗りて登省し、時には四頭曳の馬車を驅ることもありたり。
而して、倫敦とハンブタンとの二ヶ所に邸宅を構へ、豪奢王侯を凌げり。彼の
収入は、固より斯の如き奢侈なる生活を支ふるに足らざれば、忽ち大なる負
債を生じ、裁判所の召喚、拘留に遇ふこと度重なりたる末、遂に破産の宣告文
を門前に張り付けられ、家財を公賣せられ、妻は、尋常生活の日用品にも事缺
きて、返らぬ昔を怨みぬ。然るに、スチールは、毫も狼狽の色無く、一大幸運の天
より落下することを期待せり。彼の立派なる計畫の一は、生魚の潑刺たるも
のを、倫敦市場に輸入することなり。彼は是によりて、奇利を夢想し、妻に向ひ
て、「今にも前は、英國の何の貴女よりも幸福になりませう」と言ひしが、スチール
の運は遂に開かずして、昔に返る由もなく、纔かに、ウエールスなる妻の僅か

なる財産に依りて露命を繋ぎ、落魄を極めて病歿せり。

ゴールドスマイスも、輕卒なる借財家の一人なり。彼は負債の海を游泳し、漸く這ひ上りたりと思ふや否、又忽ち身を躍らして負債の中に飛び込み、愈々深みに陥りぬ。田舎教師となりて、初めて得たる俸給を以て、一頭の乗馬を購ひぬ。浪費も亦甚しい哉。親戚等五十磅を與へ、彼をして法律研究の爲めにケンブリッヂ大學に遊學せしめぬ。然るに彼は、未だケンブリッヂに到らず、途中ダブリンに足を停めて、財布の底を叩きぬ。其後醫術研究を志して、エディンバロに遊學せしが、一友人に不義理の借財を生じて、遂に逐電し、其れより彼は一竿の横笛を携へ、無錢歐洲漫遊を企て、行く行く笛を吹奏して人の憫みを乞ひ、流浪數年、遂に行く時の如く、無一物にて英國に舞ひ戻りぬ。歐洲到る處として、我負債あらざるはなしとは、彼が屢々人に語る所なりき。

相當の収入ある身となりし後も、ゴールドスマイスは尙ほ借財を有したり。彼は右手に錢を稼ぎ、左手に吐出したるなり。牛乳屋に債られ、家賃の滞りを催促せられ、狀師に脅迫せらるゝも、彼は尙ほ依然として、經濟學を學ばん

とはなざざりき。有名なる『ザイカー・オブ・ウェークフィールド』の第三版が出版せられたる當月に、彼の振出したる十五ギニーの手形が不渡りと云ふ汚名を被りて、舞ひ戻り來りしを見れば、其狀を想見するに足らん。ボスウェルの宴會に、彼の所謂『繻子の筐縁』したる毛織物の上衣に、花色の股引は一座の眼を側てしめたるが、死に至るまでも、其代價は、裁縫店に支拂はれざりしなり。

榮達ば彼の困難を減ずることなく、却つて益々大ならしめたり。収入愈々多ければ、浪費愈々多く、自己の放恣も、他人の放恣も、之を拒むこと能はざりき。彼は一ギニーを借りて、之を乞丐に與へ、背中より衣を脱ぎ、寐床より毛布剥ぎて、惜む色なきなり。彼は宋襄の仁者なり。此思慮なき入費を作る爲めに、彼は著書の出版を書肆に豫約して、原稿料を前取りし、而して、約束の書に筆を執らんとは欲せず、其儘に放棄するを常とせり。書肆の迷惑も亦大なる哉。彼は明日を慮る人にあらざりき。されば、彼は貧より出て、貧に死せり。死する時、二千磅の負債ありたりと云ふ。ジョンソン曰く、『未だ曾て斯の如く信用あ

る詩人あらず」と。

以上ゴールドスマス、其他の場合、世の短見者流が常に以て天才迫害の實例となし、文學者、美術家の處世に短なるの證明となす所なり。彼等絶叫して曰く、社會は宜しく天才を寛容すべく、政府は須らく天才を保護すべしと。然れども、社會及び政府が天才の爲に努むること如何に大なりとも、天才其人が能く自重し、節儉するにあらざれば、何等の効果もあらざらん。吾人はゴールドスマスの窮乏に同情を表するに吝ならずと雖も、其弱點を指摘するに憚らざる者なり。十四年間に於ける彼の収入は實に八千磅の巨額に上れり。當時の八千磅は、今日にては、當に十數倍の價值あるべきものなり。彼は『地球及び動物史』にて八百五十磅の原稿料を得たり。而して此書は、巧妙なる編纂といふべきものたるに過ぎず。ジョンソンが『彼が動物學上の智識の程度は、唯牛と馬とを説くに足る』と評したるは、正鵠を失はざるなり。其『君子』の原稿料は五百磅なり。其他の著述の原稿料も概ね大同小異なり。彼の聲價は、ジョンソンと伯仲の間に在りしも、ジョンソンの眞面目と克己と自重とを缺

きたり。

ゴールドスマスの忠告

然しゴールドスマスも眞面目なる時には、踏むべき正路を知りしが、唯之を追ふの勇氣なかりしなり。見よ、彼は其兄ヘンリーに書を寄せ、其子の前途に就きて老婆心を呈して曰く、『令息に能く貨殖と節儉とを教へ成さるべく、決して放浪せる叔父の例を彼の眼に示さざるやう望ましく候。小生は經驗上、謹慎の必要を知りし前に、業に已に書物より無慾と豪俠とを學びたる次第に候。狡猾の近路を歩む間に、小生は何時の間にか、哲學者の習慣と主義とを形づくり、金も無き癖に、任俠を事としたる爲めに、德義を忘却して自ら我恩惠に感謝したる貧困者の地位に陥るに至り申候。』

パイロンの負債

パイロンは丁年未滿にして、既に負債に累れぬ。其二十歳の時、ベイチャーに寄せたる書狀に云ふ『極秘密に申上げ候へば、小生は墮落致候て、二十一歳に相成候までには、負債、屹と總額九千乃至一万磅に上るならんと被存候。』二十一歳の時、ニウステッドの邸に於て、一大賀宴を擧げたり。其盛大なること、今猶ほ天下の耳目に新なる所なるが、其費用は全く高利の借金なりと。彼の困